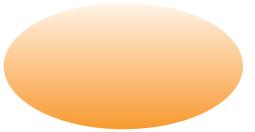


愛媛大学 沿岸環境科学研究中心年報



CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



第4号 2003年

**愛媛大学沿岸環境科学研究中心
年 報**

(第4号)

2003年

まえがき

本年報は、沿岸環境科学研究センター（CMES）の平成14年度における研究、教育活動や社会的活動のほぼ全容をまとめたものです。CMESはこれまで様々な発展を遂げてきましたが、4年目となる14年度には発足以来最大級の出来事がいくつかありました。

まず特記すべきことの第1は、CMESを中心とする「沿岸環境科学研究拠点」が平成14年度の21世紀COEプログラムに採択されたことです。同プログラムは、我が国の大手に世界最高水準の研究拠点（COE：Center of Excellence）を学問分野別に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、特定の選定された研究拠点に重点的な支援を行い、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進する目的で平成14年度よりスタートした制度です。本拠点は、四国で唯一採択されたことでも話題となりました。本拠点の内容は、既にCMESニュースと合併して発行しているCOEニュースやCMESのHPでもご紹介していますが、「コアプロジェクト1：内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明」と「コアプロジェクト2：地球環境変動による沿岸域生態系変動機構の解明と将来予測」の2つのテーマの研究を推進していくこととしています。これらのうち、コアプロジェクト1は「生物環境試料バンク」を基盤として有害化学物質に関する世界最高水準の研究を展開することを目指したもので、生物環境試料バンクとは、CMESの所有する野生生物や土壤、海水などの環境試料を体系的に整理するとともに今後も試料収集を推進して、CMESのみならず学外の研究にも提供するための施設です。これらの試料は、CMESの生態環境計測分野が、センター設立以前の農学部農芸化学科農芸分析学研究室時代から40年以上にわたり、世界の各地から収集してきたもので、冷凍保存されているこれらの試料は約3万点にもおよび、世界にも例のないコレクションになっています。同バンクを基盤としたこの構想は、21世紀COEプログラムにおける本拠点の採択理由の中でも高く評価されています。CMESでは、平成14年12月に規定を改正し、組織としての生物環境試料バンクを正式に発足させました。現在CMESでは、これらの試料の公開に向けて過去の膨大な試料の体系的整理を進める一方で、バンク試料を用いた外国の機関との共同研究などもすでに開始しています。また、コアプロジェクト2は、今後予想される地球規模の環境変動により沿岸生態系がどのように変動するかを解明しようとするもので、CMESにとって包括的なテーマであり、環境科学全体にとってもきわめて重要なテーマです。本拠点では、平成11年度に佐田岬に設置した栄養塩自動観測システムによる沿岸環境の長期変動モニタリングを基盤として関連研究を展開することとしています。

特記事項の2番目は、CMESの建物が14年度末に完成したことです。この建物は、理学部構内に完成した「総合研究棟1」で、生態系解析分野をのぞくCMESの3分野が、理学部の一部と平成13年度に発足した地球深部ダイナミクス研究センターとともに入居しています。スペースの関係で総合研究棟2に入居している生態系解析分野とは別になりましたが、理・工・農学部に間借りして分散していた状態が大幅に改善され、学際的連携により研究を推進していく体制が整いました。

21世紀 COE に隠れてしまいがちですが、14年度にはその他の研究プロジェクトでも様々な進展がありました。中でも科学研究費では、基盤研究Aが継続分2件に加え新規に2件採択されました。こうしたプロジェクトの多くは、CMES の学際的連携を基盤としたものであり、21世紀 COEとともに学内の研究の重点化戦略の大きな成果であるといえるでしょう。

CMES の設立目的の一つに地域社会への貢献がありますが、この面でも14年度はさらなる進展がありました。昨年度の年報でもご紹介しましたが、CMES では愛媛県と協力して宇和海沿岸に衛星通信式水温計を配置し、インターネット上に水温データを公開しています。このシステムは、平成11、12年度に CMES が愛媛県と共同で行った大規模な宇和海環境調査の報告書で提唱された水産振興方策の一つです。13年度までに、宇和海沿岸に5基の水温計を配置していましたが、CMES では14年度に2基を追加配置し、現在7測点の水温を公開しています。この宇和海水温情報システムは、大学評価・学位授与機構による全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」において、特に優れていると評価されました。さらに、15年度には愛媛県漁業協同組合連合会が既に設置している多層水温測定システムの情報をこのシステム上で公開する予定です。県漁連の水温計は海面下60mまでの9層の水温が測定できるため、宇和海の環境に重要な影響を及ぼすことが近年明らかになってきた「底入り潮」の情報も得ることができ、水産関係者から大きな期待が寄せられています。

以上、平成14年度の CMES における主な出来事についてご紹介しましたが、何といっても今後の CMES のあり方を大きく左右するのは21世紀 COE プログラムです。同プログラムに採択されたことにより、CMES は今後世界的研究拠点として発展していく極めて大きな責務を果たしていくことになりました。幸いにして、同プログラムの経費により、ポスドク研究員や研究支援スタッフを非常勤ではありますが雇用できることになり、現在多くの若手研究者（1. 1組織、参照）が CMES に集い、日夜研究に励んでいます。CMES 教員一同、こうした若い人たちと力を合わせ、COE 拠点形成事業の推進に向けて邁進していく所存です。関係各位には、今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月

愛媛大学沿岸環境科学研究所センター

センター長 武岡英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1. 1 組 織	4
1. 2 各分野の概要	5
2. 研究者要覧	7
3. 研究プロジェクト	14
3. 1 科学研究費等	14
3. 2 学内研究費	16
3. 3 共同研究	17
3. 4 受託研究	18
3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等	18
4. 研究成果	20
4. 1 著 書	20
4. 2 学協会誌等	20
4. 3 学内、所内誌等	26
4. 4 一般誌等	26
4. 5 報告書等	27
4. 6 学会発表等	28
5. 学会及び社会における活動	40
5. 1 併任・委員会委員等	40
5. 2 学協会委員等	42
5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）	43
5. 4 学会、講演会などの開催（個人）	46
5. 5 学会賞等	46
6. 國際的活動	47
6. 1 國際研究プロジェクト	47
6. 2 在外研究等	48
6. 3 海外調査・國際学会等	48
6. 4 外国人客員研究員等	50
6. 5 海外からの訪問者	50
6. 6 招聘研究員	51
6. 7 留学生	51
7. 教育活動	53
7. 1 所属学生および研究テーマ	53
7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	56
7. 3 講義・集中講義	58
8. 設 備	62
9. 広 報	66
9. 1 CMES ニュース	66
9. 2 報道関係	67
9. 3 講座、講演会等	69
10. 中島マリンステーション利用状況	71
11. 研究員名簿および業績	73
11. 1 研究員名簿	73
11. 2 研究員業績	74
12. 客員研究員名簿および業績	77
12. 1 客員研究員名簿	77
12. 2 客員研究員業績	79
13. 運営委員会	98
14. センター規程および運営委員会規程	99

1. 総 説



1.1 組 織

センター長：武岡 英隆

環境動態解析分野

教授 : 武岡 英隆
 助教授 : 郭 新宇
 助手 : 兼田 淳史
 教務職員 : 速水 祐一 (工学部環境建設工学科所属)
 研究機関研究員 : 馬込 伸哉 (平成15年4月～)
 COE 研究員 : 小浜 剛 (平成15年3月まで研究機関研究員)
 COE 研究員 : 金 熙容 (平成15年4月～)
 研究支援推進員 : 古泉 統義 (平成15年4月～)
 *事務補佐員 : 北村三千代 (～平成14年11月)
 技術補佐員 : 松本 有紀 (平成14年11月～)

生態環境計測分野

教授 : 田辺 信介
 外国人客員教授 : Annamalai Subramanian (平成15年5月～)
 助教授 : 岩田 久人
 *助手 : 國頭 恭 (平成15年4月から信州大学理学部助教授)
 助手 : 梶原 夏子 (平成15年4月から平成15年6月まで COE 研究員)
 *研究機関研究員 : 金 恩英 (平成14年5月から愛媛県衛生環境研究所)
 *研究機関研究員 : 上野 大介 (平成15年4月から日本学術振興会特別研究員瀬戸内海区水産研究所)
 研究機関研究員 : 久保田領志 (平成15年4月～)
 *日本学術振興会特別研究員 PD : 高橋 真 (～平成14年9月, 平成14年10月から独立行政法人国立環境研究所)
 *日本学術振興会特別研究員 PD : 渡部真文 (～平成15年3月, 平成15年4月から環境総合研究機構)
 *日本学術振興会外国人特別研究員 : Tu Binh Minh (～平成14年9月, 平成14年10月から平成15年3月まで研究機
関研究員, 平成15年4月から愛媛大学農学部助教授)
 *COE 研究補助員 : 島崎由美子 (平成15年1月～平成15年2月)
 *COE 研究補助員 : 新美 聰子 (平成15年1月～平成15年3月)
 COE 研究補助員 : 酒井 大樹 (平成15年4月～)
 COE 研究補助員 : 荒金 玉実 (平成15年4月～)
 COE 研究補助員 : 橋本 純子 (平成15年4月～)

生態系解析分野

教授 : 鈴木 聰
 助教授 : 上田 拓史
 *助教授 : 中野 伸一 (～平成15年3月, 平成15年4月から愛媛大学農学部助教授)
 助手 : 金本自由生
 助手 : 野中 里佐 (平成14年4月から平成15年7月まで日本学術振興会特別研究員)

1. 総 説

研究機関研究員：片野 俊也
COE 研究員：大林由美子（平成15年1月～）
COE 研究員：尾崎 浩司（平成15年1月～）
COE 研究員：五十嵐ありさ（平成15年4月～）
COE 研究員：北村 真一（平成15年3月まで研究支援推進員）
* 日本学術振興会外国人特別研究員：張 伝渕（～平成15年5月）
日本学術振興会特別研究員：伊谷 行（平成15年4月～）
技術補佐員：川井 悠（平成15年4月～）

環境影響評価予測分野

教授：井内 美郎
助教授：大森 浩二
助手：奈良 正和
研究機関研究員：奥田 昇
COE 研究員：伊藤 明（平成15年4月～）
COE 研究員：加 三千宣（平成15年1月～）
COE 研究員：関口 智寛（平成15年4月～）
COE 研究員：宮坂 仁（平成15年1月～）
COE 研究員：吉野 健児（平成15年4月～）
COE 研究補助員：三井 拓也（平成15年4月～）

中島マリンステーション

ステーション長：上田 拓史
技能補佐員：木田 彰（船長・船舶関係）
臨時用務員：木田 悅子

事 務 組 織

総務部研究協力課
課長：小坂 吉美
* 専門員：鎌井 謙一（～平成15年3月）
* 専門職員（研究拠点第一）：中川 庄八（～平成15年3月）
専門員（研究拠点）：小田 真一（平成15年4月～）
事務補佐員：家久 恒美
事務補佐員：中山 真理（平成14年10月～）
事務補佐員：白石 千賀（平成15年4月～）

※ * は転任または退職した職員を示す

1. 2 各分野の概要

環境動態解析分野

研究内容：潮流や密度流などの沿岸海域の流れの実態と、これらと生物生産機構や海洋汚染の機構の関わりを解明することを中心的課題とする分野である。貧酸素水塊や赤潮などの発生機構の解析、養殖漁場の物質循環と環境変動の解析、沿岸域開発に伴う環境影響の解析等に加え、沿岸域の環境変動の長期的モニタリングを行って、地球環境変動に伴う沿岸海域の環境変動の実態や原因の究明と将来予測などを行う。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ数の移動・集積機構の解明

生態環境計測分野

研究内容：内分泌搅乱物質（環境ホルモン）など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質を対象に、海洋汚染の現状と推移、海洋環境における挙動とゆくえ、海洋生態系における蓄積の特徴、生物濃縮機構、毒性影響および毒性発現の機序とその影響評価などについて地域的・地球的視点で研究をすすめ、化学物質のリスクから海洋生態系をまもるための方途を提言する。

主な研究テーマ：地球規模での大気および水質汚染、途上国（とくにアジア）の沿岸海洋汚染、養殖魚場の化学汚染、低次生態系（プランクトンや魚介類）の汚染と生物濃縮の機構、高等動物（鳥類や哺乳類）の汚染と生物濃縮の機構、汚染物質の暴露に反応する生体内分子の検索、毒性発現の分子レベルでの機序解明（内分泌系、免疫系、薬物代謝酵素系）、水産資源がもたらす人体の汚染と健康影響評価、海洋汚染の過去復元と将来予測

生態系解析分野

研究内容：海洋物質循環における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、沿岸・内湾域の動物プランクトンや底生動物を対象生物とした生態と分類に関する研究、海洋における細菌や原生動物などの微生物の食物連鎖およびこれにともなう有機物伝達に関する研究、魚類と藻場の生態学的研究。

主な研究テーマ：海洋微生物の物質代謝に関する研究、海洋微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、動物プランクトンやメイオペントスの生態・分類に関する研究、ナメクジウオの生態学的研究、共生性甲殻類と二枚貝類を用いた種の多様化機構の解明、微生物食物連鎖における生物間相互作用と物質循環、微生物食物連鎖と古典的食物連鎖との相互作用、アイナメ科魚類の生態学、藻場の経時的变化。

環境影響評価予測分野

研究内容：海底及び海底境界層の解析：海底堆積物を研究の主な対象とし、堆積物の分析による過去の環境変遷史の復元と、それに基づいた将来の環境変動による沿岸環境変動の予測、底棲生物を含めた堆積物中の物質循環過程の解明、堆積物の底棲生物への影響、藻場や干潟などの堆積環境の変遷とその生物生産に対する役割の解明及び将来予測等に関する研究

主な研究テーマ：瀬戸内海の砂堆の生態系に関する総合研究、宇和海の環境変遷史解明、中国内モンゴル自治区岱海の環境変遷史解明、バイカル湖の環境変遷史解明、沿岸域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究

2. 研究者要覧



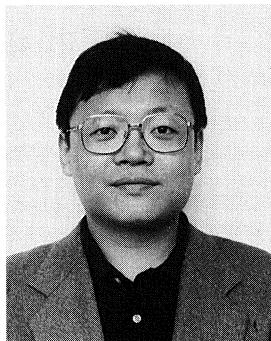
(平成15年8月1日現在)

環境動態解析分野



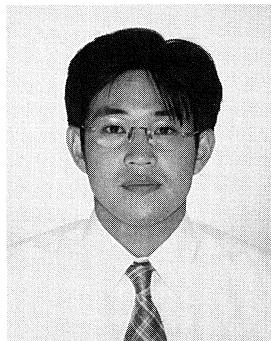
武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

【生年月日】昭和25年10月22日 【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部卒業, 昭和51年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3.瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞 2003年愛媛県政発足記念日知事表彰



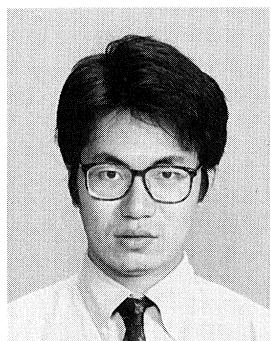
郭 新宇 Guo Xinyu

【生年月日】昭和43年1月22日 【職名】助教授 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 黒潮と沿岸海域の相互作用, 2. 瀬戸内海の海洋環境予測に関する基礎研究



兼田 淳史 Kaneda Atsushi

【生年月日】昭和46年8月7日 【職名】助手 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kaneda@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年3月愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻終了 【学位】平成15年3月博士(理学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 水産海洋学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 宇和海の底入り潮に関する研究, 2. 黒潮が沿岸域に与える影響に関する研究, 3. 栄養塩モニタリング



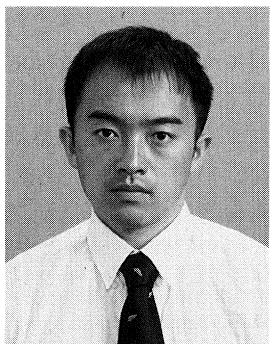
速水 祐一 Hayami Yuichi

【生年月日】昭和42年3月5日 【職名】教務職員 工学部環境建設工学科 【電話】089-927-8997 【FAX】089-927-9846 【E-mail】hayami@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成3年3月京都大学農学部水産学科卒業, 平成5年3月京都大学大学院農学研究科修士課程(水産学専攻)修了, 平成9年3月京都大学大学院農学研究科博士後期課程 【学位】平成9年3月京都大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本陸水学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本水環境学会 【専門分野】1. 陸水学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 湖沼・沿岸海域における流動と物質輸送, 2. 瀬戸内海における栄養塩の分布と時間変動に関する研究, 3. 気候変動が湖沼生態系に与える影響に関する研究 【受賞歴】1999年日本陸水学会賞吉村賞



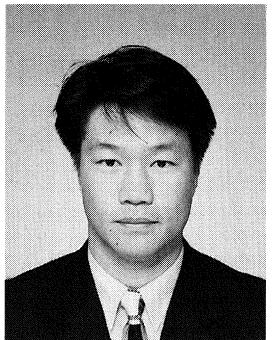
馬込 伸哉 Magome Shinya

【生年月日】昭和49年12月25日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】magome@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月山口大学工学部機械工学科卒業、平成12年3月九州大学大学院総合理工学研究科大気海洋環境システム学専攻修士課程修了、平成12年3月九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月博士(理学)九州大学総合理工学府 【所属学会】1.日本海洋学会 【専門分野】1.沿岸海洋学, 2.海洋物理学 【主な研究】1.貧酸素水塊の流入河川水に対する応答, 2.河川プリュームの循環構造と挙動



小濱 剛 Kohama Takeshi

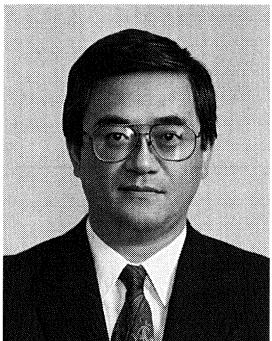
【生年月日】昭和47年2月26日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kohama@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月水産大学校増殖学科卒業、平成10年3月香川大学大学院農学研究科生物資源科学専攻修了、平成13年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成13年3月香川大学農学博士 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本水産学会 【専門分野】1.海洋環境学, 2.海洋生化学 【主な研究テーマ】1.ミズクラゲの大量発生とそのメカニズムに関する研究(特に摂餌生態について), 2.宇和海における海面養殖漁業と水質環境に関する研究, 3.速吸瀬戸における窒素・リンの輸送とその形態に関する研究



金 熙容 Kim Hee-Yong

【生年月日】昭和45年8月10日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kimhy@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年2月韓国釜山大学校海洋学科卒業、平成11年2月韓国釜慶大学校大学院海洋学科修了、平成14年9月東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了 【学位】平成14年9月博士(農学)東京大学 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本水産海洋学会 【専門分野】1.水産海洋学, 2.海洋物理学 【主な研究】1.浮魚類の卵稚仔輸送過程, 2.東シナ海の黒潮前線による流動変動, 3.東シナ海における物理環境要因の長期変動と漁獲量との関係

生態環境計測分野



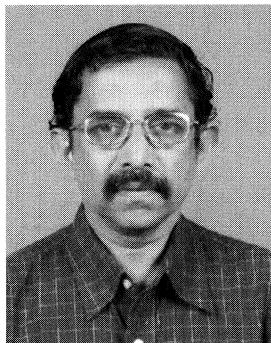
田辺 信介 Tanabe Shinsuke

【生年月日】昭和26年2月21日 【職名】教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務 【電話】089-927-8171 【Fax】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3.日本水産学会, 4.日本農芸化学会, 5.日本極地研究振興会, 6.日本薬学会, 7.日本環境科学会, 8.日本生態学会, 9.日本地球化学会, 10.日本環境化学会, 11.日本比較生理生化学会, 12.日本環境毒性学会, 13.日本BICER協議会, 14.日本鳥学会, 15.日本哺乳類学会, 16.内分泌搅乱化学物質学会, 17.日本化学会, 18.日本微量元素学会, 19.日本海セトロジー研究会, 20.日本ウミガメ協議会, 21.東南アジア国際農学会, 22. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 23. Society for Marine Mammalogy, 24. American Chemical Society

【専門分野】1.環境化学, 2.生態毒性学 【主な研究テーマ】1.有害物質による地球規模の海洋汚染と生態系への蓄積および毒性影響に関する環境化学的研究, 2.内分泌搅乱物質による海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3.内分泌搅乱物質によるカスピ海の汚染とカスピカイアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4.新しい内分泌搅乱物質TCPメタンおよびTCPメタノールによるヒトおよび野生生物の汚染に関する研究, 5.内分泌搅乱物質によるアジア産渡り鳥の汚染と毒性影響に関する研究, 6.内分泌搅乱物質によるアホウドリの汚染と毒性影響に関する研究, 7.内分泌搅乱物質による深海生

2. 研究者要覧

物の汚染と毒性影響に関する研究, 8. マッセルウォッチ:二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 9. 環境化学物質をトレーサーとしたミンククジラの生態解明手法の開発, 10. カツオを指標とした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 11. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 12. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 13. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 14. 内分泌搅乱化学物質による養殖魚場環境の汚染に関する研究, 15. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 16. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 17. 有機臭素化合物等防燃剤による環境汚染と生物蓄積, 生態影響に関する研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞, 1999年3月日産科学賞, 2000年10月 ISI 引用最高栄誉賞



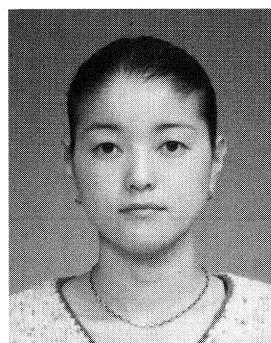
Annamalai Subramanian

【生年月日】1949年1月3日 【職名】外国人客員教授(21世紀COE) 【電話】089-927-8194
【Fax】089-927-8194 【E-Mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月愛媛大学博士(学術), 1982年6月 Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】1. 海洋環境学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



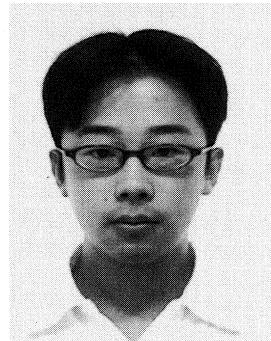
岩田 久人 Iwata Hisato

【生年月日】昭和39年6月2日 【職名】助教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務
【電話】089-946-9973 【Fax】089-946-9973 【E-Mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本環境科学会, 4. 日本環境会議, 5. 日本環境化学会, 6. 日本BICER協議会, 7. 日本環境毒性学会, 8. 日本獣医学会, 9. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による海洋生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 内分泌搅乱物質の暴露に反応する生体内分子の検索, 3. 内分泌搅乱物質による毒性影響の種特異的感受性を決定する生体分子機構の解明
【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology.



梶原 夏子 Kajiwara Natsuko

【生年月日】昭和50年8月16日 【職名】助手 【電話】089-927-8171 【Fax】089-927-8171
【E-mail】natsuko@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了学位 平成15年愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化合物による海洋および陸上生態系の汚染とその蓄積特性に関する環境化学的研究



久保田領志 Kubota Reiji

【生年月日】昭和51年3月26日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】reijik@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了学位 平成15年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本微量元素学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境科学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. ヒトおよび海棲高等動物におけるヒ素の化学形態と解毒機構に関する比較生物学的研究, 2. アジア地域における地下水のヒ素汚染とヒトの健康影響評価

生態系解析分野



鈴木 聰 Suzuki Satoru

【生年月日】昭和31年6月24日 【職名】教授 農学部生物資源学科併任
【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-Mail】ssuzuki@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月 薬学博士北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. マリンバイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 米国微生物学会, 8. 國際微生物生態学会 【専門分野】1. 微生物学, 2. 生態系生化学, 3. 環境分子生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋微生物由来高分子の溶存態への移行過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 海洋コア中の微生物群集の研究, 4. 有機スズ耐性・分解遺伝子の研究, 5. 魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本微生物生態学会論文賞



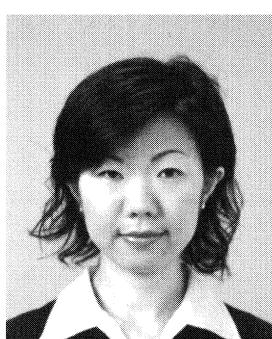
上田 拓史 Ueda Hiroshi

【生年月日】昭和25年11月25日 【職名】助教授, 中島マリンステーション長, 理学部生物地球圈科学科併任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8905 【E-Mail】hueda@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和54年4月 京都大学農学研究科大学院水産学専攻博士課程単位修得退学 【学位】平成5年2月 博士(農学)京都大学 【所属学会】1. 日本プランクトン学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本動物分類学会, 5. 日本生物地理学会, 6. Crustacean Society 【専門分野】1. プランクトン生態学, 2. カイアシ類分類学 【主な研究テーマ】1. 沿岸・内湾・汽水域におけるカイアシ類群集の分布解析, 2. カイアシ類の分類, 3. ナメクジウオの生態 【受賞歴】1999年日本動物学会論文賞



金本自由生 Kanamoto Ziyusei

【生年月日】昭和22年6月20日 【職名】助手 理学部生物地球圈科学科併任 【電話】089-997-1019 【FAX】089-997-1696 【E-Mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月農学博士東北大学 【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本水産増殖学会, 3. 日本魚類学会, 4. 日本ベントス究会, 5. 稚魚研究会, 6. 沖縄生物学会, 7. American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1. アイナメ科魚類の分布生態, 2. アイナメ科魚類の繁殖生態, 3. アイナメ科魚類の生活史, 4. 海草の分布生態, 5. 海草藻場の経時的变化の研究



野中 里佐 Nonaka Lisa

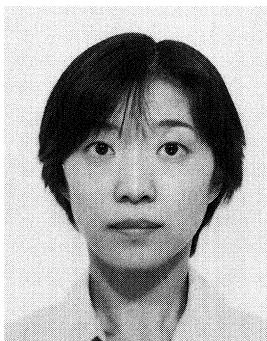
【生年月日】昭和48年8月8日 【職名】助手 【電話】089-927-8551
【FAX】089-927-8551 【E-mail】lnonaka@ualberta.ca 【学歴】平成14年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成14年3月 博士(農学)愛媛大学 【専門分野】微生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋細菌における環境由来DNAの利用機構, 2. 海洋細菌におけるテトラサイクリン耐性の分子機構



片野 俊也 Katano Shunnya

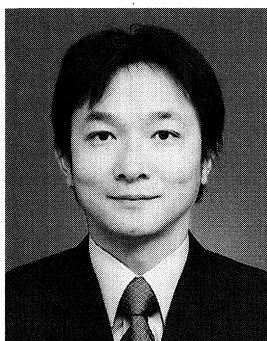
【生年月日】昭和45年9月24日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】katano@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年9月 東京都立大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 博士課程修了 【学位】平成13年9月 博士(理学)東京都立大学 【所属学会】1. 日本陸水学会 2. 日本微生物生態学会 【専門分野】1. 微生物生態学 【主な研究テーマ】1. 海洋沿岸域におけるピコ植物プランクトンの群集構造と環境要因の関係, 2. 湖沼から単離されたピコシアノバクテリアの栄養塩要求

2. 研究者要覧



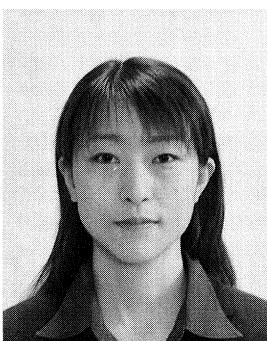
大林由美子 Obayashi Yumiko

【生年月日】昭和47年12月3日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】jojo@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年12月名古屋大学大学院理学研究科地球惑星理学専攻修了 【学位】平成14年12月 博士(理学) 名古屋大学 【所属学会】1.日本海洋学会【専門分野】1.生物地球化学 【主な研究テーマ】1.海洋における有機物の動態



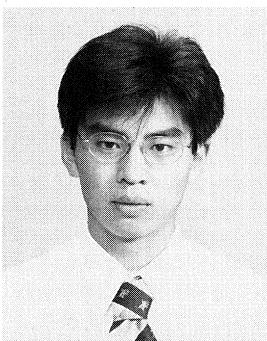
尾崎 浩司 Ozaki Koji

【生年月日】昭和44年10月10日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-Mail】ozaki@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年12月北海道大学大学院水産学研究科水産増殖学専攻博士後期課程修了 【学位】平成8年12月博士(水産学)北海道大学 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本プランクトン学会, 3.水産海洋学会, 4.マリンバイオテクノロジー学会 【専門分野】1.生物海洋学 【主な研究テーマ】1.紀伊水道におけるプランクトン群集の長期変動とその要因, 2.紀伊水道におけるプランクトン群集の季節変動に与える温暖化の影響, 3.有明海の動物プランクトンの分布に与える浮泥の影響



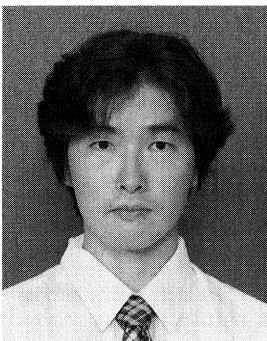
五十嵐ありさ Igarashi Arisa

【生年月日】昭和50年7月7日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】arisa@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月鹿児島大学大学院連合農学研究科水産資源科学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月 博士(農学)鹿児島大学 【専門分野】微生物学 【主な研究テーマ】1.環境中有機スズの魚類生体に及ぼす影響 2.有機スズ分解海洋細菌の分解遺伝子に関する研究



北村 真一 Kitamura Shin-Ichi

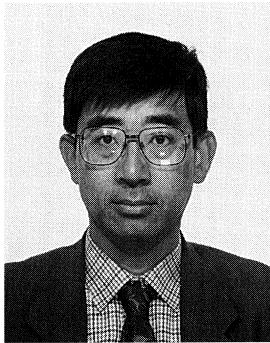
【生年月日】昭和49年4月27日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】kitamura@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月 高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月 博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1.日本魚病学会, 2.日本微生物生態学会 【専門分野】1.魚病学, 2.微生物学 【主な研究テーマ】1.魚介類における日和見感染ウイルスの生態学, 2.有機スズ耐性海洋細菌の耐性遺伝子に関する研究



伊谷 行 Itani Gyo

【生年月日】昭和46年4月23日 【職名】日本学術振興会特別研究員 【電話】089-927-8998 【FAX】なし 【E-mail】gyo@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月京都大学大学院理学研究科生物科学専攻(動物学)修了 【学位】平成14年3月博士(理学)京都大学 【所属学会】1.日本ベントス学会, 2.日本甲殻類学会, 3.日本貝類学会, 4.日本動物分類学会, 5.日本生態学会, 6. Crustacean Society, 7. Biological Society of Washington 【専門分野】海産無脊椎動物学 【主な研究テーマ】1.共生性甲殻類と二枚貝類を用いた種の多様化機構の解明, 2.干潟域における底生生物の生態学, 3.海産寄生虫類の生態学, 4.エビヤドリムシ科甲殻類の分類学

環境影響評価予測分野



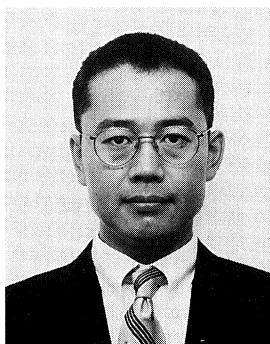
井内 美郎 Inouchi Yoshio

【生年月日】昭和24年7月11日 【職名】教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9674 【FAX】089-927-9674 【E-Mail】yinouchi@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部地質学鉱物学教室 【学位】昭和59年5月理学博士京都大学 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本堆積学会, 5. 日本沿岸域学会, 6. American Geophysical Union, 7. Geological Society of America 【専門分野】1. 環境地質学, 2. 堆積学, 3. 第四紀学 【主な研究テーマ】1. 濑戸内海の砂堆の形成機構と資源量評価, 2. ロシアバイカル湖における長期環境変遷に関する研究, 3. 中国内蒙古自治区岱海における環境変遷史解明, 4. 愛媛県下宇和海における環境変遷史解明, 5. 濑戸内海各地における環境変遷史解明, 6. 美保湾における堆積作用の研究



大森 浩二 Omori Koji

【生年月日】1955年2月6日 【職名】助教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-Mail】ohmori@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ペントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



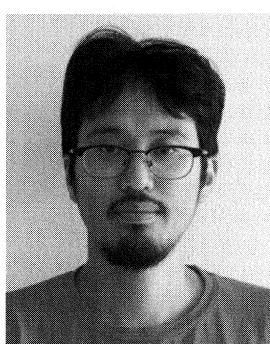
奈良 正和 Nara Masakazu

【生年月日】昭和44年2月7日 【職名】助手 【電話】089-927-9654 【Fax】089-927-9654 【E-mail】nara@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程地質学鉱物学専攻修了 【学位】平成8年3月京都大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本古生物学会, 2. 日本地質学会, 3. 日本堆積学会, 4. 日本ペントス学会, 5. 東京地学協会, 6. 石油技術協会, 7. Society for Sedimentary Geology 【専門分野】1. 生痕学, 2. 古生態学, 3. 堆積学. 【主な研究テーマ】1. 地球規模の環境変動が沿岸生態系に及ぼしてきた影響の解析, 2. 新生代の浅海環境における生痕ファブリック解析, 3. 浅海域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究, 4. 生痕化石の古生態学的研究



奥田 昇 Okuda Noboru

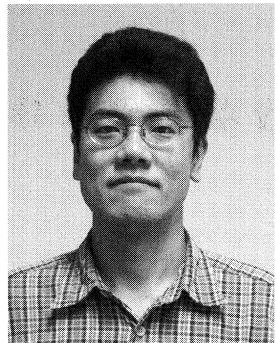
【生年月日】昭和44年12月18日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-9643(大森研究室内) 【FAX】089-927-8167 【E-mail】nokuda@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成10年1月京都大学大学院理学研究科動物学専攻博士後期課程修了 【学位】平成10年1月理学博士(京都大学) 【所属学会】1. 日本魚類学会, 2. 日本生態学会, 3. 日本動物行動学会, 4. 日本進化学会 【専門分野】1. 魚類生態学, 2. 寄生虫生態学, 3. 群集生態学 【主な研究テーマ】1. 海産テンジクダイ科魚類と生殖腺寄生線虫の共進化, 2. 宇和海におけるホタルジャコの資源解析および沿岸域生態系の動態解析, 3. 人為的移入魚の河川在来近縁種に与える保全生物学的影响



伊藤 明 Ito Sayaka

【生年月日】昭和46年9月6日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-9635 【FAX】089-927-9635 【E-mail】akasaya@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月愛媛大学大学院理工学研究科環境科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成14年3月理学博士愛媛大学 【所属学会】1. 日本魚類学会, 2. 日本行動学会 【専門分野】魚類生態学 【主な研究テーマ】1. ヨシノボリ類の繁殖戦術と配偶システムに関する研究, 2. 河川環境の変化と底生魚類の繁殖場所利用に関する研究

2. 研究者要覧



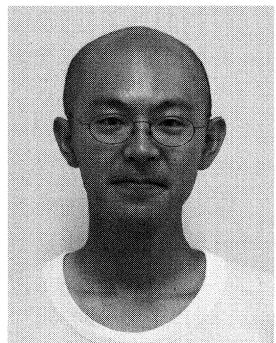
加 三千宣 Kuwae Michinobu

【生年月日】昭和43年2月11日 【職名】C O E 研究員 【電話】089-927-8182 【FAX】089-927-1214 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月 大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水文学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 岐阜県深坂湿原堆積物の珪藻化石を用いた最終氷期以降の環境変遷史の復元と気候変化が湿地・湖沼環境に及ぼす影響に関する研究, 3. 底入り潮及び急潮の長期変動, 人為的攪乱に対する宇和海基礎生産者の応答様式に関する研究



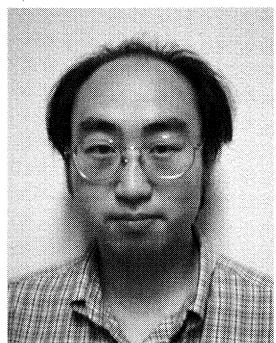
関口 智寛 Sekiguchi Tomohiro

【生年月日】昭和49年11月17日 【職名】C O E 研究員 【電話】089-927-8182 【FAX】089-927-9674 【E-mail】sekiguti@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成15年3月大阪大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本堆積学会, 3. 日本地形学連合, 4. 日本古生物学会 【専門分野】堆積学 【主な研究テーマ】波浪や一方向流によるベッドフォームおよび碎屑物の動態に関する研究



宮坂 仁 Miyasaka Hitoshi

【生年月日】昭和44年2月1日 【職名】C O E 研究員 【電話】089-927-9643(大森研究室内) 【FAX】089-927-8167 【メール】predator@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成12年3月地球環境科学博士 北海道大学 【専門分野】1. 群集生態学, 2. 同位体生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体による食物網構造解析



吉野 健児 Yoshino Kenji

【生年月日】昭和47年10月17日 【職名】C O E 研究員 【電話】089-927-9643(大森研究室内) 【FAX】089-927-8167 【E-mail】adams@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年9月北海道大学大学院水産化学研究科博士後期課程単位取得退学 【学位】平成14年3月水産科学博士 北海道大学 【所属学会】1. 日本動物行動学会 【専門分野】1. 動物生態学, 2. 行動生態学 【主な研究テーマ】1. ヤドカリの雌雄での資源分割に関する研究

3. 研究プロジェクト



3. 1 21世紀COEプログラム

CMES を中核とする「沿岸環境科学研究拠点」が21世紀 COE プログラムに採択され、平成14年度は231,000千円が交付された。同拠点では、CMES の所有する世界各地の野生生物や環境の資料を集積した「生物環境資料バンク」と佐田岬で行っている栄養塩自動モニタリングを重要な研究基盤として、「内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明」と「地球環境変動による沿岸域生態系変動機構の解明と将来予測」の二つのテーマを中心に研究を展開する。また本拠点では、関連研究分野の博士課程学生やポスドク研究員を対象に、学際化や国際化を意図した沿岸環境科学の研究・教育を展開し、21世紀の環境展望が語れる人材、国際社会や地域社会に貢献できる人材、組織のチームリーダーになれる人材を多数育成する計画である。

3. 2 科学研究費等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆（代表）、基盤研究（A）(2)「瀬戸内海における環境の長期変動の監視と将来予測に関する研究」、7,700千円（分担者に CMES 全メンバーを含む）

概要：CMES は、平成11年度に四国西端の佐田岬先端部に栄養塩自動監視システムを設置し、数10年の時間スケールで瀬戸内海の栄養塩環境の変動を監視することを主目的としてデータの取得を始めている。この目的のためには、水質の短期変動機構を解明して短期変動成分を除去する必要があるほか、佐田岬は瀬戸内海と太平洋の接合域であるため、これらの影響を分離することが必要である。本研究は、伊予灘から豊後水道に至る海域の総合的調査を行い、栄養塩濃度等の短期的変動の原因を解明すると共に、内海起源の栄養塩と太平洋起源の栄養塩の寄与を明らかにすること、栄養塩濃度の監視と同時に過去のデータの解析によりこれまでの変動の実態を明らかにすることや高精度の数値モデルによる将来予測を行うこと等を目的としたものである。

- 2) 武岡英隆（代表）、基盤研究（A）(1)「東南アジアの養殖漁場における漁場管理と環境保全」、11,400千円

概要：近年東南アジア海域では海面養殖が急速に拡大する兆しを見せており、無秩序な海面養殖の拡大による大規模な海洋環境破壊が懸念される。本研究では、これらの海域の環境破壊を未然に防ぐため、インドネシアの養殖漁場をフィールドとして学際的な調査研究を行い、持続的養殖を維持するための適性収容量を求める考え方や、適性養殖の評価のための環境指標等を明らかにすることを目指している。

- 3) 武岡英隆（分担）、基盤研究（B）(1)「クラゲ類の大量発生メカニズムの解明とクラゲ害軽減化に関する環境科学的研究」、1,000千円

概要：近年瀬戸内海や世界の海でしばしばクラゲ類が大量に発生し、漁獲量の減少や臨海発電所の取水口を塞ぐ等の様々な被害を与えている。本研究では、宇和海や伊予灘でのクラゲ大量発生の実態と海況変動の関連、クラゲの移動・集積機構などを解明する。

- 4) 武岡英隆（分担）、革新的技術開発研究推進費「沿海・内海の環境変動の革新的計測と変動予測」、1,000千円

概要：海の流れを広範囲に計測する革新的技術である海洋音響トモグラフィー装置を用いて豊後水道の潮流や急潮を計測し、本装置が沿海・内海での環境モニターに有効であることを実証する。

- 5) 郭新宇（分担）、特定領域研究（B）、「縁辺海の海況予報のための海洋環境モニタリングの研究」、500千円

概要：東シナ海の海洋循環モデルに潮流を導入し、潮流の海洋循環への影響を評価した。

- 6) 郭新宇（分担）、基盤研究（B）(2)、スケール間相互作用に着目した日本南岸の黒潮変動メカニズムの解明、500千円

概要：渦解像モデルを作成し、渦と黒潮の相互作用についての数値実験を行った。

3. 研究プロジェクト

- 7) 郭 新宇 (分担), 革新的技術開発研究推進費補助金, 「沿海・内海の環境変動の革新的計測と変動予測」, 500千円

概要: 豊後水道における急潮の進入過程に関する数値実験を行った。

- 8) 兼田淳史, 豊後水道における黒潮の変動に対する応答, 九州大学応用力学研究所, 研究代表者, 48千円

概要: 沿岸域の水温, 水位データと人工衛星データを用いて, 黒潮の変動が豊後水道に与える影響について検討する。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介 (拠点リーダー), 21世紀 COE 「沿岸環境科学研究拠点」, 231,000千円

概要: 内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明, 地球環境変動による沿岸生態系変動機構の解明と将来予測に関する研究基盤, 研究支援体制および教育体制を整備し, 5カ年の事業を円滑に遂行するための基礎を構築した。

- 2) 田辺信介 (計画研究代表), 特定領域研究 (A) (1) 「野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価」, 13,300千円

概要: 内分泌攪乱物質とくに有機塩素化合物と重金属類による環境汚染の実態と生態影響を地球規模で明らかにし, そのリスクを評価した。

- 3) 田辺信介 (代表), 基盤研究 (A) (2) 「生物蓄積性内分泌かく乱物質による野生高等動物の汚染と影響に関する環境化学的研究」, 5,200千円

概要: 生体内におけるダイオキシン類の肝集積と薬物代謝酵素誘導について明らかにした。

- 4) 田辺信介 (分担), 基盤研究 (A) (1) 「有害化学物質への胎児期複合曝露によるクレチニン症発症のリスク評価」, 2,000千円

概要: 有機塩素化合物およびダイオキシン類によるクレチニン症患者の母乳と血液汚染について明らかにした。

- 5) 田辺信介 (分担), ダイオキシン類・PCB の分解処理とバイオアッセイモニタリング-薬物代謝酵素誘導を用いたバイオアッセイの環境研究への適用, 文部科学省革新的技術開発研究推進費補助金, 国立環境研究所, 4,000千円

概要: バイカルアザラシ, カワウ, トビを対象にダイオキシン類による薬物代謝酵素の誘導とその肝集積について検証し, 毒性影響を評価した。

- 6) 岩田久人 (代表), 基盤研究 (B) (2) 「Ah レセプター介在型ダイオキシン毒性の種特異的リスク評価法の開発」, 2,500千円

概要: 野生の哺乳類・鳥類を対象に, そのダイオキシン類汚染の実態を明らかにするとともに, Ah レセプターの遺伝子情報を解析した。

- 7) 國頭 恭 (代表), 若手研究 (B) 「海鳥類におけるヒ素高蓄積機構の解明」, 1,600千円

概要: 海鳥類のヒ素蓄積特性を比較生物学的に明らかにした。

- 8) 高橋 真 (代表), 特別研究員奨励費「外洋深海生態系における有害物質の蓄積と影響に関する環境化学的研究」, 1,200千円

概要: 外洋性の深海生物を指標にして有機塩素化合物および有機スズ化合物の鉛直輸送を解析した。

- 8) 渡部真文 (代表), 特別研究員奨励費「ダイオキシン類による途上国の汚染と影響に関する環境化学的研究」, 1,200千円

概要: 都市ゴミ集積場の母乳を中心にダイオキシン類を分析し, インドで汚染が顕在化していることを明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰 (代表), 基盤研究 (A) (1) 「異なる環境間で起こる微生物遺伝子の循環の証明」 22,000千円

概要: 薬剤耐性遺伝子や病原性遺伝子が水圏, 陸圏, ヒトの腸内までふくめた種々の環境中で伝達されながら変異していく過程を追跡する。本年度は日本と韓国の沿岸に新しい薬剤耐性遺伝子が分布し, 遺伝子保有菌から非特異的遺伝子伝達粒子が産生されることを解明した。

- 2) 鈴木 聰 (分担), 基盤研究 (A) (1) 「水圏における複合有機コロイド系の動態を支配する生物複雑性メカニズムに関する研究」 7,900千円

概要: 生物生産性の高い海域において有機物とそれを変換する微生物の分布, コロイドダイナミクスを解明す

- る。コロイド生成・凝集・分解の過程を多角的アプローチで解析する。
- 3) 鈴木 聰 (代表), 特定領域研究 (2)「有機スズ不活化遺伝子の海洋環境中細菌群集における分布と発現」2,100千円
 概要: 海洋細菌から有機スズ分解遺伝子をクローニングし、海洋環境中の汚染状況への遺伝子の応答を解明する。
- 4) 鈴木 聰 (分担), 日本学術振興会日韓科学協力事業、「日本と韓国に共通な魚介類病原微生物の特性と疫学に関する調査研究」, 100千円
 概要: 韓国で養殖されているマボヤのウイルス性疾病的調査を行った。
- 5) 上田拓史 (分担), 基盤研究 (B) (2), 「交雑個体群有明海スズキの遺伝的集団構造と両側回遊性」, 3,900千円
 概要: 遊行時のスズキ稚魚の主要な餌となるカイアシ類 *Sinocalanus sinensis* の筑後川での分布を調査し、その定位機構について研究した。
- 6) 中野伸一 (代表), 萌芽的研究「河川の超ミクロハビタットにおける微生物ループ」, 1,000千円
 概要: 河川の石の表面から数十ミクロンほどの厚さの水層（粘性境界層）では、流速がほとんど無いかまたはゼロとなる。本研究では、この層に浮遊性および付着力の弱い微生物（細菌、原生生物）が生息していることを明らかにし、これら生物間の食物連鎖（微生物ループ）の存在を示唆した。
- 7) 中野伸一 (代表), 基盤研究 (B) (2)「河川の超ミクロハビタットにおける環境測定と微生物生態」7,400千円
 概要: 粘性境界層を含む河床における微生物の現存量および組成の変化は、この層の環境条件の変化に影響される。本研究では、微小電極を用いて河床の石表面の粘性境界層中の溶存酸素濃度や流速を測定し、河床微生物の生態に対する環境条件の影響を検討する。
- 8) 中野伸一 (分担), 基盤研究 (A) (1)「異なる環境間で起こる微生物遺伝子の循環の証明-薬剤耐性・病原性遺伝子の環境中での変遷と運命を知るためにー」(上記鈴木の項参照)
- 9) 中野伸一 (分担), 基盤研究 (A) (1)「バイカル湖の物質負荷・循環過程が駆動する巨大湖の生物生産・生態変動システム」14,400千円
 概要: 近年、富栄養化の進行が著しいロシア・バイカル湖において、主要河川からの流入負荷と湖内における流入物質の変遷、および本湖の沿岸および沖帯における生物生産と食物網動態について調査し、本湖の生態学的地球化学的現状を解明する。
- 10) 張 伝溪 (代表) 特別研究員奨励費「アクアビルナウイルス感染症に対するDNAワクチンの開発」1,200千円
 概要: 本ウイルスのカプシドタンパク質遺伝子を組み換えることで種々のDNAワクチン候補プラスミドを構築した。
- 11) 野中里佐 (代表) 特別研究員奨励費「海洋細菌における環境由来DNAの利用機構の解明」1,200千円
 概要: 養殖魚腸内細菌、海水由来菌がヒトの病原菌と共にテトラサイクリン耐性遺伝子を保有していることを明らかにした。
- 12) 尾崎浩司 (代表), 特別研究員奨励費「海洋表層性かいあし類の休眠とその生態学的意義」, 1,200千円
 概要: 夏季に外洋の深層で休眠状態にある海洋表層性かいあし類が中深層水の流れ込みと共に沿岸域底部に侵入することによる夏季の沿岸域のプランクトン生産への寄与について調査・解析をおこなった。

環境影響評価予測分野

- 1) 大森浩二 (代表) 基盤研究 (C)「河川生態系の健全性に基づく流域生態系の管理」, 1,800千円
 概要: 河川の健全性を知ることは、環境を保全しながら河川管理を行う上で重要である。本研究では、河川生態系の健全性を河川生態系モデルの解析により定義し、その有効性の検証を行うことを目的としている。
- 2) 奈良正和 (代表), 若手研究 (B)「新第三紀以降の浅海-海浜環境における化石底生群集-その古生態と生痕ファブリック」, 1,500千円
 概要: 海進期の陸棚砂堆における化石底生群集とその成立に関与する制限要因を明らかにした。

3. 3 学内研究費

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆・郭新宇・兼田淳史・速水祐一, 宇和海水温情報システムの構築とその活用, 愛媛大学, 1,500千円

3. 研究プロジェクト

概要：愛媛県水産試験場と協力して宇和海一帯に水温計測ブイを設置し、ORBCOM衛星経由で送信されるデータを沿岸環境科学センターのホームページ上にリアルタイムで公開するとともに、水温変動の予測などの技術開発を行う。

- 2) 郭新宇、瀬戸内海とChesapeake湾における栄養塩の輸送機構の比較研究、沿岸環境科学センター、1,000千円

生態環境計測分野

- 1) 岩田久人、環境ホルモンの生態毒性評価のための新手法の開発：どんな生物が鈍感で、どんな生物が敏感なのか？、愛媛大学、1,000千円

概要：野生生物のダイオキシン類蓄積特性とAhレセプターの遺伝子配列の特徴を解析し、その感受性の生物種間差を説明した。

生態系解析分野

- 1) 鈴木聰（分担）、「残留性有機汚染物質(POPs)の環境動態、影響評価、および処理技術に関する総合的研究、3,000千円

概要：海洋細菌の有機スズ耐性能を調査した。有機スズ耐性菌のSecAが耐性遺伝子であることを解明した。

3. 4 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆、漁場環境等調査検討、津島町、500千円

概要：津島町海域において、養殖による汚染の実態、真珠貝の餌である植物プランクトン分布の実態等に関する現地調査を行い、適正な放養量を算定するための基礎資料を得ると共に改善策を検討する。

- 2) 武岡英隆、伊方原子力発電所温排水影響調査、愛媛県、1,019千円

概要：伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握することを目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介、宇和海の底泥に含まれる有機スズ化合物の分析、愛媛県水産試験場、449千円

概要：有機スズ化合物による宇和海の堆積物の汚染実態を調査し、依然として汚染が継続していること、すなわち汚染の低減が遅いことを明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 上田拓史、伊方原発温排水影響調査、愛媛県、700千円

概要：伊方原子力発電所から排出される温排水の影響の有無を調べるために、毎月周辺海域でプランクトンを採集し、沈殿量および乾重量を継続的に測定している。

- 2) 金本自由生、伊方原発温排水影響調査、愛媛県、1,048千円

概要：伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために、排水口近辺から順次定点を定め、付着生物を調べた。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎、瀬戸内海の海砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究、中国工業技術研究所、併任、2,000千円

概要：瀬戸内海における海砂利採取が海域環境に与える影響について、総合的に研究を実施する。この研究では、地形・底質に対する影響を評価する。

3. 5 受託研究

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介, 環境中の複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究-環境データの解析と環境中生物影響評価, 環境省環境研究総合推進費, 厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所, 4,820千円
概要: 有機塩素化合物とくにダイオキシン類による野生高等動物の汚染実態と毒性影響について明らかにし, そのリスクを評価した.
- 2) 田辺信介, 有害化学物質の地球規模での時空間変動機構および分解過程に関する研究-有機塩素化合物による海洋汚染の実態と長距離輸送等動態解析に関する研究, 環境省地球環境研究総合推進費, 国立環境研究所, 1,995千円
概要: 有機塩素化合物による外洋表層海水の汚染実態を明らかにし, その長距離輸送の態様を解析した.
- 3) 田辺信介, 非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動-途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金, 国立環境研究所, 7,000千円
概要: インドの都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類および有機塩素化合物の汚染実態を明らかにし, ヒトへの曝露と影響を評価した.
- 4) 田辺信介, 内分泌搅乱物質の小児, 成人等の汚染実態および暴露に関する調査研究-ヒト血中に残留する有機塩素化合物一, 厚生省厚生科学研究費補助金(生活安全総合研究事業), 慶應大学医学部, 3,000千円
概要: 愛媛県在住者の母乳汚染について明らかにし, ダイオキシンの蓄積レベルが全国1であることを発見した.
- 5) 田辺信介, 平成13年度内分泌搅乱化学物質問題に関する日韓共同研究-環日本海におけるダイオキシン類の魚介類等への蓄積状況について一, 国立環境研究所, 2,820千円
概要: 韓国および日本近海で採取したカツオを指標生物にして, 有機塩素化合物の汚染実態を明らかにした.

生態系解析分野

- 1) 中野伸一, 内海村沿岸海域環境調査, 内海村, 800千円
概要: 内海村のアコヤガイ真珠母貝養殖漁場において, アコヤガイの餌資源となる浮遊生物各種の現存量および養殖漁場の非生物環境要因を調査し, 本漁場のアコヤガイ養殖についての適性を評価する.

3. 6 各種研究助成金(民間・財団等), 奨学寄付金等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆, 沿岸海洋学に関する研究, 四電技術コンサルタント, 4,000千円

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介(代表), 環境研究助成「途上国の都市ゴミ集積場における重金属類の汚染と人体影響に関する環境化学的研究」, 住友財団, 903千円
概要: Cd, Pb, As など毒性元素による途上国都市ゴミ集積場の土壤汚染について明らかにし, ヒトへの曝露と影響について解析した.
- 2) 田辺信介(分担), 環境研究助成「東南アジアに対する日本の環境技術支援のあり方に関する研究-ベトナムを例にして一」, 住友財団, 430千円
概要: 有機塩素化合物, 有機スズ化合物, 重金属類など内分泌搅乱物質によるベトナムの人体汚染および土壤汚染の現状を明らかにした.
- 3) 田辺信介, カスピ海環境毒性調査に関する研究, 世界銀行(パデコ), 8,100千円
概要: 有機塩素化合物, 有機スズ化合物, 重金属類によるカスピカイアザラシおよびチョウザメ等魚介類の汚染実態について明らかにし英文報告書を作成した.
- 4) 田辺信介, 内分泌搅乱物質に関する日英環境プロジェクト, 環境省, 3,000千円
概要: 内分泌搅乱物質に関する日本と英国の共同研究プロジェクトとして, ブラジルの海棲哺乳動物を対象とした有機塩素化合物汚染の実態解明を試みた.

3. 研究プロジェクト

- 5) 田辺信介, 南半球産及び北西太平洋ミンククジラにおける有機塩素化合物の蓄積と生体影響及び有機塩素化合物をトレーサーとする生態解明の試み, 日本鯨類研究所, 1,500千円
概要: 南氷洋および北太平洋のミンククジラ等鯨類を対象に有機塩素化合物の汚染実態と経年変動について明らかにした.
- 6) 田辺信介, 野生生物のダイオキシン類蓄積状況等調査, 自然環境研究センター, 1,600千円
概要: ダイオキシン類によるカワウとトビの薬物代謝酵素誘導について究明した.
- 7) 田辺信介, 有機ハロゲン化合物による土壤汚染の浄化に関する研究, ツルイ化学, 100千円
概要: 土壤中有機ハロゲン化合物の分解処理技術の開発について助言した.

生態系解析分野

- 1) 上田拓史(分担), 日本生命財団助成「有明海特産種の探索と大陸遺存的生態系の解明」, 日本生命財団, 1,400千円
概要: 大陸遺存性カイアシ類の有明海内での分布を明らかに, 新たな大陸遺存種を発見した.
- 2) 上田拓史(分担), 日本生命財団助成「ナメクジウオ生息域, 海砂採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境」, 日本生命財団(代表者, 井内美郎を参照)
- 3) 上田拓史(分担), 日本生命財団助成「ナメクジウオ生息域, 海砂採取海域としての砂堆の環境復元に向けた総合的研究」, 日本生命財団(代表者, 井内美郎を参照)
- 4) 金本自由生(代表) 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター共同研究, 「アイナメ科魚類の生活史」, 東京大学海洋研究所, 110千円
概要: 大槌湾のアイナメ類について, 生活史を10年来追っており, 1ヶ月分でライフサイクルが完結する. 2002年度は2002年6月の成魚の肥満度は既に上昇していることを解明した.
- 5) 金本自由生(代表) 公益信託エスペック地球環境研究・技術基金, 「亜熱帯海草藻場の年変動に関する研究」, エスペック地球環境研究・技術基金, 400千円
概要: 1977年に石垣島名蔵湾において海草藻場の分布生態の研究を開始し, 1997年に再開して以来, 5年間連続して藻場の変動を見てきた. 2002年に財団の援助を得て, 近年稀に見る大型の台風16号以後の藻場を調査し, 場所によっては前年より増えていることを確認した.
- 6) 金本自由生(分担) 沖縄県に分布する海草の集団遺伝学的研究(財) 港湾空間高度化環境研究センター, 2,000千円
概要: 沖縄県に分布する8種の海草について, 遺伝学的近縁度を調べるために, 沖縄島, 久米島, 宮古島, 石垣島から海草を採集して, 集団遺伝学的解析を行うための, 採集部門を担当した. 途中で, これまで日本で種子が確認されていなかったリュウキュウアマモの種子を発見するなど, 多大の成果があった.
- 7) 北村真一, 笹川科学研究助成「沿岸のプランクトンは魚介類病原マリンビルナウイルスのキャリアーか?」, (財)日本科学協会, 530千円
概要: 沿岸の動物プランクトンはマリンビルナウイルスのレゼルボアになりうることを明らかにした.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎・上田拓史・大森浩二・奈良正和, ナメクジウオ生息域, 海砂利採取海域としての砂堆の環境復元に向けた総合的研究(継続), 日本生命財団, 代表, 2,500千円
概要: 海砂利採取の対象となっている砂堆環境は, 新たに認識された環境である. この環境において, 生物・地質・物理・化学的な研究を実施し, 砂堆環境の実態を明らかにする.
- 2) 井内美郎, 音波探査装置を用いた底質判定システムの開発, 四電技術コンサルタント300千円
概要: QTC-View システムを用いて海藻繁茂域の識別を行うアルゴリズムの開発を行う.
- 3) 大森浩二, 貯水池の沿岸帶の機能評価, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 2500千円

4. 研究成果

(暦年で2002年に出版、掲載されたもの)

4.1 著書

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：内分泌攪乱物質による海棲哺乳動物の汚染、紛争の海-水産資源管理の人類学、秋道智彌・岸上伸啓編、人文書院、256-272.
 - 2) 藤瀬良弘・安永玄太・田辺信介：鯨類調査の新技術-有機塩素化合物や重金属類をトレーサーとした鯨類の生態解明の試み、鯨類資源研究の最前線-鯨類資源の持続的利用は可能か、加藤秀弘・大隅清治編、生物研究社、153-161.
 - 3) 田辺信介：地球規模で広がる環境ホルモンの汚染と野生生物への影響、環境ホルモンの最前線、有斐閣、25-58.
 - 4) 田辺信介：海洋の有機塩素化合物汚染、地球環境ハンドブック第2版、不破敬一郎・森田昌敏編著、朝倉書店、532-541.
 - 5) 石塚真由美・岩田久人・藤田正一：第7章 環境毒性、「トキシコロジー」日本トキシコロジー学会教育委員会編、朝倉書店、290-303.
 - 6) Tanabe, S., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Hue, N. D. and Minh, T. B. Butyltin contamination in mussels from Vietnam and other Asian developing countries. Joint Research on Environmental Science and Technology for the Earth : Annual Report of FY 2000, Fujita, M. and Viet, P. H. (Eds.), Osaka University, Japan, 15-29.

生態系解析分野

- 1) Reid, J. W, Bayly, I. A. E., Pesce, G. L., Rainer, N. A., Ranga Reddy, Y., Rocha, C. E. F., Suarez-Morales, E. and Ueda, H. : Conservation of continental copepod crustaceans. in Modern Approaches to the Study of Crustacea, ed. by E. Escobar-Briones and F. Alvarez, Kluwer Academic/Plenum Publishers, 253-261.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎：「海洋の堆積作用」，不破敬一郎編著，「地球環境ハンドブック」朝倉書店，495-498.
 - 2) 井内美郎：地形，竹内 均監修，「地球環境調査計測事典」，フジテクノシステム，133-139.2003
 - 3) 大森浩二・柳沢康信，同所の種分化のモデル. 水生動物の卵サイズ（後藤晃・井口恵一朗共編），海遊舎，192-208.
 - 4) 奈良正和：巣穴化石が教えてくれるもの -地球温暖化と浅海環境. 宮内崇裕編，房総半島の地学散歩-海から山へ，19，千葉日報，16382（10月10日付），12.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析分野

原著

- 1) 兼田淳史・乗松桂輔・渡辺浩三・小泉喜嗣・武岡英隆：黒潮の離接岸が豊後水道の水温に与える影響、沿岸海洋研究、39 (2), 181-188.
 - 2) Kaneda, A., Takeoka, H., Nagaura, E. and Koizumi, Y.: Periodic intrusion of cold water from the Pacific Ocean into the bottom layer of the Bungo Channel, Japan, Journal of Oceanography, 58, 547-556.
 - 3) Balotro, S. R., Isobe, A., Shimizu, M., Kaneda, A., Takeuchi, T. and Takeoka, H.: Circulation and material transport in Suo-Nada during spring and summer, Journal of Oceanography, 58, 759-773.

4. 研究成果

- 4) Kaneda, A., Takeoka H. and Koizumi Y.: Periodic occurrence of diurnal signal of ADCP backscatter strength in Uchiumi Bay, Japan, Estuarine, Coastal and Shelf Science, 55 (2), 323-330.
- 5) 福田久・郭新宇・山形俊男：紀南分岐流（振り分け潮）の数値モデル研究，海の研究，11 (5), 513-527.
- 6) 馬込伸哉・磯辺篤彦・神薗真人：周防灘における貧酸素水塊の流入河川水に対する応答，沿岸海洋研究，40 (1), 59-70.
- 7) Kohama, T., Montani, S., Tada, K., Yamada, M., Ueda, N.: Ecological approach for improving marine environment in a hyper eutrophic enclosed bay, Japan, International Journal of Offshore and Polar Engineers.
- 8) Cho, K. D. and Kim, H. Y.: Relationship between the distribution of water masses and that of demersal fishes in the East China Sea in spring. J. Fish. Sci. Tech., 3 (1), 14-22.
- 9) Kim, H. Y. and Sugimoto, T.: Sea surface current patterns obtained by advective velocities from satellite sequential images in the East China Sea. In proceeding of the Korea-Japan joint GLOBEC symposium (Ed. T. Sugimoto, S. Kim and M. Terazaki), 224-230.
- 10) Kim, H. Y. and Sugimoto, T.: Larval transport of jack mackerel (*Trachurus japonicus*) estimated from trajectories of satellite-tracked drifters and advective velocity fields obtained from sequential satellite thermal images in the eastern East China Sea. Fish. Oceanogr., 11 (6), 329-336.
- 11) 金熙容・木村伸吾・杉本隆成：数値実験から見たマアジ仔稚魚の輸送経路，月刊海洋，号外31,119-125.

総説等

- 1) Takeoka, H : Progress in Seto Inland Sea research, Journal of Oceanography, 58 (1), 93-107.

Proceedings 等

- 1) 武岡英隆・菊池隆展・速水祐一・榎原哲郎：瀬戸内海における外洋起源の栄養物質，月刊海洋，34, 406-411.
- 2) Guo, X., Futamura A., and Takeoka, H.: Role of straits in transport processes in the Seto Inland Sea, Japan, Proceedings of the 11th International Biennial Conference on Physics of Estuaries and Coastal Seas, Hamburg, September 17-20, 465-468.
- 3) Guo, X., Hayami, Y., Kaneda, A., Kohama, T., and Takeoka, H. : Toward understanding and prediction of marine environmental change in Seto Inland Sea, Proceedings of TECHNO-OCEAN, Kobe, Nov. 20-22.
- 4) 郭新宇・山形俊男：縁辺海の海況予報モデルの開発に向けて，月刊海洋，34 (1), 45-48.
- 5) 郭新宇・杉本隆成・秋山秀樹：数値実験から見た東シナ海の海流系と粒子輸送の3次元的構造，月刊海洋，31, 111-118.

生態環境計測分野

原著

- 1) Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Using trace elements in skin to discriminate the populations of minke whales in southern hemisphere. Marine Environmental Research, 53 (2), 175-197.
- 2) Kajiwara, N., Niimi, S., Watanabe, M., Ito, Y., Takahashi, S., Tanabe, S., Khuraskin, L. S. and Miyazaki, N. : Organochlorine and organotin compounds in Caspian seals (*Phoca caspica*) collected during an unusual mortality event in the Caspian Sea in 2000. Environmental Pollution, 117 (3), 391-402.
- 3) Hong, H. K., Takahashi, S., Min, B. Y. and Tanabe, S. : Butyltin residues in blue mussels (*Mytilus edulis*) and arkshells (*Scapharca broughtonii*) collected from Korean coastal waters. Environmental Pollution, 117 (3), 475-486.
- 4) Ohji, M., Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Differences in the acute toxicities of tributyltin between the Caprellidea and the Gammaridea (Crustacea : Amphipoda). Marine Pollution Bulletin, 44 (1), 16-24.
- 5) Brito, A. P. X., Ueno, D., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Organochlorine and butyltin residues in walleye pollock (*Theragra chalcogramma*) from Bering Sea, Gulf of Alaska and Japan Sea. Chemosphere, 46 (3), 401-411.
- 6) Brito, A. P. X., Ueno, D., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Contamination by organochlorine compounds in walleye pollock (*Theragra chalcogramma*) from the Bering Sea, Gulf of Alaska and the Japan Sea. Marine Pollution Bulletin, 44 (2), 172-177.
- 7) Chiba, I., Sakakibara, A., Iwata, H., Ishizuka, M., Tanabe, S., Akahori, F., Kazusaka, A. and Fujita, S. : Hepatic microsomal P450s and chlorinated hydrocarbons in largha and ribbon seals from Hokkaido, Japan : differential response

- of seal species to Ah receptor agonist exposure. Environmental Toxicology and Chemistry, 21 (4), 794-806.
- 8) Sakamoto, K. Q., Kunisue, T., Watanabe, M., Masuda, Y., Iwata, H., Tanabe, S., Akahori, F., Ishizuka, M., Kazusaka, A. and Fujita, S.: Accumulation patterns of polychlorinated biphenyl congeners and organochlorine pesticides in Steller's sea eagles and white-tailed sea eagles, threatened species, in Hokkaido, Japan. Environmental Toxicology and Chemistry, 21 (4), 842-847.
 - 9) Kunisue, T., Minh, T. B., Fukuda, K., Watanabe, M., Tanabe, S. and Titenko, A. M.: Seasonal variation of persistent organochlorine accumulation in birds from Lake Baikal, Russia, and the role of the south Asian region as a source of pollution for wintering migrants. Environmental Science and Technology, 36 (7), 1396-1404.
 - 10) Anan, Y., Kunito, T., Ikemoto, T., Kubota, R., Watanabe, I., Tanabe, S., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Elevated concentrations of trace elements in Caspian seals (*Phoca caspica*) found stranded during the mass mortality events in 2000. Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 42 (4), 354-362.
 - 11) Arai, T., Ikemoto, T., Kunito, T., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Otolith microchemistry of the conger eel, Conger myriaster. Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, 82,303-305.
 - 12) Iwata, H., Yoshinari, K., Negishi, M. and Stegeman, J. J.: Species-specific responses of constitutively active receptor (CAR) -CYP2B coupling:lack of CYP2B inducer-responsive nuclear translocation of CAR in marine teleost, scup (*Stenotomus chrysops*). Comparative Biochemistry and Pharmacology, Part C, 131,501-510.
 - 13) Kim, E. Y. and Hahn, M. E. : cDNA cloning and characterization of an aryl hydrocarbon receptor from the harbor seal (*Phoca vitulina*) : a biomarker of dioxin susceptibility? Aquatic Toxicology, 58,57-73.
 - 14) Watanabe, I., Kunito, T., Tanabe, S., Amano, M., Koyama, Y., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tatsukawa, R. : Accumulation of heavy metals in Caspian seals (*Phoca caspica*). Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 43 (1), 109-120.
 - 15) Ebisuda, K., Kunito, T., Kubota, R. and Tanabe, S.: Arsenic concentrations and speciation in the tissues of ringed seals (*Phoca hispida*) from Pangnirtung, Canada. Applied Organometallic Chemistry, 16 (8), 451-457.
 - 16) Kubota, R., Kunito, T., Tanabe, S., Ogi, H. and Shibata, Y. : Maternal transfer of arsenic to eggs of black-tailed gull (*Larus crassirostris*) from Rishiri Island, Japan. Applied Organometallic Chemistry, 16 (8), 463-468.
 - 17) Iguchi, T., Sumi, M. and Tanabe, S. : Endocrine disruptor issues in Japan. Congenital Anomalies, 42,106-119.
 - 18) Kim, E . Y., Hahn, M. E., Iwata, H., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : cDNA cloning of an aryl hydrocarbon receptor from Baikal seals (*Phoca sibirica*). Marine Environmental Research, 54 (3-5), 285-290.
 - 19) Minh, T. B., Kunisue, T., Yen, N. T. H., Watanabe, M., Tanabe, S., Hue, N. D. and Qui, V.: Persistent organochlorine residues and their bioaccumulation profiles in resident and migratory birds from north Vietnam. Environmental Toxicology and Chemistry, 21 (10), 2108-2118.
 - 20) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Monirith, I., Ismail, A., Muchtar, M., Zheng, J., Richardson, B. J. Subramanian, An., Prudente, M ., Hue, N. D. and Tanabe, S. : Asia-Pacific mussel watch : monitoring of butyltin contamination in coastal waters of Asian developing countries. Environmental Toxicology and Chemistry, 21 (10), 2119-2130.
 - 21) 久保田彰・染矢雅之・渡部真文・田辺信介 : PCBs およびダイオキシン類 (ポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン, ポリ塩化ジベンゾフラン, コプラナ PCBs) による宇和海沿岸堆積物の汚染, 日本水産学会誌, 68(5), 695-700.
 - 22) Nakata, H., Sakakibara, A., Kanoh, M., Kudo, S., Watanabe, H., Nagai, N., Miyazaki, N., Asano, Y. and Tanabe, S. : Evaluation of mitogen-induced responses in marine mammal and human lymphocytes by in-vitro exposure of butyltins and non-ortho coplanar PCBs. Environmental Pollution, 120 (2), 245-253.
 - 23) Kubota, R., Kunito, T. and Tanabe, S. : Chemical speciation of arsenic in the livers of higher trophic marine animals. Marine Pollution Bulletin, 45 (1-12), 218-223.
 - 24) Anan, Y., Kunito, T., Sakai, H. and Tanabe, S. : Subcellular distribution of trace elements in the liver of sea turtles. Marine Pollution Bulletin, 45 (1-12), 224-229.
 - 25) Yang, J., Kunito, T., Tanabe, S., Amano, M. and Miyazaki, N.:Trace elements in skin of Dall's porpoises (*Phocoenoides dalli*) from the northern waters of Japan : an evaluation for utilization as as non-lethal tracers. Marine Pollution Bulletin, 45 (1-12), 230-236.
 - 26) Ueno, D., Iwata, H., Tanabe, S., Ikeda, K., Koyama, J. and Yamada, H. : Specific accumulation of persistent organochlorines in bluefin tuna collected from Japanese coastal waters. Marine Pollution Bulletin, 45 (1-12), 254-261.
 - 27) de Brito, A. P. X., Takahashi, S., Ueno, D., Iwata, H., Tanabe, S. and Kubodera, T. : Organochlorine and butyltin

4. 研究成果

- residues in deep-sea organisms collected from the western North Pacific, off-Tohoku, Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 45 (1-12), 348-361.
- 28) Kajiwara, N., Watanabe, M., Tanabe, S., Nakamatsu, K., Amano, M. And Miyazaki, N. : Specific accumulation and temporal trends of organochlorine contaminants in Dall's porpoises (*Phocoenoides dalli*) from Japanese coastal waters. *Marine Pollution Bulletin*, 44 (10), 1089-1099.
- 29) Connell, D. W., Fung, C. N., Minh, T. B., Tanabe, S., Lam, P. K. S., Wong, B. S. F., Lam, M. H. W., Wong, L. C., Wu, R. S. S. and Richardson, B. J. : Risk to breeding success of fish-eating Ardeids due to persistent organic contaminants in Hong Kong : evidence from organochlorine compounds in eggs. *Water Research*, 37, 459-467.
- 30) Saeki, K., Kunito, T., Oyaizu, H. and Matsumoto, S. : Relationships between bacterial tolerance levels and forms of copper and zinc in soils. *Journal of Environmental Quality*, 31 (5), 1570-1575.
- 31) 渡邊泉・四宮基彦・國頭恭・田辺信介・窪寺恒己 : 駿河湾および東北沖で採取された深海生魚介類の微量元素蓄積, 地球化学, 36 (4), 179-189.

総説等

- 1) Tanabe, S. : Contamination and toxic effects of persistent endocrine disrupters in marine mammals and birds. *Marine Pollution Bulletin*, 45 (1-12), 69-77 (招待原稿).
- 2) 田辺信介・高橋真 : ブチルスズ化合物による野生高等動物およびヒトの汚染とその影響, 医学のあゆみ, 201 (2), 153-156 (招待原稿).
- 3) 田辺信介 : 書評「森 千里著：胎児の複合汚染-子宮内環境をどう守るか」, 廃棄物学会誌, 13 (5), 297.
- 4) 田辺信介 : POPs によるアジア途上国の母乳汚染, 生活衛生, 46 (6), 229-235 (招待原稿).
- 5) 岩田久人・金恩英・田辺信介 : 残留性有機汚染物質による水圏野生生物のチトクロム P450発現系への影響, 生活衛生, 46 (6), 243-249 (招待原稿).
- 6) Tanabe, S. : Editorial : higher contamination in the future population of developed nations. *Marine Pollution Bulletin*, 44 (12), 1315-1316.

Proceedings 等

- 1) Tanabe, S. : Contamination and toxic effects of persistent endocrine disrupters in wildlife and humans. *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 86.
- 2) Okajima, Y., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Amano, M. and Miyazaki, N. : Specific accumulation of dioxins and induction of hepatic cytochrome P450 in Baikal seal. *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 94.
- 3) Iwata, H., Watanabe, M., Kunisue, T., Fujii, N., Tanabe, S., Tanaka, H., Ogi, H. and Shibata, Y. : Accumulation of PCDDs/DFs and coplanar PCBs and induction of cytochrome P450 in black-tailed gull and black-footed albatross. *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 166.
- 4) Iwata, H. and Stegeman, J. J. : Lack of responses of constitutively active receptor (CAR) and CYB2B homologues to a potent inducer, TCPOBO in marine teleost, scup (*stenotomus chrysops*). *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 166.
- 5) Hayashi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Tanabe, S., Fujise, Y., and Miyazaki, N.: cDNA cloning of an aryl hydrocarbon receptor as a biomarker of dioxin susceptibility in Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) and minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 167.
- 6) Anan, Y., Kim, E. Y., Kunito, T., Iwata, H. and Tanabe, S.: Involvement of metallothionein in accumulation of trace elements and cloning of the isoforms in the liver of green turtle (*Chelonia mydas*) and hawksbill turtle (*Eretmochelys imbricata*). *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 168.
- 7) Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Identification of a novel constitutively active receptor (CAR) and its cDNA sequence in an aquatic mammal, Baikal seal (*Phoca sibirica*). *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 171.
- 8) Kim, E. Y., Hahn, M. E., Iwata, H., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Molecular characterization of an Ah receptor and its possible role as a biomarker of dioxin susceptibility in seals. *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 171.
- 9) Murakami, M., Takahashi, S., Tanabe, S., Yamada, T., Sakayama, K., Mori, C. and Zheng, J. : Monitoring, fetal transfer and immunotoxicity of butyltin compounds in the blood of wildlife and humans. *Environmental Sciences*, 9 (2/3), 222.
- 10) Murai, R., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takeuchi, I. : Residues of butyltin compounds along coastal lines of Ehime

- Prefecture -concentrations detected in 2001; ten years after the registration-. Environmental Sciences, 9 (2/3), 227.
- 11) Iwata, H., Fujii, N., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanaka, H., Ogi, H., Shibata, Y. and Tanabe, S. : Accumulation of coplanar PCB congeners, and induction of cytochrome P450 in seabirds. Proceedings of the International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, 65-73.
 - 12) Agusa, T., Kunito, T., Monirith, I., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Contamination by Trace elements in dumping sites for municipal wastes in Phnom Penh, Cambodia. Proceedings of the International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, 119-124.
 - 13) Kubota, R., Kunito, T. and Tanabe, S. : Arsenic speciation in liver tissues of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) and short-finned pilot whale (*Globicephala macrorhynchus*). Proceedings of the International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, 126-130.
 - 14) Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Trace elements in skin of southern minke whales. Proceedings of the International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, 132-140.
 - 15) Ueno, D., Inoue, S., Takahashi, S., Ikeda, K. and Tanabe, S. : Organochlorine and butyltin residues in skipjack tuna from Asian offshore waters and open seas. Proceedings of the International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, 146-159.
 - 16) 阿草哲郎・國頭 恭・久保田領志・Monirith, I.・田辺信介・Tana, T. S. : カンボジアにおけるヒ素汚染の現状, Biomedical Research on Trace Elements, 13 (4), 254-255.
 - 17) 阿南弥寿美・國頭 恭・池本徳孝・金 恩英・岩田久人・田中博之・田辺信介 : クロアシアホウドリの微量元素蓄積に関するメタロチオネインの役割と MT cDNA のクローニング, Biomedical Research on Trace Elements, 13 (4), 266-267.
 - 18) 黒田優子・豊田卓枝・北川博之・三好清徳・國末達也・染矢雅之・田辺信介 : 愛媛県における母乳中ダイオキシン類及び有機塩素系化合物汚染の実態と影響要因, 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 15, 17-24

生態系解析分野

原著

- 1) Nonaka, L., Isshiki, T. and Suzuki, S. : Distribution of the oxytetracycline resistance determinant Tet 34 among bacteria isolated from diseased fish. Microbes and Environments, 17, 26-31.
- 2) Nonaka, L. and Suzuki, S. : New Mg²⁺-dependent oxytetracycline resistance determinant Tet 34 in *Vibrio* isolates from marine fish intestinal contents. Antimicrobial Agents and Chemotherapy, 46, 1550-1552.
- 3) Kitamura, S-I., Tomaru, Y., Kawabata, Z. and Suzuki, S. : Detection of marine birnavirus in the Japanese pearl oyster *Pinctada fucata* and seawater from different depths. Diseases of Aquatic Organisms, 50, 211-217.
- 4) Tomaru, Y., Udaka, N., Kawabata, Z. and Nakano, S. : Seasonal change of seston size distribution and phytoplankton composition in bivalve pearl oyster *Pinctada fucata martensii* culture farm. Hydrobiologia, 481, 181-185.
- 5) Nishibe, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S.:Grazing on *Microcystis aeruginosa* by the heterotrophic flagellate *Collofictyon triciiliatum* in a hypertrophic pond. Aquatic Microbial Ecology, 29, 173-179.
- 6) Hayakawa, K., Tsujimura, S., Napolitano, G. E., Nakano, S., Kumagai, M., Nakajima, T. and Jiao, C. : Fatty acid composition as an indicator of physiological condition of the cyanobacterium, *Microcystis aeruginosa*. Limnology, 3, 29-35.
- 7) Manage, P. M., Kawabata, Z., Nakano, S. and Nishibe, Y. : The effect of heterotrophic nanoflagellates on the loss of virus like particles in pond water. Ecological Research, 17, 473-479.
- 8) Tomaru, Y., Kumatabara, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S. : Effect of water temperature and chlorophyll abundance on shell growth of the Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, in suspended culture at different depths and sites. Aquaculture Research, 33, 109-116.
- 9) Tomaru, Y., Ebisuzaki, S., Kawabata, Z. and Nakano, S. : Respiration rates of the Japanese pearl oyster, *Pinctada*

4. 研究成果

- fucata martensi*, feeding on *Pavlova lutheri* and *Chaetoceros gracilis*. Aquaculture Research, 33, 33-36.
- 10) 金本自由生：アイナメ科魚類の産卵生態の解明. 日本国水産学会漁業懇話会報, (47) : 92 - 93.
 - 11) Obayashi, Y. and Tanoue, E. : Growth and mortality rates of phytoplankton in the northwestern North Pacific estimated by the dilution method and HPLC pigment analysis. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 280, 33-52.
 - 12) Igarashi, A., Iida, T. and Crosa, J. H. : Iron-acquisition ability of *Edwardsiella tarda* with involvement in its virulence. Fish Pathology, 37, 53-57.
 - 13) Igarashi, A. and Iida, T.: A vaccination trial using live cells of *Edwardsiella tarda* in Tilapia. Fish Pathology, 37, 145-148.
 - 14) Itani, G. and Kato, M. : *Cryptomya (Venatomya) truncata* (Bivalvia : Myidae) : association with thalassinidean shrimp burrows and morphometric variation in Japanese waters. Venus, 61 (3-4), 193-202.
 - 15) Itani, G., Kato, M. and Shirayama, Y. : Behaviour of the shrimp ectosymbionts, *Peregrinamor ohshima* (Mollusca : Bivalvia) and *Phyllodurus* sp. (Crustacea: Isopoda), through host ecdyses. Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, 82 (1), 69-78.
 - 16) Itani, G.: Two types of symbioses between grapsid crabs and a host thalassinidean shrimp. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 39 (2/3), 129-137.
 - 17) Itani, G., Davie, P. J. F. and Takeda, M.: Taxonomic notes on *Acmaeopleura balssi* Shen, 1932 and *A. toriumii* Takeda, 1974 (Crustacea, Brachyura, Grapsidae) from Japanese waters. Bulletin of the National Science Museum, Series A (Zoology), 28 (1), 43-50.

環境影響評価予測分野

原著

- 1) 金井豊・山室真澄・井内美郎・徳岡隆夫:島根県・鳥取県中海における堆積速度と堆積環境. 地球化学, 36, 161-178.
- 2) 公文富士夫・河合小百合・井内美郎:野尻湖湖底堆積物中の有機炭素・全窒素含有率および花粉分析に基づく約25,000~6,000年前の気候変動. 第四紀研究, 42, 13-26.
- 3) 榎原正幸・井内美郎・奈良正和:2001年芸予地震における愛媛県東予市周辺の液状化現象. 地質学雑誌, 108, X III-X IV.
- 4) 大森浩二:生物攪拌による温暖化ガス放出. 日本国水産学会誌, 68 : 740-741.
- 5) Nara, Masakazu : Crowded *Rosselia socialis* in Pleistocene inner shelf deposits : Benthic paleoecology during rapid sea-level rise. Palaios, 17 : 268-276.
- 6) 奈良正和・渡辺寛志・井内美郎・忽那定範・柳沢暁:粗粒・細粒碎屑物による急速埋没に対するナメクジウオ *Branchiostoma belcheri* の耐性. 日本ベントス学会誌. 57, 97-105.
- 7) 小竹信宏・奈良正和:生痕化石 *Piscichnus waitemata*-ジェット水流を用いた摂食行動の痕跡-. 地質学雑誌, 108, I-II.
- 8) Michael Schlierf, Masakazu Nara and Alfred Uchman : Invertebraten Spurenfossilien aus dem Taunusquarzit (Siegen, Unterdevon) von der "Rossel" nahe Ruedesheim. Jahrbuch des nassauischen Vereins fuer Naturkunde, 123 : 43-63.
- 9) Michinobu Kuwae, Shusaku Yoshikawa, Yoshio Inouchi : A diatom record for the past 400 ka from Lake Biwa in Japan correlates with global paleoclimatic trends. Palaeogeography Palaeoclimatology Palaeoecology, 183 : 261-274
- 10) Kondoh, M. and N. Okuda : Mate availability influences filial cannibalism in fish with paternal care. Animal Behaviour, 63 (2) : 227-233
- 11) Okuda, N., M. Miyazaki and Y. Yanagisawa : Sexual difference in buccal morphology of the paternal mouthbrooding cardinalfish *Apogon doederleini*. Zoological Science, 19 (7) : 801-807
- 12) Okuda, N., S. Ito and H. Iwao: A marking technique for live fish eggs and larvae. Ichthyological Research, 49 (4): 367-370
- 13) Okuda, N., S. Ito and H. Iwao : Female spawning strategy in *Rhinogobius* sp. OR : how do females deposit their eggs in the nest? Ichthyological Research, 49 (4) : 371-379
- 14) Takeyama, T., N. Okuda and Y. Yanagisawa: Seasonal pattern of filial cannibalism by *Apogon doederleini* mouthbrooding males. Journal of Fish Biology, 61 (3) : 633-644
- 15) Miyasaka, H., Dzyuba, E. V., Shubunkov, S. G., Melnik, N. G. and Wada, E. : Food habit divergence between two pelagic sculpin, *Comephorus baicalensis* and *C. dybowskii*, in Lake Baikal. Proceeding in Speciation in ancient lakes.
- 16) Yoshino K. and S. Goshima : Sexual dominance in hermit crab shell fights : asymmetries in owner-intruder status, crab size and resource value between sexes. J. Ethol. 20 : 63-69.

- 17) Yoshino, K. and S. Goshima : Fighting escalation independent of cost-benefit relationship with shell resource quality in hermit crab *Pagurus filholi*. *Benthos Res.* 57 : 45-49.
- 18) Yoshino K. S. Goshima and S. Nakao:Temporal reproductive patterns within a breeding season of the hermit crab *Pagurus filholi* : effects of crab size and shell species. *Mar. Biol.* 141 : 1069-1075.

総説等

- 1) 井内美郎：ナメクジウオ生息域、海砂採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境. 日本沿岸域学会研究討論会 2002講演概要集 No. 15,26-29.
- 2) 岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物密度プロファイルからみたユーラシア大陸内陸部の高緯度地域における中新世後期の気候変動. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 379-384.
- 3) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖パソリスコエバンクの堆積密度からみた気候変遷史. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 385-390.
- 4) 斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約15万年間の環境変遷. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 397-402.
- 5) 大平 亮・井上卓彦・塙屋藤彦・井内美郎：音波探査記録からみた備讃瀬戸西部海域の過去約2万年間の地史. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 409-414.
- 6) 塙屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：燧灘の海底断層系の特徴と堆積盆の状況（音波探査記録より）. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 415-420.
- 7) 中條喜友・塙屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：音波探査記録からみた猫瀬戸周辺海域の過去約二万年間の海峡形成史. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 421-426.
- 8) 井内美郎・塙屋藤彦・中條喜友：瀬戸内海の海釜地形の成因について—海域“沖積層”の層序区分と関連して—. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 427-432.
- 9) 井上卓彦・塙屋藤彦・為季克章・井内美郎・徳岡隆夫：日野川-弓ヶ浜砂州-美保湾系における碎屑物の移動と堆積. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 433-438.
- 10) 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・大平亮・鎌倉秀行・為季克章・中條喜友・井内美郎：愛媛県松山市北方海域の砂堆“大洲”的底質季節変化. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 439-444.
- 11) 天野敦子・井上卓彦・大平亮・岩本直哉・塙屋藤彦・井内美郎：愛媛県宇和海岩松湾における底質からみた季節変化. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 445-450.
- 12) Inouchi, Y. : Sand dredging in the Seto Inland Sea and Geologic History of sand banks. Proceedings of Techno-Ocean 2002, (CD-ROM : 1-4).

4. 3 学内, 所内誌等

環境動態解析分野

- 1) 馬込伸哉・磯辺篤彦：周防灘における塩分データの河川流量履歴別分類による河川プリュームの挙動解析, 九州大学大学院総合理工学報告, 24 (2), 195-198.
- 2) 馬込伸哉・磯辺篤彦：周防灘における貧酸素水塊の河川流量に対する応答, 九州沿岸における海洋観測技術の高度化に関する研究, 研究集会報告, 47-72.

生態系解析分野

- 1) 北村真一・鈴木聰：宇和海のアコヤガイと環境海水中におけるマリンビルナウイルスの生態, 愛媛大学農学部紀要, 47, 29-32.

4. 4 一般誌等

生態環境計測分野

- 1) Tanabe, S. : Introducing a new visiting professor of CIC, CIC Newsletter, Center for International Cooperation, Ocean

4. 研究成果

Research Institute, The University of Tokyo, 3,8.

- 2) 田辺信介:特集環境ホルモンへの取組みー環境省全国一斉調査の結果, かんきょう, 27 (3), 9-11 (招待原稿).
- 3) 田辺信介 :環境ホルモンによる海洋汚染と生態系について、「第9回但馬の自然を語る集い」記録集-但馬の海と自然環境, 但馬の自然を考える連絡会, 11-23.
- 4) 田辺信介 : POPs による途上国での母乳汚染, Endocrine Disrupter News Letter, 5 (2), 4.
- 5) 宮崎信之・田辺信介 : 危機に直面しているカスピカイアザラシ, Endocrine Disrupter News Letter, 5 (2), 5.

4. 5 報告書等

環境動態解析分野

- 1) 郭新宇・山形俊男:対馬暖流の起源に関するトレーサー実験, 縁辺海の海況予報のための海洋環境モニタリングの研究, 中間報告書 (III), 117-120.
- 2) 兼田淳史:豊後水道における黒潮の変動に対する応答, 共同研究成果報告書, 九州大学応用力学研究所, 5, 87-89.
- 3) 速水祐一・大久保卓也・芳賀裕樹:2.1.8 赤野井湾における湖水交換量の見積もり, 湖内現象を考慮したノンポイント負荷削減対策の検討, 滋賀県琵琶湖研究所プロジェクト研究報告書 No. 01-A01, 218-223.

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介:指標生物による有機塩素化合物の蓄積特性, 平成13年度指標生物による有害物質海洋汚染の監視手法の高度化, 環境省地球環境保全等試験研究成果報告書, 11-23.
- 2) 田辺信介:途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 平成13年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動, 平成14年3月, 5-40.
- 3) 田辺信介:鰐脚類および鯨類における有機塩素化合物蓄積の経年変動, 平成13年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動, 平成14年3月, 156-182.
- 4) 岩田久人・田辺信介:薬物代謝酵素誘導系を用いたバイオアッセイによる環境生態研究, 平成13年度革新的技術開発研究推進補助金研究成果報告書「ダイオキシン類・PCB の分解処理とバイオアッセイモニタリング」(課題番号12321), 平成14年3月, 187-213.
- 5) Tanabe, S., Kunisue, T. and Min, B. Y. : Dioxin and related compounds in blue mussels (*Mytilus edulis*) collected from Korean coastal waters. Annual Report on Japan-Korea Co-operative Joint Research on Endocrine Disrupting Chemicals, National Institute for Environmental Studies, 30 March, 2002, 17-28.
- 6) 田辺信介・Tu Binh Minh :ヒトにおける有機塩素化合物の蓄積と排泄特性, 環境中複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究, 環境省未来環境創造型基礎研究推進制度平成13年度報告書, 平成14年3月, 155-178.
- 7) Tanabe, S., Monirith, I., Nakata, H., Watanabe, M., Takahashi, S. and Tana, T. S. : Organochlorine contamination in fish and mussels from Cambodia and other Asian developing countries. カンボジア王国における水系・大気系汚染等調査および持続可能な技術移転, 平成11-13年度地球環境基金助成金活動総合報告書, 17-34.
- 8) 田辺信介・国末達也・Monirith, I.・Tana, T. S. :カンボジアの都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, カンボジア王国における水系・大気系汚染等調査および持続可能な技術移転, 平成11-13年度地球環境基金助成金活動総合報告書, 35-59.
- 9) 田辺信介・阿草哲郎・國頭恭・Monirith, I.・Tana, T. S. :カンボジアの微量元素汚染に関する環境化学的研究, カンボジア王国における水系・大気系汚染等調査および持続可能な技術移転, 平成11-13年度地球環境基金助成金活動総合報告書, 61-79.
- 10) 田辺信介・岩田久人:野生生物アレイ試作状況, 内分泌攪乱物質の環境リスク, 平成13年度科学研究費補助金特定領域研究 (A) (1) 研究成果報告書 (研究課題番号12055101), 平成14年3月, 54-61.
- 11) 田辺信介:環日本海におけるダイオキシンの魚介類等への蓄積についてームラサキイガイを指標生物とした韓国沿岸域のダイオキシン類汚染の実態解明-, 平成13年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究報告書, 平成14年3月, 13-24.

- 12) 田辺信介・岩田久人・梶原夏子・高橋真・Fillmann, G.・Readman, J.: 開発途上国における海棲生物の内分泌攪乱現状調査, 平成13年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日英共同研究報告書, 平成14年3月, 173-184.
- 13) 岩田久人: 派遣研究者報告, 平成13年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日英共同研究報告書, 平成14年3月, 185-187.
- 14) 田辺信介・池本徳孝・國頭恭: 鳥島産アホウドリおよびクロアシアホウドリの微量元素蓄積, 平成13年度科学研究費補助金(特定奨励費)「希少鳥類の生存と回復に関する研究」実績報告書添付資料, 平成14年4月, 山階鳥類研究所, 178-190.
- 15) 宮崎信之・新井崇臣・田辺信介: 大船湾における有機スズ化合物のモニタリング研究, 海洋環境国際共同研究事業実績報告書, 平成11年度-平成13年度岩手県委託研究, 平成14年6月, 42-48.
- 16) 宮崎信之・田辺信介: 有機塩素化合物と有機スズ化合物の生物蓄積特性, 海洋環境国際共同研究事業実績報告書, 平成11年度-平成13年度岩手県委託研究, 平成14年6月, 55-58.
- 17) 功刀正行・原島省・田辺信介・岩田久人・藤原棋多夫: D-2 有害化学物質による地球規模の海洋汚染評価手法の構築に関する研究, (3) 有害化学物質の地球規模での時空間変動機構および分解過程に関する研究, 地球環境研究総合推進費平成13年度研究成果-中間成果報告集-, 環境省地球環境局研究調査室, 74-77.
- 18) 田辺信介・笠井梨恵・高橋真: 人為起源汚染物質による東シナ海深海生物の汚染, 深海性動物相の解明と海洋生態系保護に関する基礎研究(第三期)南西諸島における深海性動物相の解明と海洋汚染の調査研究(平成13-16年度)-平成13年度調査研究報告-, 国立科学博物館動物研究部, 42-46.
- 19) 田辺信介・阿草哲郎・國頭恭・Monirith, I.・Tana, T. S.: カンボジアの微量元素汚染に関する環境化学的研究, トヨタ財団2000年度研究助成「メコン川流域各国の経済発展に伴う生態系への影響評価およびその保全に関する研究」報告書, 2002年10月, 75-93.
- 20) Tanabe, S., Monirith, I., Nakata, H., Watanabe, M., Takahashi, S. and Tana, T. S.: Organochlorine contamination in fish and mussels from Cambodia and other Asian developing countries. トヨタ財団2000年度研究助成「メコン川流域各国の経済発展に伴う生態系への影響評価およびその保全に関する研究」報告書, 2002年10月, 94-111.
- 21) 田辺信介・國末達也・Monirith, I.・Tana, T. S.: カンボジアの都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, トヨタ財団2000年度研究助成「メコン川流域各国の経済発展に伴う生態系への影響評価およびその保全に関する研究」報告書, 2002年10月, 112-136.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰: 海洋における有機スズ化合物分解菌の生態と分解遺伝子のクローニング-海水中における有機スズ化合物耐性菌の定量と組成について-, 地球環境研究, 53: 61-64.
- 2) 上田拓史, 宇和海漁場環境調査検討報告書. 2-(2)動物プランクトン調査. 宇和海漁場環境調査検討会, 121-177.
- 3) 中野伸一・北村真一・片野俊也・廣瀬弥保・鎌田信一郎・橋本朋樹・市野塚大介・上野裕之・浅海理恵: 平成13年度内海村沿岸海域環境調査-物理化学的環境要因とプランクトン群集現存量の季節変化, 愛媛県内海村

環境影響評価予測分野

- 1) 星加章・三島康史・井内美郎・高杉由夫・橋本英資・長尾正之・村上和男・田辺弘道・湯浅一郎・高橋暁:瀬戸内海の海砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究. 環境省報告書, 平成13年度, 46-1~46-26.
- 2) 加三千宣・吉川周作・井内美郎: 琵琶湖底コア, 年間珪藻殻堆積量から見た過去14万年間の日本の夏季降水量変動と東アジアモンスター. タンデトロン加速器質量分析計による¹⁴C測定の研究成果報告書(VIII): 61-70.
- 3) 大森浩二: 有機物分解によるCO₂放出量評価手法の開発. プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用技術開発マングローブ等熱帯沿岸生態系の修復・保全による地球温暖化ガス回収・放出抑制評価技術の開発, 平成13年度報告書, 新エネルギー産業技術総合開発機構, 142-152.

4. 6 学会発表等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆・菊池隆展・速水祐一・高橋嘉秀: 瀬戸内海における外洋起源の栄養物質, 2002年度日本海洋学会春

4. 研究成果

- 季大会講演要旨集, 264.
- 2) 古泉統義・速水祐一・小濱剛・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動～海洋構造と栄養塩・クロロフィル-a分布～, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 267.
 - 3) 速水祐一・小濱剛・古泉統義・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動II－窒素・リンフラックスの見積もり－, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 268.
 - 4) 小濱剛・速水祐一・古泉統義・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動III－窒素収支と生態系の変動－, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 269.
 - 5) 廣瀬弥保・中野伸一・速水祐一・小濱剛・市野塚大介・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動IV－Prochlorococcus, Synechococcusの輸送－, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 270.
 - 6) 西尾芳高・速水祐一・兼田淳史・武岡英隆：紀伊水道における陸棚斜面上水の経年変動, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 275.
 - 7) 郭新宇・武岡英隆：燧灘の残差流に関する数値実験, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 276.
 - 8) 牛尾元宣・郭新宇・武岡英隆：潮汐フロント近傍の流動構造に関する数理研究, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 277.
 - 9) 兼田淳史・森本昭彦・速水祐一・小濱剛・佐野文彦・武岡英隆：豊後水道に流入する黒潮系暖水, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 278.
 - 10) 角本登与志・原本光一郎・郭新宇：北灘湾における潮汐・潮流シミュレーション, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 307.
 - 11) 松下太郎・兼田淳史・小濱剛・速水祐一・世登順三・清田耕司・地本直弘・二村彰・塙本秀史・武岡英隆：速吸瀬戸における栄養塩輸送の観測, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 314.
 - 12) 小濱剛・赤井武志・速水祐一・兼田淳史・武岡英隆：底入り潮の進入が伊予灘の栄養塩および植物プランクトン群集に与える影響について, 2002年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 241.
 - 13) 速水祐一・小濱剛・兼田淳史・古泉統義・橋本朋樹・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動V－物質輸送とNP比・プランクトン種組成の変動－, 2002年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 381.
 - 14) 加藤晋作・郭新宇：瀬戸内海における水温・塩分グリッドデータの作成と流動場の診断計算, 2002年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 413.
 - 15) 扇山舟・速水祐一・武岡英隆：宇和海・北灘湾における水温・塩分・クロロフィルの季節変動に関する研究, 2002年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 414.
 - 16) 馬込伸哉・磯辺篤彦：周防灘における水平・鉛直循環流の流入河川水に対する応答, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 281.
 - 17) 馬込伸哉・磯辺篤彦：周防灘における河川プリュームが形成する bulge の挙動について, 2002年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 335.
 - 18) 金熙容・杉本隆成・木村伸吾：東シナ海におけるマアジ卵仔稚輸送と漁獲量変動, 水産海洋学会創立40周年記念大会, 12月.
 - 19) 金熙容・伊藤幸彦・杉本隆成：東シナ海における陸棚斜面の上層と底層の流動変動, 海洋学会, 3月.
 - 20) Kim, H. Y., Kimura, A. and Sugimoto, T.: Transport of jack mackerel (*Trachurus japonicus*) eggs and larvae inferred from the numerical experiment in the East China Sea, 11th PICES, Qingdao, October.
 - 21) 速水祐一・占部城太郎：琵琶湖北湖における亜表層DO極小の形成機構, 日本陸水学会第67回大会, 東京府中, 9月, 講演要旨集, 149.
 - 22) 兼田淳史・安楽康宏・高田淳史・武岡英隆：豊後水道の底入り潮, 沿岸域における外洋擾乱の影響, 日本海洋学会九州沖縄地区シンポジウム, 九州大学応用力学研究所, 12月

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：ヒトにおける有機塩素化合物の蓄積と排泄特性, 環境中複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する第2回研究発表会, 環境省環境技術開発等推進費, 京都市, 1月, 発表要旨集, 13-14.
- 2) 田辺信介・岩田久人・國頭恭・中田晴彦・渡邊泉：野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価, 平成13年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(A)「内分泌攪乱物質の環境リスク」研究成果報告

- 会, 京都市, 1月, 要旨集, 24-25.
- 3) 岩田久人・金 恩英・田辺信介 : 水圏野生生物における内分泌攪乱物質のレセプターと CYP 誘導, 平成13年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」 研究成果報告会, 京都市, 1月, 要旨集, 26-27.
 - 4) 國頭恭・池本徳孝・阿南弥寿美・岩田久人・金恩英・岩田久人・田辺信介 : 海棲高等動物における重金属解毒機構, 平成13年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」 研究成果報告会, 京都市, 1月, 要旨集, 28-29.
 - 5) 中田晴彦・生子裕士・千住 覚・西村泰治 : 魚類を用いた免疫攪乱物質による環境評価とその応用, 平成13年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」 研究成果報告会, 京都市, 1月, 要旨集, 30-31.
 - 6) 渡邊 泉・久野勝治・平岡 考・岩永良和・林 光武・田辺信介 : 日本産鳥類の微量元素蓄積, 平成13年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」 研究成果報告会, 京都市, 1月, 要旨集, 32-33.
 - 7) 田辺信介 : 環境保全型養殖漁業の提案: ダイオキシン汚染への挑戦, 公開シンポジウム—21世紀初頭の科学・技術政策への提言-「瀬戸内圏の環境・技術研究の現状と未来」, 広島市, 2月, 要旨集, 9-10 (招待講演).
 - 8) 田辺信介: 鰐脚類および鯨類における有機塩素化合物蓄積の経年変動, 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金「非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動」に関する平成13年度研究打合せ会議, 京都市, 3月, 資料1-26.
 - 9) 田辺信介: 途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金「非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動」に関する平成13年度研究打合せ会議, 京都市, 3月, 資料1-35.
 - 10) 田辺信介: 内分泌攪乱物質による野生生物およびヒトの汚染実態と影響に関する最近の話題, 平成13年度沿岸環境科学研究センターヤニ次研究成果報告会, 3月, 松山, 講演要旨集, 8-9.
 - 11) 金恩英・Hahn, M. E.・岩田久人・田辺信介・宮崎信之 : 水棲哺乳類における aryl hydrocarbon レセプターの機能特性-ダイオキシン感受性のバイオマーカーとしての可能性, 平成13年度沿岸環境科学研究センターヤニ次研究成果報告会, 3月, 松山, 講演要旨集, 10-11.
 - 12) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介 : ウミガメ類肝臓の微量元素蓄積に関するメタロチオネインの役割およびその異性体のクローニング, 平成13年度沿岸環境科学研究センターヤニ次研究成果報告会, 3月, 松山, 講演要旨集, 12-13.
 - 13) 村岡正義・高橋真・田辺信介・山田格・坂山憲史・森千里・Zheng, J.: 平成13年度沿岸環境科学研究センターヤニ次研究成果報告会, 3月, 松山, 講演要旨集, 14-15.
 - 14) 岩田久人・金 恩英・田辺信介 : 水圏生物における内分泌攪乱物質レセプターとチトクローム P450, 愛媛大学疾患モデルゲノム機能解析研究会公開セミナー「ポストゲノム時代における理学・工学・農学・医学の接点としての実験動物, 3月, 松山.
 - 15) Kajiwara, N. and Tanabe, S. : Organochlorine pollution in Caspian seals and fish. Final Ecotox Workshop on the Investigation into Toxic Contaminant Accumulation and Related Pathology in the Caspian Sturgeon, Seal and Bony Fish (Ecotox Study), Baku, Azerbaijan, March, Reports, 1-60.
 - 16) Kunito, T. Anan, Y., Ikemoto, T., Kubota, R. and Tanabe, S. : Heavy metal pollution in Caspian seals and fish. Final Ecotox Workshop on the Investigation into Toxic Contaminant Accumulation and Related Pathology in the Caspian Sturgeon, Seal and Bony Fish (Ecotox Study), Baku, Azerbaijan, March, Reports, 61-96.
 - 17) Tanabe, S. : Environmental contamination and biological toxic effects of persistent organic pollutants. Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances, UNEP 1st Technical Workshop on Sources and Concentration of PTS in the Environment, Tokyo, Japan, March, Abstracts, 1-20 (招待講演).
 - 18) Tanabe, S. : Contamination and toxic effects of persistent endocrine-disrupting chemicals in the Asian environment, UNU International Symposium on Tracing Pollutants from Agrochemical Use:Focus on EDC Pollution, Hanoi, Vietnam, April, Abstracts, 22,50-71. (招待講演)
 - 19) Iwata, H. and Tanabe, S. : Levels and Ecotoxicological Risk Assessment of Polychlorinated Dibenz-p-dioxins, Dibenzofurans and Coplanar Polychlorinated Biphenyls in Aquatic Mammals and Fish-eating Birds from the Far East : A Recent Overview. Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances, GEF & UNEP, 2nd Technical Workshop on Ec-

4. 研究成果

- otoxicological Impact and Transboundary Transport of Persistent Toxic Substances, Hong Kong, China, May 14-16, Abstract E1 (招待講演).
- 20) 田辺信介:生物蓄積性内分泌攪乱物質による地球規模の環境汚染と生態影響, 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所セミナー, 6月, 岡崎, 講演要旨集, 1 (招待講演).
 - 21) 梶原夏子・渡部真文・田辺信介・S. Wilson・D. Aubrey:有機塩素化合物によるカスピカイアザラシの汚染と影響, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 38-39.
 - 22) 高橋真・村岡正義・田辺信介・山田格・坂山憲史・森千里・Z. Jinshu:ブチルスズ化合物による野生高等動物およびヒトの汚染とその特徴, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 46-47.
 - 23) 安井知子・高橋真・田辺信介:生物の脂肪組織を対象とした有機スズ化合物の新規分析法の開発と実試料への応用, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 50-51.
 - 24) 鈴木美成・渡邊泉・久野勝治・國頭恭・田辺信介:鎌倉市および伊豆大島で捕獲されたタイワニリスの微量元素蓄積, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 52-53.
 - 25) 宝来佐和子・渡邊泉・久野勝治・國頭恭・田辺信介・岩水良和・林光武(2002):関東地方で採取された陸鳥3種の微量元素蓄積の比較と環境モニタリングの試み, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 54-55.
 - 26) 國頭恭・阿草哲郎・中島悦子・T. B. Minh・I. Monirth・田辺信介・A. Subramanian・T. S. Tana・P. H. Viet:アジア途上国 のゴミ集積場における微量元素の土壤汚染, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 56-57.
 - 27) 阿草哲郎・國頭恭・T. B. Minh・I. Monirth・田辺信介・A. Subramanian・T. S. Tana・P. H. Viet:アジア途上国 のゴミ集積場における微量元素の人体汚染, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 58-59.
 - 28) 久保田領志・國頭恭・阿草哲郎・I. Monirth・田辺信介・T. S. Tana:カンボジアにおけるヒトおよび地下水のヒ素汚染, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 60-61.
 - 29) 伊東淳・渡邊泉・久野勝治・國頭恭・田辺信介:ヨウシュヤマゴボウを用いた微量元素汚染のモニタリング及び修復の可能性, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 70-71.
 - 30) 中村真司・國頭恭・阿南弥寿美・池本徳孝・田辺信介・G. Fillmann: ブラジル沿岸に座礁した小型鯨類の微量元素蓄積特性, 第11回境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 112-113.
 - 31) 阿南弥寿美・國頭恭・池本徳孝・渡邊泉・田辺信介・S. Wilson・D. Aubrey カスピカイアザラシにおける微量元素蓄積と大量死との関係, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 114-115.
 - 32) 野村久美子・國頭恭・阿南弥寿美・田辺信介:アオリイカとスルメイカにおける微量元素の体内分布および細胞内分布の特徴, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 118-119.
 - 33) 渡辺佳子・渡邊泉・小寺祐二・神崎伸夫・久野勝治・林光武・牧野敬・太田恭子・佐々木浩・今木洋大・阿部慎太朗・國頭恭・田辺信介:日本に生息する陸上哺乳類の微量元素蓄積, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 120-121.
 - 34) 笠井梨恵・高橋真・林沙織・Ana P. X de Brito・田辺信介・窪寺恒己・川口弘一:有機塩素および有機スズ化合物による深海生物の汚染とその動態に関する研究, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 176-177.
 - 35) 戎田健一・國頭恭・久保田領志・田辺信介・柴田康行:ワモンアザラシに蓄積する水溶性および脂溶性ヒ素化合物, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 178-179.
 - 36) 中西茂之・渡部真文・岩田久人・田辺信介・田中博之・小城春雄・須藤明子・藤田正一・中津賞・増田泰・樋口広芳:TCPMe, TCPMOH およびその他の生物蓄積性有機塩素化合物による鳥類の汚染とその蓄積特性, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 180-181.
 - 37) 荒金玉実・梶原夏子・渡部真文・田辺信介:日本沿岸に座礁した海棲哺乳類の有機塩素化合物汚染とその蓄積特性, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 182-183.
 - 38) 岡島由佳・岩田久人・渡部真文・田辺信介・天野雅男・宮崎信之:バイカルアザラシにおけるダイオキシン類の蓄積特性と異物代謝酵素への影響, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 202-203.
 - 39) 國末達也・渡部真文・染矢雅之・田辺信介・A. Subramanian・T. S. Tana・P. H. Viet・M. Prudente:ダイオキシン類, PCBs, および有機塩素系農薬によるアジア途上国 のヒト母乳汚染と乳児のリスク評価, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 210-211.
 - 40) 善家久隆・國頭恭・池本徳孝・田辺信介・篠原広充・菅忠明・武田尚彦・宮崎信之:海棲哺乳類の放射性核種分布状況について, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 344-345.
 - 41) 笠井梨恵・高橋真・田辺信介:有機スズ化合物と新規防汚剤 Irgarol 1051による愛媛県沿岸域の汚染, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 464-465.

- 42) 中井美絵・國末達也・渡部真文・岩田久人・田辺信介・小城春雄・柴田康行：ウミネコ (*Larus crassirostris*) の有機塩素化合物蓄積に関する産卵および加齢の影響, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 488-489.
- 43) 那須哲也・中田晴彦・中防徹次・田辺信介・S. Khuraskin・A. Boltunov・宮崎信之：ボルガ川下流域およびカスピ海北部の有機塩素化合物汚染と生態系における残留特性, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 498-499.
- 44) 上野大介・井上晋・高橋真・田辺信介・池田久美子・田中博之・山田久：スルメイカを指標生物とした日本海および北太平洋の有機塩素化合物汚染モニタリング, 第11回環境化学討論会, 6月, 箱根, 講演要旨集, 500-501.
- 45) 田辺信介：野生生物における内分泌搅乱物質の汚染とそのリスク評価, 文部科学省特定領域研究 (A) 「内分泌搅乱物質の環境リスク」班会議, 岡崎市, 7月, 資料集, A02-1.
- 46) Tanabe, S. : Contamination and toxic effects of bioaccumulative endocrine disrupters in Asia-Pacific environment. UNU-Iwate-UNESCO Joint International Conference "Man and the Ocean - Conserving Our Coastal Environment - Endocrine Disruptor Pollution in Asia and the Pacific", Tokyo, July, Abstracts, 41-42 (招待講演).
- 47) Subramanian, An. and Tanabe, S. : Accumulation of organochlorines (DDTs, HCHs and PCBs) in birds and dolphins of India. UNU-Iwate-UNESCO Joint International Conference "Man and the Ocean - Conserving Our Coastal Environment - Coastal Management and Sustainable Development", Tokyo, July, Abstracts, 95-107.
- 48) Kajiwara, N. and Tanabe, S. : Organochlorine and organotin compounds in Caspian seals (*Phoca caspica*) collected during an unusual mortality event in the Caspian Sea in 2000 and 2001. UNU-Iwate-UNESCO Joint International Conference "Man and the Ocean - Conserving Our Coastal Environment - Marine Ecology and Environment", Tokyo, July, Abstracts, 119.
- 49) Yang, J., Kunito, T., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Essential elements in Dall's porpoise *Phocoenoides dalli* collected off the Sanriku coast of Japan. UNU-Iwate-UNESCO Joint International Conference "Man and the Ocean - Conserving Our Coastal Environment - Marine Ecology and Environment", Tokyo, July, Abstracts, 121-136.
- 50) 高橋真・梶原夏子・田辺信介：有機スズおよび有機ハロゲン化合物による海棲哺乳動物の汚染とその特徴, 国立環境研究所「有機臭素化合物にかかる物質循環・環境研究」報告会, 筑波, 7月, 資料集, 1-7.
- 51) 田辺信介：地球レベルにおける化学物質の環境内動態-海棲生物を中心として-, 環境中化学物質の生態影響に関する最近の研究と動向, 生態影響試験と評価に関するセミナー2002, 東京, 7月, 講演要旨集, 1-19 (招待講演).
- 52) 阿草哲郎・國頭恭・久保田領志・Monirith, I.・田辺信介・Tana, T. S. : カンボジアにおけるヒ素汚染の現状, 第13回日本微量元素学会, 千葉市, 7月, プログラム・抄録集, 78.
- 53) 阿南弥寿美・國頭恭・池本徳孝・金恩英・岩田久人・田中博之・田辺信介：クロアシアホウドリの微量元素蓄積に関するメタロチオネインの役割と MTcDNA のクローニング, 第13回日本微量元素学会, 千葉市, 7月, プログラム・抄録集, 91.
- 54) 岩田久人・田辺信介：極東地域の水棲哺乳動物と魚食性鳥類におけるダイオキシン類の汚染とその毒性評価, 平成14年度第1回文部科学省革新的技術開発研究推進「ダイオキシン類・PCBの分解処理とバイオアッセイモニタリング」研究会議, 筑波市, 7月.
- 55) 阿南弥寿美・金恩英・國頭恭・岩田久人・田辺信介：ウミガメ類肝臓の微量元素蓄積に関するメタロチオネインの役割およびその異性体のクローニング, 第2回瀬戸内海環境科学研究交流会, 広島, 7月, 講演要旨集, 5-6.
- 56) 笠井梨恵・高橋真・林沙織・Brito, A. P. X.・田辺信介・窪寺恒巳・川口弘一：有機塩素および有機スズ化合物による深海生物の汚染とその動態に関する研究, 第2回瀬戸内海環境科学研究交流会, 広島, 7月, 講演要旨集, 7-8.
- 57) 上野大介・井上晋・高橋真・田辺信介・池田久美子・田中博之・山田久：魚介類を指標とした外洋域有機塩素化合物モニタリング, 第2回瀬戸内海環境科学研究交流会, 広島, 7月, 講演要旨集, 9-10.
- 58) Kunisue, T., Watanabe, M., Nakashima, E., Agusa, T., Monirith, I., Minh, T. B., Kunito, T., Subramanian, An., Tana, T. S., Viet, P. H., Prudente, M. and Tanabe, S. : Contamination of dioxins and related compounds in soils collected from dumping sites of municipal wastes in Asian developing countries. 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Barcelona, Spain, August, Organohalogen Compounds (Abstracts), 57,333-336.
- 59) Ueno, D., Takahashi, S., Subramanian, An., Fillmann, G., Nakata, H., Lam, P. K. S., Zheng, J., Muchtar, M.

4. 研究成果

- and Tanabe, S.: Global pollution monitoring of PCBs and organochlorine pesticides using skipjack tuna as a bioindicator. 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Barcelona, Spain, August, Organohalogen Compounds (Abstracts), 57,423-426.
- 60) Kunisue, T., Watanabe, M., Someya, M., Monirth, I., Minh, T. B., Subramanian, An., Tana, T. S., Viet, P. H., Prudente, M. and Tanabe, S.: PCDDs, PCDFs, PCBs and organochlorine insecticides in human breast milk collected from Asian developing countries : risk assessment for infants. 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Barcelona, Spain, August, Organohalogen Compounds (Abstracts), 58,285-288.
- 61) Takahashi, S., Brito, A. P. X., Hayashi, S., Kasai, R., Tanabe, S., Kubodera, T. and Kawaguchi, K.: Contamination and distribution of organochlorine and butyltin compounds in deep-sea organisms collected from Japanese coastal and offshore waters. 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Barcelona, Spain, August, Organohalogen Compounds (Abstracts), 58,477-480.
- 62) Kajiwara, N., Matsuoka, S., Iwata, H., Rosas, F. C. W., Fillmann, G. and Readman, J. W. : Contamination of persistent organochlorines in small cetaceans stranded along Brazilian coastal waters. 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Barcelona, Spain, August, Organohalogen Compounds (Abstracts), 58,485-488.
- 63) 岩田久人・金 恩英・田辺信介：水圏生物への残留性有機汚染物質の蓄積と影響評価，第22回農業環境シンポジウムおよび第2回有機化学物質研究合同シンポジウム，筑波市，9月，講演要旨集，39-47（招待講演）。
- 64) 久保田領志・國頭 恭・阿草哲郎・Monirth, I.・田辺信介・Tana, T. S.: カンボジアにおける地下水のヒ素汚染，第8回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，府中市，9月，講演要旨集，28-29。
- 65) 久保田彰・岩田久人・田辺信介：ダイオキシン類によるカワウおよびトビの汚染と異物代謝酵素への影響，第8回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，府中市，9月，講演要旨集，43-44。
- 66) 高橋厚・石川英律・池田善郎・渡辺倫夫・久保田彰・岩田久人・田辺信介：野生鯉における異物代謝酵素およびビテロジエニンの内分泌攪乱化学物質曝露のバイオマーカーとしての有用性，第8回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，府中市，9月，講演要旨集，55-56。
- 67) 岩田久人・金恩英・田辺信介：水圏野生生物における内分泌攪乱化学物質および核内レセプターとチトクローム P450，国立医薬品食品衛生研究所特別講演会，東京，9月（招待講演）。
- 68) 田辺信介・岩田久人・國頭恭・豊田卓枝・黒田優子：ダイオキシン類等有機塩素系内分泌攪乱物質による愛媛県在住初産婦の母乳汚染，第5回愛媛大学全学シンポジウム－学術シンポジウム，松山市，9月，講演要旨集，22。
- 69) 渡邊泉・新井雄介・寶来佐和子・久野勝治・林光武・谷地森秀二・國頭恭・田辺信介：栃木県で大量死したムクドリの微量元素蓄積，日本鳥学会2002年度大会，東京，9月，講演要旨集，55。
- 70) 寶来佐和子・渡邊泉・久野勝治・岩永良和・國頭恭・田辺信介：羽田で捕獲されたアオサギの微量元素蓄積，日本鳥学会2002年度大会，東京，9月，講演要旨集，56。
- 71) 田辺信介：生物蓄積性内分泌攪乱物質による地球規模の環境汚染，日本水環境学会・日本陸水学会合同シンポジウム，府中市，9月，講演要旨集，33（招待講演）。
- 72) 田辺信介・梶原夏子・荒金玉美・渡部真文：日本沿岸に座礁した鯨類の有機塩素化合物汚染とその蓄積特性，日本哺乳類学会2002年度大会ミニシンポジウム「鯨類研究最近の動向」，富山市，10月，プログラム・講演要旨集，56（招待講演）。
- 73) 渡辺佳子・渡邊泉・小寺祐二・神崎伸夫・久野勝治・太田恭子・佐々木浩・阿部慎太郎・牧野 敬・今木洋大・林 光武・國頭恭・田辺信介：数種の野生陸上哺乳類における微量元素蓄積の特徴，日本哺乳類学会2002年度大会，富山市，10月，プログラム・講演要旨集，59。
- 74) 鈴木美成・渡邊泉・久野勝治・國頭恭・田辺信介：タイワンリスの微量元素蓄積，日本哺乳類学会2002年度大会，富山市，10月，プログラム・講演要旨集，106。
- 75) Tanabe, S.: Contamination and biological impacts of persistent toxic substances in wildlife and humans from Asia-Pacific. GEF/UNEP Regional Priority Setting Meeting on Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances (Central and North East Asia - Region VII), Abstract, 1-26 (招待講演)。
- 76) 梶原夏子・荒金玉実・田辺信介：日本沿岸に漂着した鯨類の有機塩素化合物汚染とその影響，東京大学海洋研究所共同利用研究集会「沿岸性小型歯鯨類スナメリの生体と保全」，東京，11月，講演要旨集，4。
- 77) 田辺信介：拠点形成計画及びコアプロジェクト1「内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解

- 明」、愛媛大学特別シンポジウム－21世紀 COE プログラムの推進に向けてー、松山市、11月。
- 78) 岩田久人：野生動物における内分泌攪乱化学物質のトキシコゲノミクスとリスク評価、愛媛大学特別シンポジウム－21世紀 COE プログラムの推進に向けてー、松山市、11月。
- 79) 國頭恭：海性高等動物における重金属の蓄積特性と解毒機構、愛媛大学特別シンポジウム－21世紀 COE プログラムの推進に向けてー、松山市、11月。
- 80) 梶原夏子：生物環境試料を利用した有機臭素化合物のモニタリング計画、愛媛大学特別シンポジウム－21世紀 COE プログラムの推進に向けてー、松山市、11月。
- 81) Tanabe, S., Kajiwara, N. and Watanabe, M. : Contamination by organochlorine compounds in mass stranded Caspian seals during 2000/01. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 34.
- 82) Iwata, H., Okajima, Y., Watanabe, M., Kim, E., Tanabe, S., Amano, M. and Miyazaki, N. : Effects of dioxins on aryl hydrocarbon receptor-mediated responses in Baikal seals. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 35.
- 83) Watanabe, M., Kunisue, T., Nakai, M., Iwata, H., Ogi, H., Shibata, Y. and Tanabe, S. : Accumulation features and mother-egg transfer patterns of organochlorines in black-tailed gull. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 162-163.
- 84) Watanabe, M., Kunisue, T., Iwata, H., Tanaka, H. and Tanabe, S. : Contamination by PCDD/DFs and coplanar PCBs in albatross from North Pacific and southern ocean. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 163.
- 85) Kunito, T., Agusa, T., Yasunaga, G., Tanabe, S., Ogi, H. and Shibata, Y. : Body distribution and maternal transfer of trace elements in black-tailed gulls. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 163-164.
- 86) Kim, E. Y., Hahn, M. E., Iwata, H., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Characterization of an aryl hydrocarbon receptor in Baikal seals. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 165.
- 87) Kubota, A., Iwata, H. and Tanabe, S. : Bioaccumulation of dixin-like compounds and induction of cytochrome P450 in cornorant and kite. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 168.
- 88) Iwata, H., Watanabe, M., Okajima, Y., Sakamoto, T., Tanabe, S., Amano, M., and Miyazaki, N. : Toxicokinetic behavior of polychlorinated dibenzo-p-dioxin, dibenzofuran and biphenyl congeners in Baikal seals, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 186.
- 89) Ikemoto, T., Arai, T., Kunito, T., Tanabe, S., Baba, N. and Nakai, I. : A study on existing state of mercury in liver of northern fur seals using chemical extraction and EXAFS analysis. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utah, U. S. A., Nov., Abstracts 215.
- 90) Kubota, R., Kunito, T., Tanabe, S., Yang, J., Miyazaki, N., Ogi, H. and Shibata, Y. : Maternal transfer of arsenic in black-tailed gull (*Larus crassirostris*) and Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*). SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America, Salt Lake City, Utahs, U. S. A., Nov., Abstracts 217-218.
- 91) 田辺信介:内分泌攪乱物質による野生生物の汚染と影響、広島県地域環境計画協会、学際テーマサロン、環境情報科学センター共催シンポジウム「地球環境問題への地域としての取り組み」化学物質と健康-野生生物から子供まで、広島市、11月、講演要旨集、10, 23 (招待講演)。
- 92) 國末達也・染矢雅之・渡部真文・豊田卓枝・黒田優子・長山淳哉・田辺信介:残留性有機汚染物質(POPs)による愛媛県在住初産婦の母乳汚染-未調査地域における汚染実態解明の必要性-,環境ホルモン学会第5回研究発表会、広島市、11月、講演要旨集、59。
- 93) Guruge, K. S., Watanabe, M. and Tanabe, S. : Occurrence of persistent organic pollutants (POPs) in Sri Lanka. 環境ホルモン学会第5回研究発表会、広島市、11月、公園要旨集、189.
- 94) 中西茂之・渡辺真文・田辺信介・岡奈理子・佐藤文男:有機塩素化合物による鳥島のアホウドリおよびクロアシアホウドリの汚染とその蓄積特性、環境ホルモン学会第5回研究発表会、広島市、11月、講演要旨集、257.

4. 研究成果

- 95) 荒金玉実・梶原夏子・渡辺真文・田辺信介：有機塩素系内分泌搅乱物質による日本沿岸漂着鯨類の汚染，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，258.
- 96) 高橋厚・石川英律・池田善郎・渡辺倫夫・久保田彰・岩田久人・田辺信介：野生鯉の異物代謝酵素及びビテロジエニンを用いた内分泌搅乱化学物質暴露に対する生態影響調査，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，303.
- 97) 石川英律・高橋厚・池田善郎・渡辺倫夫・久保田彰・岩田久人・田辺信介：野生鯉の異物代謝酵素及びビテロジエニンを用いた内分泌搅乱化学物質暴露に対する生態影響調査（その2），環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，304.
- 98) 久保田彰・岩田久人・田辺信介（2002）：カワウおよびトビにおけるダイオキシン類の蓄積・代謝と異物代謝酵素への影響，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，310.
- 99) 酒井大樹・岩田久人・金 恩英・田辺信介・馬場徳寿：キタオットセイ (*Callorhinus ursinus*) における Constitutive Androstane Receptor (CAR) の cDNA クローニング，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，311.
- 100) 岩田久人・岡島由佳・渡辺真文・金恩英・阪本智博・田辺信介・天野雅男・宮崎信之：ダイオキシン類によるバイカルアザラシの肝チトクローム P450への影響，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，312.
- 101) 渡辺倫夫・岩田久人・渡部真文・田辺信介・A. Subramanian：南インドゴミ埋立地におけるカラスのダイオキシン類および有機塩素系農薬汚染と肝異物代謝酵素への影響，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，326.
- 102) 金 恩英・安井知子・岩田久人・田辺信介：水棲鳥類における AHR cDNA のクローニングとそのアミノ酸配列の特性，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，330.
- 103) 岩田久人・岡島由佳・渡部真文・田辺信介・天野雅男・宮崎信之：バイカルアザラシにおけるダイオキシン類の体内動態と母仔間移行による時世代暴露のリスク評価，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，354.
- 104) 染矢雅之・國末達也・渡部真文・A. Subramanian・田辺信介：有機塩素系内分泌搅乱物質によるインドの牛ミルク汚染とそのヒトへの暴露，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，390.
- 105) 中村真司・高橋真・田辺信介・F. C. W. Rosas・G. Fillmann・J. W. Readman：ブラジル沿岸に漂着した小型鯨類の有機スズ化合物汚染とその蓄積特性，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，398.
- 106) 阿草哲郎・國頭恭・In Monirith・岩田久人・田辺信介・Touch Seang Tana：カンボジアの都市ゴミ集積場における微量元素汚染と周辺住民への影響，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，399.
- 107) 木村義多孝・今西克也・村上雅志・近石一弘・藤本英治・加藤元彦・竹田菊男・梶原夏子・田辺信介：ガスクロマトグラフ/負化学イオン質量分析器 (GC/NCI-MS) を用いた環境試料中のトキサフェンの定量，環境ホルモン学会第5回研究発表会，広島市，11月，講演要旨集，87.
- 108) Tanabe, S.: Persistent organic pollutants (POPs) in human breast milk collected from Asian developing countries : risk assessment for infants. International Symposium on Environmental Endocrine Disruptors 2002, Hiroshima, Japan, Nov., Program & Abstracts, 78-79 (招待講演).
- 109) Tanabe, S.: Contamination and biological impacts of persistent toxic substances in wildlife and humans from Asia-Pacific. International Workshop on Effects of Dioxins on Agriculture, Forestry and Fisheries, Tsukuba, Japan, Dec., Abstracts, 21-35 (招待講演).
- 110) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of persistent organochlorines in wildlife and humans from Asia-Pacific regions. Monbukagakusho International Symposium on New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine Resources, Osaka, Japan, Dec., Program and Abstracts, 34-35 (招待講演).
- 111) Tanabe, S. and Chung, K.: Contamination of persistent organic pollutants (POPs) in Japanese and Korean offshore waters using skipjack tuna as a bioindicator. 2nd Japan-Korea Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals, Tsukuba, Japan, Dec., Abstracts, 67-76.

生態系解析分野

- 1) 三吉泰之・鈴木聰：PCR 法による *Nocardia seriolae* の検出，平成14年度日本魚病学会大会，高知市，9月，講演要旨集，15.

- 2) 北村真一・鈴木聰：宇和海におけるマリンビルナウイルスの生態. 平成14年度日本魚病学会大会, 高知市, 9月, 講演要旨集, 33.
- 3) Zhang CX・鈴木聰：マリンビルナウイルスと他のビルナウイルスの RNA ポリメラーゼ遺伝子の比較, 平成14年度日本魚病学会大会, 高知市, 9月, 講演要旨集, 33.
- 4) 北村真一：病原微生物の生態学～疾病を予知するために～. 平成14年度日本魚病学会大会, 高知市, 9月, 講演要旨集, 11.
- 5) 金錫烈・野中里佐・Oh, M-J・Pitogo, C. R.・鈴木 聰: Distribution of a new OTC resistance determinant *tet34* among marine *Vibrio* sp., 平成14年度日本魚病学会大会, 高知市, 9月, 講演要旨集, 45.
- 6) 篠崎大祐・北村真一・一色正・鈴木聰：ヒラメに対する重金属暴露後のマリンビルナウイルスの実験感染. 平成14年度日本水産学会中国・四国支部例会, 松山市, 10月, 講演要旨集, 11.
- 7) 北村真一・鈴木聰: Sec A による有機スズ耐性誘導. 平成14年度日本微生物生態学会大会, 津市, 11月, 講演要旨集, 20.
- 8) 野中里佐・金錫烈・鈴木聰:魚類と海水由来オキシテトラサイクリン耐性菌における Ribosomal protection protein (RPP) 遺伝子の分布. 平成14年度日本微生物生態学会, 津, 11月, 講演要旨集, 21.
- 9) 三好達夫・鈴木聰: *In vitro* および *in situ* での *Synechococcus* sp. の外膜タンパク質の分解過程. 平成14年度日本微生物生態学会大会, 津市, 11月, 講演要旨集, 124.
- 10) 白石有子・鈴木聰・岡本拓士・長沼毅: 好塩細菌の外膜タンパク質プロフィール. 平成14年度日本微生物生態学会大会, 津市, 11月, 講演要旨集, 132.
- 11) 鈴木聰:微生物生態教育研究部会の活動について. 平成14年度日本微生物生態学会大会, 津市, 11月, 講演要旨集, 196.
- 12) 鈴木聰:論文賞受賞講演, 海水中溶存態タンパク質の起源となる微生物. 平成14年度日本微生物生態学会大会, 津市, 11月, 講演要旨集, 209.
- 13) 野中里佐: テトラサイクリン耐性機構とその遺伝子伝播. 第5回21世紀 COE 特別セミナー・第9回環境科学特別セミナー, 松山市, 3月.
- 14) 鈴木聰: 海洋細菌の有機スズ耐性は Sec A で起こる. 第5回21世紀 COE 特別セミナー・第9回環境科学特別セミナー, 松山市, 3月.
- 15) 鈴木聰・北村真一: 海洋細菌 *Pseudoalteromonas* sp. M-1の有する新しい有機スズ耐性遺伝子の特定. 特定領域研究 (1)「内分泌搅乱物質の環境リスク」班会議, 松山市, 1月, 講演要旨集, 324-325.
- 16) 篠崎大祐・北村真一・一色 正・鈴木 聰: 有機スズに暴露したヒラメにおけるビルナウイルス感染実験. 特定領域研究 (1)「内分泌搅乱物質の環境リスク」班会議, 松山市, 1月, 講演要旨集, 326-327.
- 17) 尾崎浩司・上真一・楠本輝一・萩野鉄男: 紀伊水道における動物プランクトンの季節変動: bottom intrusion の影響. 2002年度春季日本プランクトン学会, 函館, 3月.
- 18) Ueda, H., Terao, A., Hibino, M. and Tanaka, M.: How can planktonic copepods in river estuaries survive in a flood? 8th International Conference on Copepoda, Keelung, Taiwan, July, Abstract, No. 047.
- 19) 伊谷行: 干潟に生息するアナジャコ下目甲殻類とその共生者の多様性.瀬戸内海研究フォーラム in わかやま, 瀬戸内海研究会議, 8月.
- 20) Ozaki, K., Uye, S., Kusumoto, T., Hagino, T.: Seasonal cycles in abundance of calanoid copepods in Kii Channel, the shelf water on the Pacific side of southwestern Japan - analysis from 12 years' (1987-1999) samples. PICES 11th Annual Meeting, Qingdao, People's Republic of China, October, Abstract 196.
- 21) 鎌倉秀行・上田拓史・井内美郎・布川裕也:瀬戸内海産ナメクジウオの生活史. テクノオーシャン2002, 神戸, 11月.
- 22) 鎌倉秀行・上田拓史・井内美郎・布川裕也:瀬戸内海産ナメクジウオの生活史. 海洋環境産業見本市, 吳, 11月.
- 23) 上野裕之・市野塚大介・廣瀬弥保・中野伸一: 宇和海内海湾における浮遊性纖毛虫の現存量・組成および諸環境要因の鉛直分布の季節動態. 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 265.
- 24) 市野塚大介・上野裕之・中野伸一: 宇和海内海湾における原生生物による細菌摂食の季節動態. 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 266.
- 25) 古泉統義・速水祐一・小濱剛・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆: 急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動-海洋構造と栄養塩・クロロフィル-a 分布-. 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 267.

4. 研究成果

- 26) 速水祐一・小濱剛・古泉統義・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動 II-窒素・リンフラックスの見積もり-, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 268.
- 27) 小濱剛・速水祐一・古泉統義・廣瀬弥保・中野伸一・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動 III-窒素収支と生態系の変動-, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 269.
- 28) 廣瀬弥保・中野伸一・速水祐一・小濱剛・市野塚大介・武岡英隆：急潮・底入り潮による宇和海低次生態系の変動 IV-*Prochlorococcus*, *Synechococcus* の輸送-, 2002年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 270.
- 29) 松山純也・福田美和・中野伸一・Frank B. Dazzo：河床微生物ループにおける原生動物の生態学的役割. 日本陸水学会第67回大会講演要旨集, 70.
- 30) Nakano, S., Ashida, A., Tomaru, Y., Fukuda, M. and Matsuyama, J. : Pebbles in streams : a missing habitat for microbial loop. VIII International congress of Ecology, Seoul, Korea, 11-18 August.
- 31) Ueno, H., Ichinotsuka, D., Hirose, M., Nakano, S. : Seasonal and vertical abundance and composition of planktonic ciliates in a coastal marine environment with special attention to their ecological roles. VIII International congress of Ecology, Seoul, Korea, 11-18 August.
- 32) Ichinotsuka, D., Ueno, H., Nakano, S. : Relative importance of flagellates and ciliates as consumers of bacteria in a coastal marine environment. VIII International congress of Ecology, Seoul, Korea, 11-18 August.
- 33) Matsuyama, J., Fukuda, M., Nakano, S., Dazzo, F. B. : Abundance, composition and bacterivory of protists on the pebbles in a stream environment. VIII International congress of Ecology, Seoul, Korea, 11-18 August.
- 34) Fukuda, M., Matsuyama, J., Nakano, S. : Bacterial production on pebbles in a stream. VIII International congress of Ecology, Seoul, Korea, 11-18 August.
- 35) Kanamoto, Z. : Annual changes on seagrass composition and distributions of seagrass beds of Nagura Bay, Ishigaki, Okinawa. 5th International Seagrass Biology Workshop. Ensenada, Mexico.
- 36) 金本自由生：アイナメ科魚類の産卵生態の解明. シンポジウム「漁業研究における水中映像の技術とその利用事例」, 東京.
- 37) 大林由美子・田上英一郎：緑藻は生き生きしているときほど食べられてしまう？-捕食による現存量コントロールの程度の藻類グループ間での相違-, 2002年度日本海洋学会秋季大会（札幌市）, 講演要旨集, 224.
- 38) 塩谷剛・上真一・長野直樹・大林由美子：初夏の大槌湾における優占橈脚類種の摂餌, 2002年度日本プランクトン学会（函館市）
- 39) 塩谷剛・上真一・長野直樹・大林由美子：初夏の大槌湾における食物連鎖構造：微小，中型，大型動物プランクトンを中心として, 2003年度日本海洋学会春季大会（東京），講演要旨集, 258.

環境影響評価予測分野

- 1) Kumon, F., Kwai, S. and Inouchi, Y.: Climate change from 25,000 to 6,000 years BP deduced from total organic carbon, total nitrogen and pollen analyses of the drilled sediments at Lake Nojiri, central Japan, 16th International Sedimentological Congress, Johannesburg, South Africa.
- 2) 井内美郎：ナメクジウォ生息域，海砂採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境, 日本沿岸域学会研究討論会2002, 日本沿岸域学会.
- 3) 井上卓彦・塩屋藤彦・為季克章・井内美郎・徳岡隆夫：音波探査記録から見た鳥取県西部，美保湾の海底地質, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 4) 塩屋藤彦・井内美郎・井上卓彦・大平亮：燧灘の海底地質について（バブルパルサー記録より）, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 5) 岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物密度プロファイルからみたユーラシア大陸内陸部の高緯度地域における中新世後期の気候変遷, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 6) 天野敦子・井上卓彦・大平亮・岩本直哉・塩屋藤彦・井内美郎：愛媛県宇和海岩松湾における底質の季節変化とその音響的变化, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 7) 井内美郎：瀬戸内海の海釜地形の成因についてー再確認ー, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 8) 斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約15万年間の環境変遷史, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.
- 9) 大平亮・井上卓彦・塩屋藤彦・井内美郎：音波探査記録からみた備讃瀬戸西部海域の過去約2万年間の地史, 日本地質学会第109年学術大会, 日本地質学会.

- 10) 中條喜友・塩屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：音波探査記録からみた猫瀬戸周辺海域の過去約2万年間の海峡形成史，日本地質学会第109年学術大会，日本地質学会。
- 11) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖パソリスコエバンクの堆積密度からみた過去約30万年間の気候変遷史，日本地質学会第109年学術大会，日本地質学会。
- 12) 天野敦子・井上卓彦・大平亮・岩本直哉・塩屋藤彦・井内美郎：愛媛県宇和海岩松湾における底質の季節変化とその音響的変化，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 13) 中條喜友・塩屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：音波探査記録からみた猫瀬戸周辺海域の過去約2万年間の海峡形成史，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 14) 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・大平亮・為季克章・中條喜友・井内美郎：松山市北方海域の砂堆，“大洲”の底質季節変化，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 15) 井上卓彦・塩屋藤彦・為季克章・井内美郎・徳岡隆夫：音波探査記録から見た鳥取県西部・美保湾の海底地質，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 16) 岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物密度プロファイルからみたユーラシア大陸内陸部の高緯度地域における中新世後期の気候変遷，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 17) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖パソリスコエバンクの堆積密度からみた過去約30万年間の気候変遷史，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 18) 大平 亮・井上卓彦・塩屋藤彦・井内美郎：音波探査記録からみた備讃瀬戸西部海域の過去約2万年間の地史，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 19) 斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約15万年間の環境変遷史，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 20) 井内美郎：瀬戸内海の海釜地形の成因について，日本地質学会四国支部2002年度総会・講演会，日本地質学会・四国支部。
- 21) 岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物密度プロファイルからみたユーラシア大陸内陸部の高緯度地域における中新世後期の気候変動，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 22) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖パソリスコエバンクの堆積密度からみた気候変遷史，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 23) 斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約15万年間の環境変遷，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 24) 大平 亮・井上卓彦・塩屋藤彦・井内美郎：音波探査記録からみた備讃瀬戸西部海域の過去約2万年間の地史，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 25) 塩屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：燧灘の海底断層系の特徴と堆積盆の状況（音波探査記録より），第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 26) 中條喜友・塩屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎：音波探査記録からみた猫瀬戸周辺海域の過去約2万年間の海峡形成史，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 27) 井内美郎・塩屋藤彦・中條喜友：瀬戸内海の海釜地形の成因について—海域“沖積層”の層序区分と関連して—，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 28) 井上卓彦・塩屋藤彦・為季克章・井内美郎・徳岡隆夫：日野川-弓ヶ浜砂州-美保湾系における碎屑物の移動と堆積，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 29) 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・大平亮・鎌倉秀行・為季克章・中條喜友・井内美郎：愛媛県松山市北方海域の砂堆“大洲”の底質季節変化，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 30) 天野敦子・井上卓彦・大平亮・岩本直哉・塩屋藤彦・井内美郎：愛媛県宇和海岩松湾における底質からみた季節変化，第12回環境地質学シンポジウム・地質環境シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会。
- 31) Inouchi, Y.: Sand dredging in the Seto Inland Sea and Geologic History of sand banks, Techno- Ocean 2002, Techno-Ocean Network.
- 32) Michinobu Kuwae, Shusaku Yoshikawa, Yoshio Inouchi : Diatom records from Lake Biwa in central Japan during the last 140 ka and the potential paleoclimatic implications, Proceeding of ICDP (International Continental Scientific Drilling Program) Drilling Project Workshop in Kyoto, Japan.

4. 研究成果

- 33) 加三千宣・吉川周作・井内美郎：琵琶湖湖底堆積物の高解像度珪藻殻堆積量記録からみた過去14万年間の夏季降水量変動と中国の乾湿変動、日本第四紀学会2002年大会。
- 34) 加三千宣・吉川周作・井内美郎・中村俊夫：琵琶湖湖底堆積物の珪藻殻堆積量変化からみた過去3万年間の夏季降水量変動と中国の乾湿変動、地球惑星科学関連学会2002年合同大会。
- 35) Omori, K., : Watershed management on the basis of ecological health of river ecosystems, Managing Shared Waters, Coastal Zone Canada 2002 Conference, Hamilton, Canada. Abstract.
- 36) 小嶋瑞穂・奈良正和：愛媛県北条市沖の浅海砂堆「大洲」における生物遺骸片の特徴と供給源（予報）、日本地質学会四国支部総会
- 37) 関口智寛・砂村継夫：ウェーブリップルマークの変形に関する実験的研究、2002年春季大会、日本地形学連合。
- 38) 関口智寛・砂村継夫：波浪条件の激変による特異なリップルマークの出現：二次元造波水路実験、堆積学研究会2002年春期研究集会、堆積学研究会。
- 39) 森佐智子・関口智寛・砂村継夫：Beachface 堆積物中の礫層形成に関する一実験、堆積学研究会2002年春期研究集会講、堆積学研究会。
- 40) 横川美和・関口智寛・砂村継夫：堆積水路実験の利点の一例、複合流および波で形成される円頂状リップルの比較、堆積学研究会2002年秋期研究集会、堆積学研究会堆積学研究会。
- 41) 奥田昇・伊藤明・岩尾一：トウヨシノボリに見られる雌擬態雄、2002年10月、第35回日本魚類学会。

5. 学会及び社会における活動



5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 愛媛海区漁業調整委員会委員、愛媛県
- 2) 愛媛県環境審議会委員、愛媛県
- 3) 愛媛県環境創造センター客員研究員、愛媛県
- 4) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員、愛媛県
- 5) 愛媛県骨材対策委員会委員、愛媛県
- 6) 政策研究委員会委員、えひめ地域政策研究センター
- 7) 自然と人の共生を目指す技術検討会委員、愛媛県

郭 新宇

- 1) 地球フロンティア研究システム研究員（非常勤）、海洋科学技術センター

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 客員教授、東京大学海洋研究所
- 2) 客員教授、横浜市立大学医学部
- 3) 客員研究員、独立行政法人国立環境研究所
- 4) 地球環境科学技術委員会委員、文部科学省
- 5) 科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会）、文部科学省
- 6) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員、文部科学省
- 7) 国立民族学博物館共同研究員、国立民族学博物館
- 8) 海上保安庁海洋情報部非常勤研究官、海上保安庁
- 9) 中央環境審議会水質部会専門委員、環境省
- 10) 中央環境審議会廃棄物リサイクル部会専門委員、環境省
- 11) POPs モニタリング検討会座長、環境省
- 12) POPs 対策検討会委員、環境省
- 13) 化学物質環境汚染実態調査物質選定検討会、環境省
- 14) 化学物質経年モニタリング調査検討会座長、環境省
- 15) 内分泌搅乱化学物質問題検討会委員、環境省
- 16) 内分泌搅乱化学物質による野生生物影響実態調査研究班検討委員、環境省
- 17) 内分泌搅乱化学物質問題に関する日韓共同研究企画検討会に係わる検討委員、環境省
- 18) 野生生物のダイオキシン類蓄積状況調査研究班検討委員、環境省
- 19) ダイオキシン類底質環境基準等設定基礎調査に係わる検討委員会委員、環境省
- 20) 海洋環境モニタリング調査検討会検討員、環境省
- 21) 海洋環境保全対策調査検討会委員、環境省
- 22) 海洋環境モニタリングにおけるバイオアッセイの活用に関する研究会委員、環境省
- 23) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業評価検討委員会委員、環境省
- 24) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員、環境省
- 25) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員、環境省

5. 学会及び社会における活動

- 26) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 27) 廃棄物に係わるダイオキシン類等分析の体系化に関する研究委員会委員, 環境省
- 28) 臭素系ダイオキシン対策等検討調査に関する検討会委員, 環境省
- 29) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 30) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 31) 三崎半島・伊予灘海域漁場環境研究会検討会委員, 愛媛県
- 32) 北九州市 PCB 処理安全性検討委員会委員, 北九州市
- 33) 松山市環境審議会委員, 松山市
- 34) Member of The Scientific and Technological Advisory Panel III (STAP III), United Nations Environment Programme (UNEP)
- 35) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 36) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong

岩田 久人

- 1) 環境試料タイムカプセル事業検討会委員, 国立環境研究所

生態系解析分野

中野 伸一

- 1) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 2) 愛媛県環境審議会専門委員, 愛媛県
- 3) 愛媛県コミュニティ・カレッジ（生涯教育プログラム）講師, 愛媛県

金本自由生

- 1) 中城湾港泡瀬地区環境監視・検討委員会委員, (財) 港湾空間高度化環境研究センター

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 愛媛県骨材対策委員会委員, 愛媛県
- 2) 松山市道後温泉審議会委員, 松山市
- 3) 主任研究員, 独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門 中国センター 生態系環境修復創造研究グループ
- 4) 島根大学汽水域研究センター客員研究員, 島根大学
- 5) 海洋研究所協議会委員, 東京大学

大森 浩二

- 1) 富郷ダムモニタリング準備委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 2) 河川・溪流アドバイザー, 肱川
- 3) 流況変動研究委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 4) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境整備センター
- 5) 水資源対策検討委員会, 松山市
- 6) 四国下水道ビジョン検討委員会, 国土交通省
- 7) 濑戸内海環境改善計画調査検討会, 国土交通省

5.2 学協会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 幹事, 水産海洋学会
- 3) 委員, 副部会長, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 4) 理事, 瀬戸内海研究会議

速水 祐一

- 1) 日本陸水学会将来計画委員

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 会長, 日本環境毒性学会
- 2) 理事, 日本環境科学会
- 3) 理事, 内分泌搅乱化学物質学会
- 4) 評議員, 日本環境化学会
- 5) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 7) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 8) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 9) Editorial Board Member, Environmental Geochemistry and Health (Kluwer Academic Publishers)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会
- 2) 部会長, 日本微生物生態学会微生物生態教育研究部会
- 3) 評議員, マリンバイオテクノロジー学会

上田 拓史

- 1) 編集委員, Plankton Biology and Ecology (英文誌), 日本プランクトン学会
- 2) Copepod Working Group Member, Inland Water Crustacean Specialist Group, ICUN Species Survival Commission

中野 伸一

- 1) 将来計画委員会委員長, 日本陸水学会
- 2) 和文誌編集委員, 日本生態学会

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 海洋科学研究連絡委員, 日本学術会議
- 2) 地球環境研究連絡委員会 IGBP 専門委員会 LOICZ 小委員, 日本学術会議
- 3) 評議員・評議員会副議長, 日本地質学会
- 4) 支部長, 日本地質学会四国支部
- 5) 各賞選考委員, 日本地質学会
- 6) 論文賞選考委員, 日本第四紀学会

5. 学会及び社会における活動

奈良 正和

- 1) 将来計画委員、日本古生物学

5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）

1) 第3回漁場環境保全市民講座 一守ろう愛媛の海 育てよう健全な魚介類一

(愛媛県漁場協同組合連合会と共催、後援：愛媛県、愛媛県真珠養殖漁協協議会、愛媛県真珠貝養殖漁協協議会、愛媛県かん水養魚協議会)

期日：平成14年8月31日(土)

会場：愛媛県宇和島市総合福祉センター

プログラム：

1. 濑戸内海の歴史「山から来た砂、海から来た砂」

愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 井内 美郎

2. 豊後水道の赤潮「その特徴と最近の動向」

愛媛大学沿岸環境科学研究センター助教授 上田 拓史

3. 魚の敵を知ろう「クラゲの大量発生ーその現状と対策」

広島大学大学院生物圏科学研究科教授 上 真一

2) 第4回環境科学特別セミナー（地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催）

期日：平成14年11月15日(金)

会場：愛媛大学工学部学部1号館3階大会議室

気候・海況変動が生態系に与える影響

東京大学海洋研究所教授 杉本 隆成

3) 第5回環境科学特別セミナー（地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催）

期日：平成14年11月30日(土)

会場：愛媛大学農学部大講義室

ゼブラフィッシュ 新しいダイオキシン発生毒性モデル

酪農学園大学獣医学部毒性学教室助教授 寺岡 宏樹

4) 第1回21世紀COE研究交流会 一沿岸海域・湖沼域の地質学一（21世紀COE沿岸環境科学研究拠点と共催）

期日：平成14年11月30日(土)

会場：愛媛大学理学部302教室

あいさつ

愛媛大学副学長 小松 正幸

研究会の趣旨・瀬戸内海の沖積層および沖積層標準層序の見直しについて

愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 井内 美郎

「神門水海」の環境変遷

島根大学汽水域研究センター長 高安 克巳

堆積物の流体力学的解析

静岡大学理学部教授 新妻 信明

ベトナム、メコンデルタの完新統成長過程と浜堤列平野

新潟大学理学部教授 立石 雅昭

北浦の湖底堆積物から読む人的環境改変の歴史

茨城大学理学部教授（前広域水圏環境科学教育研究センター長） 天野 一男

瀬戸内海の活断層

元愛媛大学理学部教授 水野 篤行

もうひとつの汽水域 一中国太郎下流の観測井における淡塩境界の長期変化一

島根大学総合理工学部名誉教授（前汽水域研究センター長） 德岡 隆夫

- 5) 第1回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日：平成14年12月9日(月)
会場：愛媛大学 工学部本館 3階会議室
New and Emerging POPs : A Challenge for Environmental Chemists
Environment Canada, National Water Research Institute Dr. Derek Muir
- 6) 第2回21世紀 COE 特別セミナー・第6回環境科学特別セミナー
(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共に)
期日：平成15年1月15日(水)
会場：愛媛大学 工学部1階11番教室
水域環境生態系における微生物の多様性と物質循環
京都大学生態系センター 永田 俊
- 7) 第3回21世紀 COE 特別セミナー・第7回環境科学特別セミナー
(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共に)
期日：平成15年1月23日(木)
会場：愛媛大学 教育学部 大講義室
胎児の複合汚染 - 子宮内環境をどう守るか -
千葉大学大学院医学研究院環境生命医学教授 森 千里
- 8) 第4回21世紀 COE 特別セミナー・第8回環境科学特別セミナー
(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共に)
期日：平成15年2月19日(水)
会場：愛媛大学 工学部1階11番教室
韓国沿岸海域の赤潮発生段階における植物プランクトンのシストの役割
韓国 漢陽大学自然科学研究所所長・教授 韓 明洙 Myung - SooHan
- 9) 第5回21世紀 COE 特別セミナー・第9回環境科学特別セミナー
(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共に)
期日：平成15年3月4日(火)
会場：愛媛大学 工学部3階会議室
有機スズ分解海洋細菌に関する研究
インド ゴア大学微生物学科准教授 サントシュ・デュベイ
- 10) 沿岸環境科学センター一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会
(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日：平成15年3月19日(水)
会場：愛媛大学 工学部1階11番教室
プログラム
21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告
ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体の発現と重金属蓄積との関係
○阿南弥寿美 (連合農学研究科博士課程2年)・金恩英 (愛媛県衛生環境研究所)・
國頭 恭 (CMES 助手)・岩田久人 (CMES 助教授)・田辺信介 (CMES 教授)
生物環境試料を利用した臭素化ジフェニルエーテル (PBDEs) 汚染のモニタリング
○梶原 夏子 (連合農学研究科博士課程3年)・上野大介 (研究機関研究員)・
田辺 信介 (CMES 教授)
ダイオキシン類によるアジア途上国都市ゴミ集積場の土壤およびヒト母乳汚染
○国末 達也 (連合農学研究科博士課程2年)・渡部真文 (学振特別研究員)・
田辺 信介 (CMES 教授)・A. Subramanian (Annamalai University, India)・

5. 学会及び社会における活動

T. S. Tana (The Cabinet of the Council of Minister, Cambodia) ·

P. H. Viet (Vietnam National University, Vietnam) ·

M. Prudente (De La Salle University, Philippines)

カンボジアにおける地下水のヒ素汚染とヒトへの健康影響評価

○久保田領志 (連合農学研究科博士課程3年) · 國頭 恭 (CMES 助手) ·

阿草 哲郎 (連合農学研究科博士課程1年) · In Monirith (同博士課程3年) ·

田辺 信介 (CMES 教授) · Touch Seang Tana (カンボジア内閣官房)

宇和海におけるピコ植物プランクトンの栄養塩供給に対する応答

○片野 俊也 (研究機関研究員) · 中野 伸一 (CMES 助教授)

地球温暖化による宇和海沿岸生態系への長期的影響評価

：高次消費者ホタルジャコの資源量分析および安定同位体分析に基づく沿岸域生態系の動態解析

奥田 昇 (研究機関研究員) · 大森 浩二 (CMES 助教授)

沿岸環境科学研究中心年次研究成果報告

診断モデルによる燧灘の流動と輸送過程の研究

郭 新宇 (CMES 助教授) · ○二村 彰 (理工学研究科博士後期課程2年) ·

弓削商船高専助手) · 武岡 英隆 (CMES 教授)

豊後水道における急潮の進入過程の数値実験

○角本登与志 (理工学研究科博士前期課程2年) · 郭 新宇 (CMES 助教授) ·

武岡 英隆 (CMES 教授)

瀬戸内海における潮位の長期変動

○兼田 淳史 (CMES 助手) · 高安 大輔 (工学部4年) ·

三浦 幸広 (第六管区海上保安本部) · 武岡 英隆 (CMES 教授)

山陰沖対馬暖流域における初冬季のクロロフィル分布

○森本 昭彦 (水産大学校助手 · CMES 客員研究員) ·

千手 智晴 (九大応力研助教授) · 松野 健 (九大応力研教授 · CMES 客員研究員) ·

黒田 拓幸 (水産大学校講師)

有機塩素化合物によるアジア地域の母乳汚染

○染矢 雅之 (農学研究科修士課程2年) · 渡部 真文 (学振特別研究員) ·

国末 達也 (連合農学研究科博士課程2年) · T. B. Minh (学振外国人特別研究員) ·

I. Monirith (連合農学研究科博士課程3年) · 豊田 卓枝 (愛媛県立医療技術短期大 ·

黒田 優子 (愛媛県立医療技術短期大学) · A. Subramanian (Annamalai University, India) ·

T. S. Tana (The Cabinet of the Council of Minister, Cambodia) ·

M. Prudente (De La Salle University, Philippines) ·

P. H. Viet (Vietnam National University, Vietnam) · 田辺信介 (CMES 教授)

イカ類における微量元素の体内分布および細胞内分布の特徴

野村久美子 (農学研究科修士課程2年) · ○國頭 恭 (CMES 助手) ·

池本 徳孝 (連合農学研究科博士課程2年) · 阿南弥寿美 (同博士課程2年) ·

田辺 信介 (CMES 教授)

有機塩素化合物および有機スズ化合物による東シナ海底棲生物の汚染とその蓄積特性

○笠井 梨恵 (農学研究科修士課程2年) · 高橋 真 (学振特別研究員) ·

田辺 信介 (CMES 教授) · 崎寺 恒巳 (国立科学博物館)

カワウおよびトビにおけるダイオキシン類の蓄積・代謝と肝チトクローム P450系への影響

○久保田 彰 (農学研究科修士課程2年) · 岩田 久人 (CMES 助教授) ·

田辺 信介 (CMES 教授)

抗生素質オキシテトラサイクリン耐性遺伝子 tet34 のアジア沿岸域における分布

○金 錫烈 (連合農学研究科博士課程2年) · 野中 里佐 (学振特別研究員) ·

鈴木 聰 (CMES 教授)

宇和海のアコヤガイ漁場におけるマリンビルナウイルスの生態

○北村 真一 (研究支援推進員) · 鈴木 聰 (CMES 教授)

- 宇和海で優占する *Nitzschia* 属珪藻の生態とアコヤガイ飼料としての評価
 ○橋本 朋樹 (農学研究科修士課程2年)・中野 伸一 (CMES 助教授)
 愛媛県松山市北方海域の砂堆“大洲”の底質季節変化
 ○大平 亮 (理工学研究科博士前期課程1年)・布川 裕也 (理学部4年)・
 井内 美郎 (CMES 教授)
 愛媛県北条市沖の浅海砂堆「大洲」及びその周辺海域におけるバイオクラストの特徴と供給源
 ○小嶋 瑞穂 (理学部4年)・奈良 正和 (CMES 助手)
 瀬戸内海産ナメクジウオの生態学的研究: とくに着底個体の成長と分布について
 ○鎌倉 秀行 (理工学研究科博士前期課程2年)・上田 拓史 (CMES 助教授)・
 布川 裕也 (理学部4年)・大平 亮 (理工学研究科博士前期課程1年)・
 井内 美郎 (CMES 教授)
 愛媛県安芸灘北条沿岸海域における一次生産構造の解析
 ○福元 亨 (理工学研究科博士前期課程2年)・大森 浩二 (CMES 助教授)・
 三島 康史 (産業技術総合研究所中国センター・CMES 客員研究員)
 愛媛県宇和海岩松湾における海底堆積物からみた環境変遷史
 ○天野 敦子 (理工学研究科博士前期課程2年)・井内 美郎 (CMES 教授)
 海砂採取後海域における地形変化—竹原沖を例に—
 ○岩本 直哉 (理工学研究科博士後期課程1年)・井内 美郎 (CMES 教授)・
 塩屋 藤彦 (理工学研究科博士後期課程1年)・井上 卓彦 (同博士前期課程2年)・
 大平 亮 (同博士前期課程1年)

5. 4 学会、後援会などの開催（個人）

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 日本環境毒性学会「生態影響試験と評価に関するセミナー2002」, 平成14年7月, 東京
- 2) 第8回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 平成14年9月, 府中市
- 3) 文部科学省特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」研究成果報告会, 県民文化会館, 平成15年1月, 松山市

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 日本地質学会四国支部総会, 愛媛県総合科学博物館, 平成14年11月, 新居浜市, 支部長

5. 5 学会賞等

環境影響評価予測分野

- 1) 中條喜友・塩屋藤彦・井上卓彦・大平亮・井内美郎: 日本地質学会第109年総会・年会優秀講演賞
- 2) 井上卓彦・塩屋藤彦・為季克章・井内美郎・徳岡隆夫: 日本地質学会・日本地質学会四国支部第2回年会優秀講演賞

6. 國際的活動



6. 1 國際研究プロジェクト

環境動態解析分野

武岡 英隆, 郭 新宇, 兼田 淳史, 速水 祐一

- 1) 平成14年-平成17年, 東南アジアの養殖漁場における漁場管理と環境保全 (科研費基盤研究 (A) (1)), インドネシア技術評価応用庁と共同研究

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成12年-平成14年, 内分泌攪乱物質による海亀類および鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 2) 平成11年-平成14年, 内分泌攪乱物質によるカスピ海の汚染とカスピカイアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, アゼルバイジャン・世界銀行
- 3) 平成11年-平成15年, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局等4カ国
- 4) 平成11年-平成15年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 5) 平成11年-平成15年, 内分泌攪乱化学物質に関する日英共同研究-開発途上国における海棲生物の内分泌攪乱現状調査-, イギリス・プリマス海洋研究所
- 6) 平成13年-平成17年, 内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究-環日本海におけるダイオキシンの魚介類等への蓄積状況について-, 韓国・成均館大学薬学部
- 7) 平成13年-平成17年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (海洋科学分野) (東京大学海洋研究所), インドネシア・タイ・マレーシア・フィリピン・ベトナム
- 8) 平成14年-平成18年, 21世紀 COE 国際共同研究-オランダ沿岸におけるアザラシの大量死と有害物質の汚染および影響に関する環境毒性学的研究, オランダ・エラスムス大学

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成13年4月-平成16年3月, 韓国と日本に共通の魚病微生物の調査, 麗水大学, 韓国
- 2) 平成13年4月-平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (東京大学海洋研究所), フィリピン等5カ国・東南アジア水産開発センター等
- 3) 平成13年4月-平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (北海道大学大学院水産科学研究科), 韓国・釜慶大学等
- 4) 平成14年4月-, 有機スズ分解細菌に関する研究, インドゴア大学, ポルトガルアベイロ大学
- 5) 平成14年4月-, テトラサイクリン耐性遺伝子に関する研究, カナダアルバータ大学

上田 拓史

- 1) 平成9年-平成14年, *Mesocyclops* と *Thermocyclops* の分類学的研究, USA・スミソニアン研究所, ウズベキスタン・ウズベク科学アカデミー動物学研究所, ポーランド・ポーランド科学アカデミー動物学博物館研究所

中野 伸一

- 1) 平成13年12月から, 細菌生物量画像解析システム CMEIAS を用いた自然水域の細菌のバイオマス測定, De-

partment of Microbiology & Molecular Genetics, Michigan State University

- 2) 平成14年8月20日-9月6日, バイカル湖の物質負荷・循環過程が駆動する巨大湖生物生産・生態変遷システム, ロシア, イルクーツク, ロシア科学アカデミー陸水学研究所

金本自由生

- 1) 平成6年度-平成13年度, 日本産ウミヒルモノの研究, オーストラリア・ウェスタンオーストラリア大学電顕センター

環境影響評価予測分野

大森 浩二

- 1) プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用技術開発マングローブ等熱帯沿岸生態系の修復・保全による地球温暖化ガス回収・放出抑制評価技術の開発: 新エネルギー産業技術総合開発機構, 温暖化ガス(二酸化炭素・亜酸化窒素・メタン)についてマングローブ林がシンクになっているのかタンクになっているのかの検討をおこなう。(ベトナム原子力研究所と共同), 2002年6月(ベトナム国)
- 2) タイ国マングローブ生態系の保全: マングローブ林とペントスの相互作用, マングローブ林の自然更新にペントスが以下に関与しているかを検討する。(チュラルンコン大学と共同), 2002年8月(タイ国 trat)

6. 2 在外研究等

環境動態解析分野

- 1) 郭新宇: 文部科学省在外研究員, 平成15年3月~平成16年3月, Old Dominion University, 米国

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 平成14年7月28日~8月3日, 「東南アジアの養殖漁業における漁場管理と環境保全(科学研究費基盤研究(A))」のための調査および研究打ち合わせ, インドネシア技術評価応用庁, Jakarta, Lampung (Smatra), インドネシア

郭 新宇

- 1) 平成14年9月15日~24日, The 11th International Biennial Conference on Physics of Estuaries and Coastal Seas の参加・研究発表, ハンブルク, ドイツ

速水 祐一

- 1) 平成14年7月28日~8月3日, 「東南アジアの養殖漁業における漁場管理と環境保全(科学研究費基盤研究(A))」のための調査および研究打ち合わせ, インドネシア技術評価応用庁, Jakarta, Lampung (Smatra), インドネシア

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成14年4月14日~平成14年4月17日, UNU International Symposium on Tracing Pollutants from Agrochemical Use : Focus on EDC Pollution 招待講演, Hanoi National University, Vietnam
- 2) 平成14年6月17日~平成14年6月23日, Joint Meeting of STAP II and STAP III 参加, United Nations Environment Programme (UNEP), Washington, D. C., U. S. A.
- 3) 平成14年9月2日~平成14年9月8日, 地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam
- 4) 平成14年10月15日~平成14年10月18日, UNEP/GEF Regionally Priority Setting Meeting - Regionally Based As-

6. 國際的活動

- essment of Persistent Toxic Substances 招待講演, Hong Kong Baptist University, Hong Kong
- 5) 平成14年11月16日～平成14年11月20日, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America 参加・講演, Salt Lake City, Utah, U. S. A.
 - 6) 平成14年12月21日～平成14年12月29日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査, Annamalai University, Chennai, India
 - 7) 平成15年3月3日～平成15年3月9日, 2nd Meeting of STAP III 参加, United Nations Environment Programme (UNEP), Washington, D. C., U. S. A.
 - 8) 平成15年3月17日～平成15年3月21日, UNEP/GEF Global Priority Setting Meeting - Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances 参加, Geneva, Switzerland

岩田 久人

- 1) 平成14年5月13日～平成14年5月17日, Second Technical Workshop on Ecotoxicological Impact and Transboundary Transport of Persistent Toxic Substances, Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances 参加・招待講演, Baptist University, Hong Kong.
- 2) 平成14年11月16日～平成14年11月22日, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America 参加・講演・ポスター発表, Salt Lake City, Utah, U. S. A.
- 3) 平成14年12月8日～平成14年12月9日, 北海アザラシ大量死調査研究打ち合わせ, Erasmus University, Rotterdam, Netherland
- 4) 平成14年12月10日～平成14年12月19日, スペシメンバンク観察, Fraunhofer Institute, Schmallenberg, Germany および Hollings Marine Laboratory, NIST, Charleston, NC, U. S. A.
- 5) 平成15年1月4日～平成15年1月5日, 日韓環境ホルモン研究打ち合わせ, Sung Kyun Kwan University, Suwon City, Korea

國頭 恒

- 1) 平成14年9月2日～平成14年9月12日, 地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam
- 2) 平成14年11月16日～平成14年11月20日, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America 参加・講演, Salt Lake City, Utha, U. S. A.

上野 大介

- 1) 平成14年8月11日～平成14年8月16日, 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs - DIOXIN 2002 参加・講演, Barcelona, Spain

Tu Binh Minh

- 1) 平成14年9月2日～平成14年9月8日, 地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam

久保田領志

- 1) 平成14年11月16日～平成14年11月20日, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America 参加・講演, Salt Lake City, Utha, U. S. A.

高橋 真

- 1) 平成14年8月11日～平成14年8月16日, 22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and Persistent Organic Pollutants (POPs) - DIOXIN 2002 参加・ポスター発表, Barcelona, Spain

渡部 真文

- 1) 平成14年10月4日～平成14年10月13日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査, Consumers Association of Penang, Kuala Lumpur & Pulau Pinang, Malaysia
- 2) 平成14年11月16日～平成14年11月20日, SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 23rd Annual Meeting in North America 参加・ポスター発表, Salt Lake City, Utah, U. S. A.
- 3) 平成15年2月22日～平成15年2月25日, International Symposium to Stop PCBs Pollution 招待講演, Consumers As-

sociation of Penang, Pulau Pinang, Malaysia

- 4) 平成15年2月26日～平成15年2月28日，乳製品およびヒト母乳における有害物質の汚染調査，Consumers Association of Penang, Pulau Pinang, Malaysia

梶原 夏子

- 1) 平成14年8月11日～平成14年8月16日，22nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs - DIOXIN 2002参加・ポスター発表，Barcelona, Spain
- 2) 平成14年12月8日～平成14年12月15日，北海ゼニガタアザラシ大量死共同研究打ち合わせ，Erasmus University, Rotterdam, The Netherlands および試料バンク視察，Fraunhofer Institute for Molecular Biology and Applied Ecology, IME, Schmallenberg, Germany
- 3) 平成15年2月16日～平成15年2月24日，北海ゼニガタアザラシ調査，Groningen, The Netherlands

酒井 大樹

- 1) 平成14年12月10日～平成14年12月19日，スペシメンバンク視察，Fraunhofer Institute, Schmallenberg, Germany および Hollings Marine Laboratory, NIST, Charleston, NC, U. S. A.

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成14年1月11日～13日，韓国南岸の魚病調査，韓国麗水大学

上田 拓史

- 1) 平成14年7月22日～平成14年7月26日，8th International Conference on Copepoda 参加・ポスター発表，台湾国立海洋大学

中野 伸一

- 1) 平成14年8月11日～18日，VIII International congress of Ecology (国際生態学会)，Symposium “Aquatic food web and matter cycling”，COEX, Seoul, Korea, オーガナイザー
- 2) 平成15年3月17日，the 3rd World Water Forum (世界水フォーラム)，Symposium F&EN-08 Management of water resources and biological production in coastal environments，京都国際会議場，京都，日本，オーガナイザー

尾崎 浩司

- 1) 平成14年10月18日～平成14年10月26日，North Pacific Marine Science Organization 11th Annual Meeting 参加・講演，青島，中国

6. 4 外国人客員研究員等

生態系解析分野

中野 伸一

- 1) 洪性洙，平成15年1月12日～平成15年3月31日，原生生物鞭毛虫による毒性アオコ摂食に関する生理生態学的研究，大韓民国

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析分野

- 1) 陳泉生，平成14年5月29日，瀬戸内海の環境問題に関するヒヤリングのため，福州大学法学院 院長
- 2) 沈斐敏，平成14年5月29日，瀬戸内海の環境問題に関するヒヤリングのため，福州大学教務所 所長
- 3) 朱遂斌，平成14年5月29日，瀬戸内海の環境問題に関するヒヤリングのため，福州大学法律系 主任

6. 國際的活動

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) Nguyen Quac Thuc, Dang Thi Minh Ngoc and Nguyen Phuc Thai, 平成14年6月25日～平成14年6月30日, 重金属によるベトナムのヒト血液汚染, ベトナム政府研究者派遣事業, National Institute of Occupational and Environmental Health, Vietnam

6. 6 招聘研究員

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) Annamalai Subramanian, 平成14年5月7日～平成14年10月25日, TCMMe および TCPMOH による汚染-地球規模での影響評価, 日本学術振興会外国人招へい研究者(長期), Center of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University, India
- 2) Oyuna V. Tsydenova, 平成14年5月11日～平成14年10月29日, 有機塩素化合物および微量元素によるバイカルアザラシと湖底堆積物の汚染, 松前国際友好財団2002年度外国人招へい研究者, Baikal Institute of Nature Management of Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, Russia
- 3) Nguyen Thi Minh Ngoc, 平成14年7月20日～平成14年8月8日, 生物試料および堆積物試料の重金属分析法に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Geology Faculty, Hanoi University of Science, Vietnam
- 4) Pham Thi Kim Trang, 平成14年9月15日～平成14年10月14日, 地下水のヒ素汚染とその人体影響, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), CETSD, Hanoi National University
- 5) Derek Muir, 平成14年12月8日～平成14年12月10日, 残留性有機汚染物質の新しい緊急課題: 環境化学者の挑戦, 21世紀 COE による研究者招へい, Environment Canada, National Water Research Institute, Canada
- 6) Nguyen Anh Mai, 平成15年1月13日～平成15年2月14日, 生物試料の有機塩素化合物および重金属分析法に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Department of Analytical Chemistry, University of Science, Vietnam National University of Ho Chi Minh City, Vietnam

6. 7 留学生

環境動態解析分野

- 1) Arif Dwi Santoso, 理工学研究科博士前期課程1回生, インドネシア政府派遣, 養殖漁場のモニタリングと環境保全に関する研究, インドネシア

生態環境計測分野

- 1) Tu Binh Minh, CMES 研究機関研究員, Contamination of Bioaccumulative Endocrine Disrupters in Humans and Wildlife from Asian Developing countries (生物蓄積性内分泌攪乱物質によるアジア途上国のヒトおよび野生生物汚染), ベトナム
- 2) In Monirith, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Organochlorine Compounds in Mussels and Fish from Cambodia (カンボジア産イガイおよび魚類の有機塩素化合物汚染), カンボジア
- 3) Nguyen Hung Minh, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Toxic Pollutants in Dumping Sites of Municipal Wastes in Vietnam (有害物質によるベトナムの廃棄物集積場汚染), ベトナム
- 4) Karri Ramu, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Contamination of Persistent Organic Pollutants in Stranded Small Cetaceans from Hong Kong Coastal Waters (香港沿岸に座礁した小型歯鯨類の残留性有機汚染物質汚染), インド
- 5) Agus Sdaryanto, 農学部研究生, 国費, Contamination by Persistent Organic Pollutants in Indonesian Environment (残留性有機汚染物質によるインドネシアの環境汚染), インドネシア
- 6) Nam Dong-Ha, 農学部研究生, 私費, Ecotoxicological Studies on the Metallothionein in Wild Birds (野生鳥類の

メタロチオネインに関する環境毒性学的研究), 韓国

生態系解析分野

- 1) 金錫烈, 連合農学研究科博士課程, 国費, アジア沿岸域の海洋細菌における薬剤耐性遺伝子の分布と変異,
韓国

7. 教育活動



7. 1 所属学生および研究テーマ（平成15年度）

環境動態解析分野

工学部 4回生

- 1) 谷本 宏行：伊方におけるクラゲの長期変動に関する研究
- 2) 長野 慎矢：ミズクラゲの摂餌生態に関する研究
- 3) 野口 朋宏：宇和海における基礎生産のモデル化に関する研究
- 4) 横岡加奈子：豊後水道におけるチッソ・リンの季節変化に関する研究
- 5) 松岡 美佳：豊後水道の急潮予報に関する研究
- 6) 三浦 和：黒潮の流量変動が底入り潮に与える影響
- 7) 山下 智弘：法華津湾におけるクラゲの分布

理工学研究科 博士前期課程

1回生

- 1) 碓井 澄子：瀬戸内海のチッソ・リン収支に関する研究
- 2) 手島 亮一：速吸瀬戸における二酸化炭素フラックスに関する研究
- 3) 中濱 賢一：ADCP データを用いた瀬戸内海の残差流に関する研究
- 4) 蓬萊亜希良：遺伝子流動に着目した海草藻場の解析

2回生

- 1) Arif Dwi Santoso : A study of the optimal management of marine fish cage system and the environmental preservation of their cultural fields in Indonesian waters
- 2) 扇山 舟：宇和海沿岸における低次生産のモデル化に関する研究
- 3) 加藤 晋作：瀬戸内海における残差流の季節変化に関する研究
- 4) 佐野 文彦：リアルタイムデータを用いた急潮予報に関する研究
- 5) 若林 充信：瀬戸内海における通過流に関する研究

理工学研究科 博士後期課程

1回生

- 1) 黒田 寛：沿岸親潮の形成・維持機構に関する研究

3回生

- 1) 菊池 隆展：離散的 A D C P データの解析手法の開発とその瀬戸内海への適用
- 2) 二村 彰：燧灘の成層構造とその形成機構に関する研究

生態環境計測分野

農学部 4回生

- 1) 池田翔太朗：頭足類における微量元素蓄積特性
- 2) 大嶽 昌子：アジア地域のヒト母乳中における有機塩素化合物の汚染と居住環境による蓄積特性
- 3) 岡本 未央：ウミネコの CYP1A 分子種のクローニングと遺伝的多型の解析
- 4) 上川 智子：日本沿岸に漂着した鯨類の有機塩素化合物汚染とその蓄積特性
- 5) 戸根木智幸：北海で大量死したゼニガタアザラシにおける有機塩素化合物の蓄積特性

- 6) 平川 周作：バイカルアザラシの CYP1A 分子種のクローニングおよびそのプロモーター部位の解析
- 7) 望月 裕子：東シナ海およびスールー海産深海生物における有機スズ化合物の汚染とその蓄積特性

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 飯田 麻美：日本沿岸に座礁した鯨類における微量元素蓄積特性、北海で大量死したゼニガタアザラシにおける微量元素蓄積特性
- 2) 越智 美幸：南北半球産ミンククジラにおける有機ハロゲン化合物汚染の現状とその経年変動
- 3) 勝田 裕介：フェニルスズ化合物を含む有機スズ化合物の分析法の確立、北海で大量死したゼニガタアザラシにおける有機スズ化合物および総スズの蓄積特性
- 4) 阪本 智博：バイカルアザラシの CYP2B/2C/3A 分子種のクローニングおよび内分泌攪乱化学物質蓄積と CYP 発現量との関係
- 5) 檜垣 由美：鳥類におけるポリ臭素化ジフェニルエーテル汚染の現状とその経年変動
- 6) 平井 悠款：鯨類 CAR のクローニングと発現機構の解明

2回生

- 1) 上田 浩三：ダイオキシンによる土壤汚染とその浄化技術の開発に関する研究
- 2) Karri Ramu：深海生物における有機ハロゲン化合物の汚染とその蓄積特性、香港産魚類および鯨類における有機ハロゲン化合物の汚染とその蓄積特性
- 3) 滝 ゆかり：日本沿岸に漂着した鯨類の有機スズ化合物汚染とその蓄積特性
- 4) 中西 茂之：外洋性鳥類におけるダイオキシン類の汚染とその蓄積特性
- 5) 中村 真司：海棲高等動物の肝サイトソルにおける Se による Hg、Cd、Ag、Cu の解毒機構、ホヤにおける有機スズ化合物汚染とその蓄積特性
- 6) 馬場 智子：鳥類 CAR/CXR ホモローグのクローニングと発現機構の解明
- 7) 安井 知子：鳥類 AhR1・AhR2 の発現機構の解明およびダイオキシン類との相互作用の解析
- 8) 山本 高久：ポリビア鉱山地域における微量元素汚染

連合農学研究科 博士課程

1回生

- 1) Agus Sudaryanto：インドネシアの土壤およびヒト母乳中における有機塩素化合物の汚染と蓄積特性
- 2) 久保田 彰：鳥類の CYP1A/2C/2K/2J 分子種のクローニングおよび内分泌攪乱化学物質蓄積と CYP 発現量との関係
- 3) Donha Nam：鳥類メタロチオネイン異性体のクローニングおよび微量元素蓄積・細胞内分布とメタロチオネイン発現量との関係
- 4) 新美 聰子：水棲哺乳類における *in vitro* 発現 AhR を用いたダイオキシン類リスク評価系の開発
- 5) 山内 正信：魚類 AhR1・AhR2 のクローニングと発現機構の解明およびダイオキシン類との相互作用の解析
- 6) 渡辺 倫夫：鳥類および陸棲哺乳類における有機塩素化合物（ダイオキシン類を含む）の汚染とその毒性および影響評価に関する研究、野生カラス・ブタ・ネズミにおけるダイオキシン類・有機塩素系農薬の蓄積と肝異物代謝酵素系への影響

2回生

- 1) 阿草 哲郎：アジア開発途上国における微量元素汚染とヒトへの影響
- 2) Nguyen Minh Hong：アジア地域における土壤中有機塩素化合物の汚染とその蓄積特性

3回生

- 1) 阿南弥寿美：ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体発現の分子機構および機能特性の解明
- 2) 池本 徳孝：海棲高等動物における水銀の解毒機構に関する研究、アホウドリにおける微量元素蓄積特性、野生動物における放射性核種蓄積に関する研究
- 3) 越智 久尚：愛媛県の大気環境中における砒素等金属および揮発性有機化合物の挙動に関する研究

7. 教育活動

- 4) 国末 達也：アジア地域におけるヒトおよび野生生物のダイオキシン類汚染とその蓄積特性

生態系解析分野

農学部 4回生

- 1) 水田 誠子：新規オキシテトラサイクリン耐性遺伝子の作用機序
- 2) 住本 大輔：沿岸底泥中からの薬剤耐性遺伝子の検出

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 白石 有子：海洋コア中の微生物群集解析と機能遺伝子の探索

2回生

- 1) 金平 圭介：非捕殺的な魚類健康診断法の開発
- 2) 稲葉 愛美：マリンビルナウイルスのヒラメ体内における感染状況の変化

連合農学研究科 博士課程

1回生

- 1) 道野 史子：沿岸環境での薬剤排出系遺伝子の分布と伝播

2回生

- 1) 金 錫烈：アジア諸国沿岸におけるオキシテトラサイクリン耐性遺伝子の分布と伝播

理学部 4回生

- 1) 桑谷 恵：諫早湾調整池の動物プランクトン相—2002年に行われた短期開門による変化—
- 2) 坂木佳菜子：瀬戸内海の砂堆におけるナメクジウオの生態—成長にともなう分布の変化—
- 3) 門出 優子：有明海北部高濁度水域における動物プランクトン相の季節変化
- 4) 伊部 春香：瀬戸内海の砂堆におけるメイオベントス相の分布と季節変化
- 5) 石川 大介：カサゴの深浅による生活史の相違
- 6) 前田 光栄：サソノハベラ類の深浅による食物と成長の相違
- 7) 宮本 博幸：キュウセンとホンベラのコンディションファクターの変遷

理工学研究科 博士前期課程

1回生

- 1) 関 大悟：有明海北部高濁度水域における有鐘織毛虫類の空間分布と季節変化

2回生

- 1) 丸山 拓也：中島大浦港周辺に出現する仔稚魚とその餌生物の分布
- 2) 有高 智美：藻場を形成する海草の遺伝子流動解析

環境影響評価予測分野

理学部 4回生

- 1) 今村 達紀：伊予市森海岸に分布する郡中層の堆積システムとその変遷
- 2) 碇 雄太：高知県南部の古第三系に見られる生痕化石 *Protovirgularia* の古生態
- 3) 清家 弘治：現世波浪卓越型海岸における堆積相-とくに生物源堆積構造に注目して
- 4) 仁木 康博：中新統田辺層群白浜層の堆積環境
- 5) 村上 彰文：中新統三崎層群浜益野層の堆積環境
- 6) 山本 法証：愛媛県中島沖の砂堆“貝原”の月別底質粒度変化
- 7) 小池 秀和：ヨシノボリ類の生息場所に間する種間競争
- 8) 岡田 康平：造網性水生昆虫類が河川生態系の物質循環に与える影響解析

理工学研究科 博士前期課程

1回生

- 1) 川口 優美：バイカル湖 Posolskaya Bank の堆積物密度からみた過去約40万年間の気候変遷史
- 2) 斎藤 笑子：琵琶湖高島沖湖底堆積物からみた環境変遷
- 3) 中條 喜友：猫瀬戸東方海域の底質分布と海峡形成史
- 4) 布川 裕也：愛媛県北条市沖の砂堆“大洲”の月別底質粒度変化
- 5) 小嶋 瑞穂：瀬戸内海の浅海砂堆に見られるバイオクラストの特徴と供給源
- 6) 佐貫 方城：河川生態系の健全性に基づく流域管理について
- 7) 篠永 知子：ヨシノボリ類の繁殖場所に関する種間競争

2回生

- 1) 大平 亮：音波探査記録からみた備讃瀬戸海域の過去約1万年間の地史
- 2) 藤林 洋子：高知県中部、川内ヶ谷層の堆積環境と生痕化石群集
- 3) 堂浦 旭：熱帯マングローブ林とベントスの相互作用

理工学研究科 博士後期課程

1回生

- 1) 天野 敦子：愛媛県宇和海岩松湾における海底堆積物からみた過去約100年間の環境変遷
- 2) 井上 卓彦：音波探査から見た宍道低地帯の後期更新世以降の地史

2回生

- 1) 岩本 直哉：海底堆積物採取後の海域の地形変化 一竹原沖 三原瀬戸を例に一
- 2) 塩屋 藤彦：燧灘の海底断層系の特徴と堆積盆の状況（音波探査記録より）

7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目（平成14年度）

環境動態解析分野

卒業論文

- 1) 石丸 友洋：フェリーモニタリングデータを用いた瀬戸内海の栄養塩濃度分布に関する研究
- 2) 碓井 澄子：水質長期変動に基づいた瀬戸内海の海域区分に関する研究
- 3) 高安 大輔：瀬戸内海における潮位の長期変動に関する研究
- 4) 宣原 晃司：宇和海の漁獲量変動に関する研究
- 5) 森脇 軌央：豊後水道における急潮の進入過程に関する研究
- 6) 水沼 剛：ミズクラゲの移動・集積機構に関する研究

- 7) 手島 亮一：速吸瀬戸における窒素・リンの輸送とその形態に関する研究
- 8) 秋山 智計：台湾東部の黒潮流量と東シナ海の栄養塩変動に関する研究
- 9) 辻 裕：ADCP 観測結果からの潮流成分の除去法に関する研究

修士論文

- 1) 角本登与志：豊後水道における急潮の進入過程に関する数値実験
- 2) 古泉 統義：夏季の北灘湾における栄養塩供給機構に関する研究
- 3) 西尾 芳高：紀伊水道沖陸棚斜面上水の経年変動と瀬戸内海への影響に関する研究

生態環境計測分野

卒業論文

- 1) 阪本 智博：残留性有機汚染物質によるバイカルアザラシの肝チトクローム P450系への影響
- 2) 檜垣 由美：外洋性鳥類における有機塩素化合物の汚染とその経年変動
- 3) 松下 剛：日本のイヌおよびネコにおける有機塩素化合物汚染の現状とその蓄積特性

7. 教育活動

- 4) 松原 美里：カンボジア都市ゴミ集積場における土壤の微量元素汚染
- 5) 勝田 祐介：イシイルカの脂皮を用いた有機スズ化合物汚染の経年変動モニタリング
- 6) 福岡 健志：キタオットセイ (*Callorhinus ursinus*) における CAR の cDNA クローニング

修士論文

- 1) 荒金 玉美：日本沿岸に漂着した鯨類の有機塩素化合物汚染とその蓄積特性
- 2) Kenichi Ebisuda (戎田健一)
: Arsenic Speciation in the Tissues of Ringed Seals (*Phoca hispida*), (ワモンアザラシに蓄積するヒ素化合物の同定および蓄積特性の解明)
- 3) 笠井 梨恵：有機塩素および有機スズ化合物による東シナ海底棲生物の汚染とその蓄積特性
- 4) 久保田 彰：カワウおよびトビにおける内分泌攪乱化学物質の蓄積・代謝と肝異物代謝酵素への影響
- 5) 酒井 大樹：水棲哺乳動物における新規核内レセプター CAR の同定
- 6) 染矢 雅之：有機塩素化合物によるアジア地域の母乳汚染
- 7) 野村久美子：イカ類における微量元素の体内分布および細胞内分布の特徴
- 8) 渡辺 倫夫：南インドゴミ集積場におけるカラスのダイオキシン類および有機塩素系農薬汚染と肝異物代謝酵素への影響

博士論文

- 1) In Monirith : Contamination by Persistent Organochlorine Compounds in Mussels, Fishes and Birds from Cambodia, (残留性有機塩素化合物によるカンボジアのイガイ、魚介類および鳥類の汚染)
- 2) Natsuko Kajiwara (梶原夏子)
: Contamination by Persistent Organic Pollutants (POPs) in Caspian Seal, Sturgeon and Bony Fish from Caspian Sea, (残留性有機汚染物質によるカスピカイアザラシおよび魚類の汚染)
- 3) 久保田領志：海棲高等動物におけるヒ素の蓄積特性および化学形態に関する比較生物学的研究

生態系解析分野

卒業論文

- 1) 白石 有子：Profile of outer membrane protein of moderately halophilic bacteria.
- 2) 杉野 剛：愛媛県北条市沖の大洲砂堆とその周辺のメイオベントス相の比較
- 3) 白石 智子：浮遊性カイアシ類 *Paracalanus parvus* s. l. の体表微小感覚毛と微小孔を用いた分類学的検討－瀬戸内海産個体と沖縄産個体の比較
- 4) 豊原 慶太：有明海湾奥部の浅瀬における満潮時と干潮時の動物プランクトンの分布
- 5) 永友 郁央：筑後川河口域における汽水性カイアシ類 *Sinocalanus sinensis* の定位機構
- 6) 秋川 聖子：河川底生生物群集における纖毛虫と微細藻類の食物連鎖
- 7) 浅海 理恵：宇和海から単離した鞭毛虫によるピコ植物プランクトンの摂食

修士論文

- 1) 片岡 悠子：Study on microbial community structure in deep-sea sediments.
- 2) 立野 雅也：New determinant of oxytetracycline resistance in *Moraxella* sp. isolated from seawater.
- 3) 鎌倉 秀行：瀬戸内海産ナメクジウオの生態学的研究－とくに浮遊期の成長と着底後の成長および分布について
- 4) 長井 秀文：日本産 *Halicyclops* (Copepoda : Cyclopoida) の分類学的再検討
- 5) 橋本 朋樹：Evaluation of *Nitzschia* (Bacillariophyceae) as food for the pearl oyster *Pinctada fucata martensii* with special reference to the algal ecology
- 6) 福田 美和：Primary and bacterial production on pebbles in a streambed environments
- 7) 松山 純也：Grazing on bacteria by heterotrophic nanoflagellates and ciliates in a streambed environment

環境影響評価予測分野**卒業論文**

- 1) 川口 優美：バイカル湖パソリスコエバンクの堆積物密度からみた気候変遷史
- 2) 斎藤 笑子：琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約14万年間の環境変遷.
- 3) 中條 喜友：音波探査記録から見た猫瀬戸周辺海域の過去約2万年間の海峡形成史
- 4) 布川 裕也：愛媛県松山市北方海域の砂堆“大洲”的底質季節変化
- 5) 西本 晓史：重信川における底生動物群集解析と水質評価
- 6) 佐貫 方城：重信川水系の水質評価
- 7) 岩倉 俊介：愛媛県川内町滑川周辺に露出する久万層群の堆積環境
- 8) 小嶋 瑞穂：愛媛県北条市沖の浅海砂堆「大洲」及びその周辺海域におけるバイオクラストの特徴と供給源

修士論文

- 1) 天野 敦子：愛媛県宇和海岩松湾における海底堆積物からみた環境変遷
- 2) 井上 卓彦：日野川一弓ヶ浜砂州—美保湾系における碎屑物の移動と堆積
- 3) 福元 了：北条沿岸砂堆における生態系解析

7. 3 講義・集中講義**環境影響評価予測分野****講義****武岡 英隆**

- 1) 平成14年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 2) 平成14年度前期, 環境学概論, 愛媛大学工学部
- 3) 平成14年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 4) 平成14年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 5) 平成14年度前期, 地球科学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成14年度後期, 地球を考える, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成14年度後期, 沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成14年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成14年度前期, 海洋環境論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成14年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成14年度前期, 理系数学, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成14年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成14年度前期, 沿岸海洋学, 愛媛大学工学部
- 5) 平成14年度前期, 数理解析学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成14年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 7) 平成14年度前期, 海洋物理学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成14年度後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成14年度後期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

兼田 淳史

- 1) 平成14年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成14年前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成14年前期, 水理学および同演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成14年後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学工学部

集中講義

兼田 淳史

- 1) 平成14年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

生態環境計測分野

講義

田辺 信介

- 1) 平成14年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成14年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成14年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 4) 平成14年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 5) 平成14年度前期, 生物資源化学IV, 愛媛大学農学部
- 6) 平成14年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成14年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 11) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験II, 愛媛大学大学院農学研究科

岩田 久人

- 1) 平成14年度前期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成14年度前期, 環境毒性学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成14年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成14年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部
- 5) 平成14年度前期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成14年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験II, 愛媛大学大学院農学研究科

國頭 恭

- 1) 平成14年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 2) 平成14年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成14年度後期, 生物機能学特論I, 広島大学生物生産学部
- 2) 平成14年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態系解析分野

講義

鈴木 聰

- 1) 平成14年前期, 海を活かす, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成14年前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成14年前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成14年後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 5) 平成14年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習I, 愛媛大学大学院農学研究科

- 7) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

上田 拓史

- 1) 平成14年前期, 生物と環境ー海と生き物, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成14年前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 3) 平成14年前期, 地球生命科学 I, 愛媛大学理学部
- 4) 平成14年前期, 浮遊生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士前期課程
- 5) 平成14年前期, 臨海実習 II, 愛媛大学理学部
- 6) 平成14年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部
- 7) 平成14年後期, 課題研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成14年後期, 水塊指標生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士後期課程
- 9) 平成14年前後期, 生物地球圏科学特別演習, 愛媛大学理学部

中野 伸一

- 1) 平成14年度前期, 分子生態学実験 愛媛大学農学部
- 2) 平成14年後期, 水圏生態学 愛媛大学農学部
- 3) 平成14年後期, 環境基礎生物学演習, 愛媛大学農学部
- 4) 平成14年前期, 水環境保全論 愛媛大学大学院農学研究科修士課程
- 5) 平成14年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成14年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成14年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

金本自由生

- 1) 平成14年度前期, 臨海実習 II, 愛媛大学理学部
- 2) 平成14年度前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部

集中講議

鈴木 聰

- 1) 平成14年後期, 分子病原微生物学, 高知大学大学院農学研究科修士課程

環境影響評価予測分野

講義

井内 美郎

- 1) 平成14年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学理学部
- 2) 平成14年前期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成14年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成14年後期, 地球科学 II, 愛媛大学共通教育
- 5) 平成14年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部
- 6) 平成14年後期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部

大森 浩二

- 1) 平成14年後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成14年後期, 生物と地球, 愛媛大学共通教育

7. 教育活動

奈良 正和

- 1) 平成14年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学理学部
- 2) 平成14年前期, 地球科学野外実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成14年前期, 地質調査法実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成14年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 5) 平成14年前期, 地質野外研究, 愛媛大学理学部
- 6) 平成14年度後期, 地球環境学特論, 愛媛大学理学部
- 7) 平成14年度後期, 地質学実験, 愛媛大学理学部
- 8) 平成14年度通期, 地球科学演習, 愉媛大学理学部

集中講義

井内 美郎

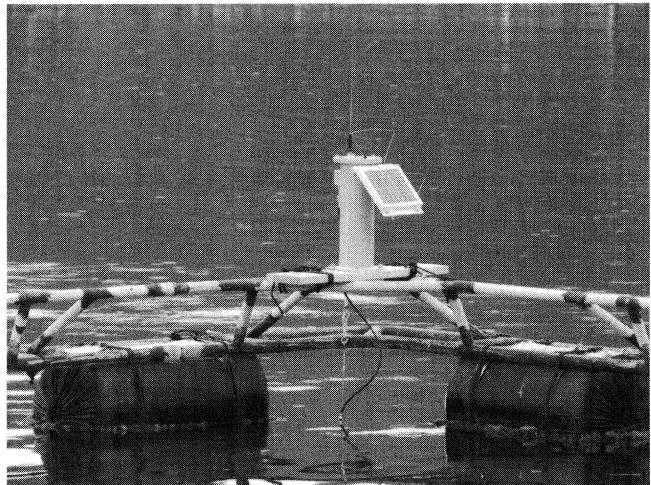
- 1) 平成14年前期集中, 環境講話, 愛媛大学理学部
- 2) 同上
- 3) 平成14年後期集中, 湖沼と環境, 放送大学
- 4) 平成14年後期集中, 地球史環境科学特論Ⅱ, 高知大学理学部
- 5) 平成14年後期集中, 湖沼環境学, 茨城大学理学部

奈良 正和

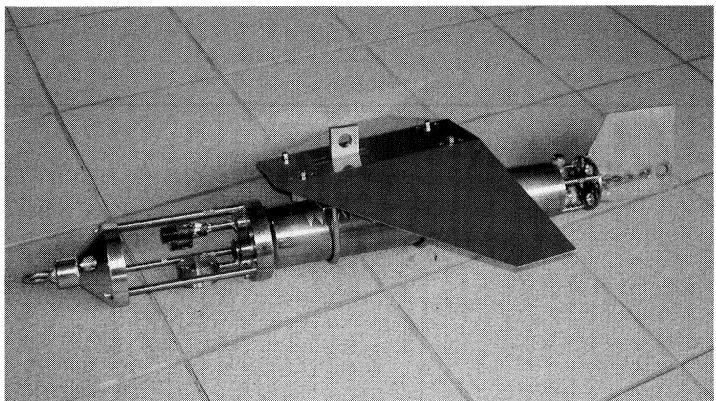
- 1) 平成14年前期, 生物資源科学実習, 愉媛大学農学部

8. 設 備

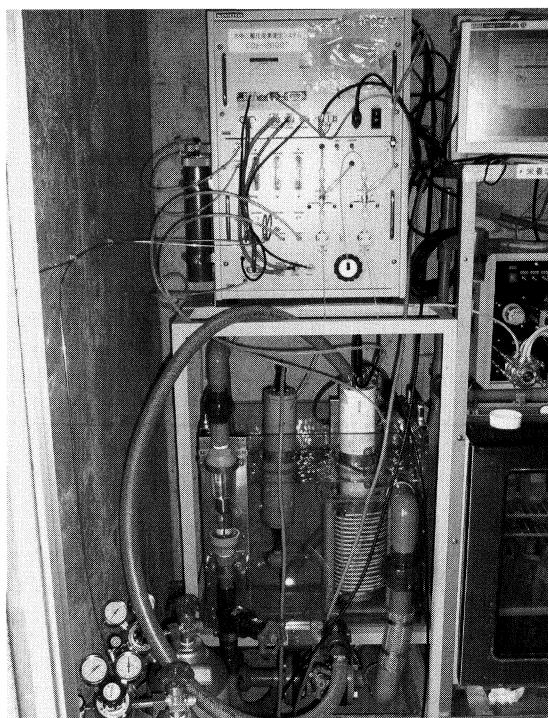
環境動態解析分野



- 3) 曲航式クロロテック：海水中の水温、塩分、クロロフィル蛍光等を測定する装置。従来の鉛直に垂下する形式のものとは異なり、時系列的にデータを記録するため、曲航しながら水平的分布を測定することができる。



- 1) 沿岸海況情報システム：衛星通信式水温計と、データ受信及び解析装置からなるシステム。測定された水温はオープンコム衛星を経由してインターネットで受信装置まで送られる。この水温データは解析装置で解析後、ほぼリアルタイムの水温情報としてインターネットで一般公開され、宇和海の環境変動の研究や養殖漁業などの実用にも供される。この水温情報システムは愛媛県中予水産試験場、愛媛県水産試験場と共同で運用しており、これらの試験場からは漁海況情報などもインターネットで提供されているため、これらのシステム全体を沿岸海況情報システムと呼んでいる。CMESでは平成14年に同型の水温計を宇和海に2台、北海道渡島半島恵山沖に1台設置した。



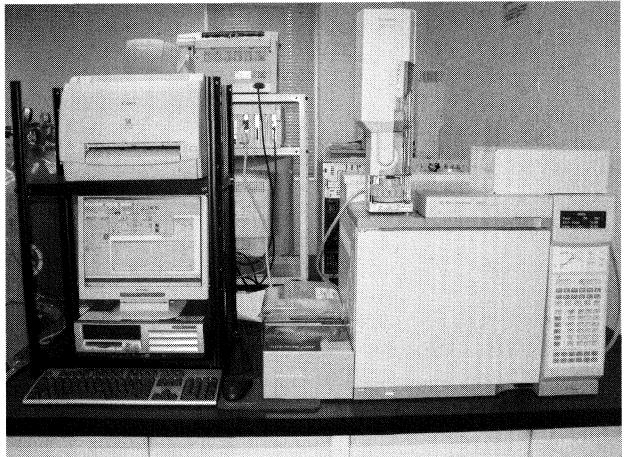
- 2) 水中二酸化炭素測定装置：海水中および大気中の二酸化炭素濃度を自動的に測定するシステム。佐田岬の栄養塩自動観測システムに追加配備された。

8. 設 備

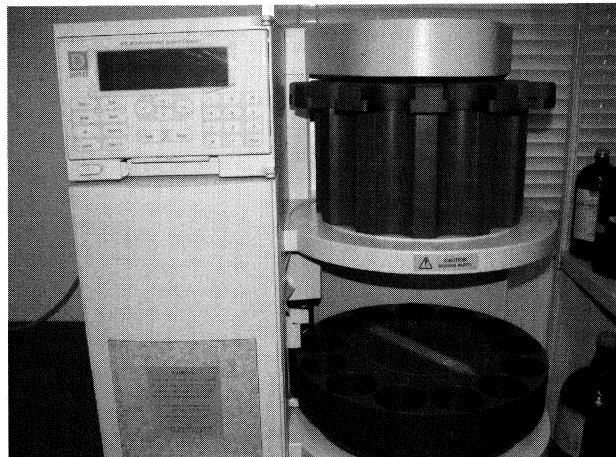
生態環境計測分野



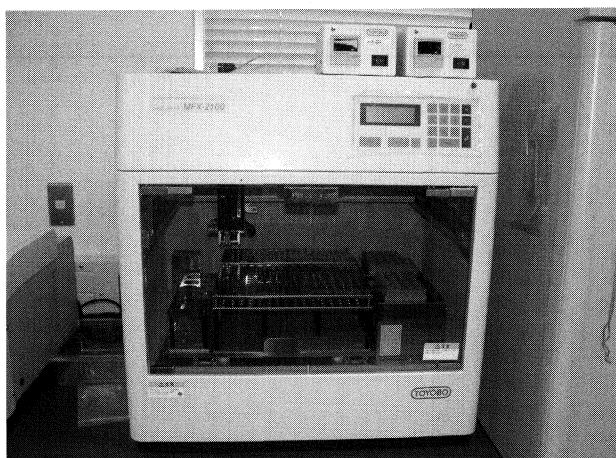
1) 高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計：環境試料中のダイオキシン類を高精度で検出・定量する器機



2) 質量選択検出器付ガスクロマトグラフ：有機臭素化合物など、環境や生体内の微量残留性有機汚染線物質を高精度で同定・定量する機器



3) DNA/RNA 自動抽出装置：多検体の細胞・組織から核酸を全自动で効率的に抽出する装置



4) 大容量高速溶媒抽出装置：生体および環境試料中のダイオキシン類や環境ホルモンを迅速・簡便・効率的に抽出する器機



5) 生体分子精製システム：少量のペプチドタンパク質をクロマトグラフィーを用いて精製する装置



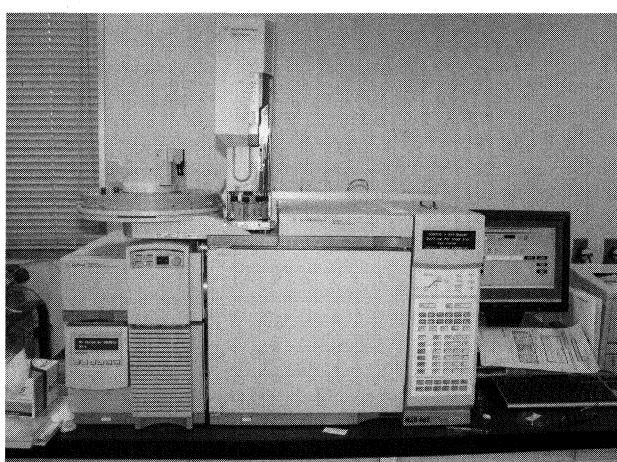
6) 生体分子分取システム：少量のペプチドタンパク質を密度勾配遠心法により分離・分取する装置



7) 冷凍庫：化学分析用の生体試料を-20°Cで凍結保存する容器



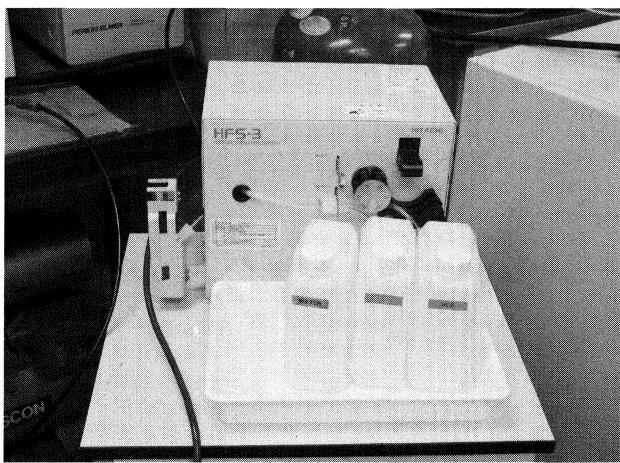
8) 超低温フリーザー：生化学試験用の生体試料を-80°Cで凍結保存する容器



9) FPD 検出器付ガスクロマトグラフ：環境や生物試料中の有機スズ化合物を高精度で同定・定量する機器



10) 凍結乾燥機：低温下で生物試料を乾燥させる装置



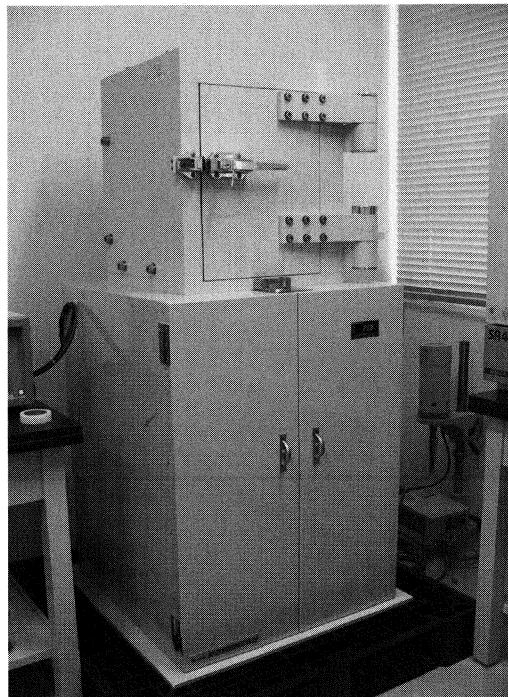
11) 水素化物発生装置：試料中のセレン濃度を測定するための前処理装置

8. 設 備

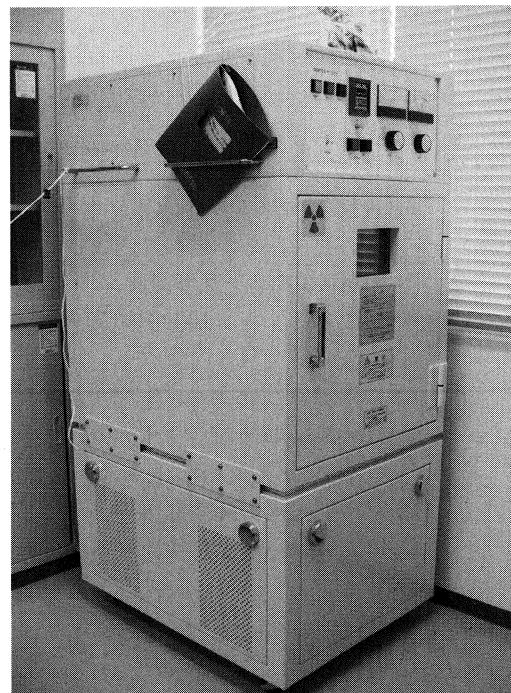
環境影響評価予測分野



1) 安定同位体質量分析器：炭素・窒素・イオウ元素の非放射性である安定同位体比を自然存在比の精度で分析することが出来る。食物連鎖や地球生物化学的研究に応用可能である。



2) 海底堆積速度測定装置：堆積物中の鉛-210およびセシウム-137の鉛直濃度分布から堆積速度を測定するシステムで、環境変遷史を検討する際に堆積物に年代の目盛りを入れることが可能となる。



3) 軟X線写真撮影装置：軟X線の透過量が物質の密度や原子量の違いによって異なることを応用した軟X線写真を撮影する機器。粒径や色調の変化に乏しい底質コア試料や岩石試料の堆積構造観察に有効である。

9. 広 報



9. 1 CMESニュース

CMESニュース No. 5

- 目次 平成13年度 CMES 年次研究成果報告会開催報告
科学研究費による新規プロジェクト
非常勤研究員自己紹介 (1)
非常勤研究員自己紹介 (2)
最近のトピックスから「地底微生物界でのメタン代謝」
開発か自然保護か沖縄島最大級の海草藻場「泡瀬干潟埋立問題」
ジャパンタイムス掲載記事報告
国連環境計画 STAP Meeting 出席報告
Second Technical Workshop on Ecotoxicological Impact and Transboundary Transport of Persistent Toxic Substances, Regionally Based Assessment of Persistent Toxic Substances 参加報告
国際生態学会 (INTECOL) の開催案内
編集後記

CMESニュース No. 6

- 目次 「21世紀 COE プログラム」に採択されました
ロシア・バイカル湖調査報告
研究トピック：北海アザラシ再び大量死
第3回漁場環境保全市民講座開催報告
第4回環境科学特別セミナー
第5回環境科学特別セミナー
国際生態学会 (INTECOL) 参加報告
ダイオキシンシンポ (スペイン) 参加報告
呉市制100周年記念事業海洋環境産業見本市出展報告
テクノオーシャン2002出展報告
研究機関研究員自己紹介
Letters from Edmonton-特別研究員カナダ留学記
新聞掲載記事報告「ダイオキシン類、愛媛県初産婦母乳に高濃度蓄積」
「内分泌攪乱物質の環境リスク」研究成果報告会開催報告
CMES 年次報告会開催案内
CMESニュース編集後記

21世紀 COE ニュース No. 1

- 目次 21世紀 COE プログラムの発足にあたって
COE 沿岸環境科学拠点の概要
「愛媛大学特別シンポジウム：21世紀 COE プログラムの推進に向けて」開催報告
生物試料バンク設立のための海外視察報告
第1回 COE セミナー開催報告
第2回 COE セミナー開催報告
第3回 COE セミナー開催報告

第1回21世紀 COE 研究交流会開催報告

- COE 研究員自己紹介 (1)
- COE 研究員自己紹介 (2)
- COE 研究員自己紹介 (3)
- COE 研究員自己紹介 (4)
- 若手研究採択状況
- 21世紀 COE ニュース編集後記

9. 2 報道関係

共 通

- 1) 平成14年10月30日, 大学の先端研究を後押し-21世紀 COE の第一陣選考, 独自性・将来性に重点, 朝日新聞
- 2) 平成14年10月30日, COE 補助金-愛媛大に2億3100万円, 本年度「沿岸環境科学研究」で, 愛媛新聞

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 平成14年4月6日, 負の遺産-愛媛の海が危ない, 第6部瀬戸内汚染⑤, あるべき水質一生産力維持と両立が課題, 愛媛新聞
- 2) 平成14年6月6日, 豊後水道の潮流調査-1ヵ月間 愛媛・広島大合同で, 愛媛新聞

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成14年4月11日, 紛争の海-海と人類の文明史的危機に警鐘, 水産経済新聞
- 2) 平成14年4月11日, 負の遺産-愛媛の海が危ない, 第6部瀬戸内汚染⑨, 環境ホルモン-拡散回避地球規模対策を, 愛媛新聞
- 3) 平成14年5月17日, Ecotoxicologist warns of pollutants hurting whales, dolphins, humans, The Japan Times
- 4) 平成14年5月29日, ベトナム・ハノイで国連大学シンポジウムを開催, アジアにおける環境汚染と環境ホルモンの有害な影響-愛媛大学教授田辺信介氏, 日本工業新聞
- 5) 平成14年5月30日, 明浜・ホルマリン検出-真珠貝など影響懸念, 愛媛大・田辺教授が見解, 愛媛新聞
- 6) 平成14年5月31日, 人工放射性物質が北半球中心に拡散-愛媛大などの研究チーム調査, 核実験など影響か, 愛媛新聞
- 7) 平成14年6月14日, 漂着スナメリ PCB 蓄積, 瀬戸内海西岸で高濃度-田辺愛媛大教授ら分析, 愛媛新聞
- 8) 平成14年7月14日, 天風録, 中國新聞
- 9) 平成14年8月5日, 地球のカルテ③環境開発サミット, 化学物質-規制巡り途上国と温度差, 日本経済新聞
- 10) 平成14年8月30日, 世界トップ20入り-愛媛大学教授田辺信介氏, 愛媛新聞
- 11) 平成14年9月11日, 愛媛生産方式構築へ, 愛媛県かん水-愛媛大と提携, 水産と食品ニュースみなど新聞
- 12) 平成14年9月25日, 初産婦母乳のダイオキシン類-本県高濃度で蓄積, 愛媛大教授ら調査, 県の対策遅れ指摘, 愛媛新聞
- 13) 平成14年10月1日, 西条・製紙工場跡地 PCB 検出-汚染土壤を除去へ, 愛媛新聞
- 14) 平成14年10月4日, アングルこの人に聞く-愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授田辺信介氏-21世紀 COE に採択, 環境変化の影響解析-内外期間とネット構築, 日本経済新聞
- 15) 平成14年10月17日, 環境分野で「21世紀 COE」に選ばれた愛媛大学環境科学研究センター教授田辺信介さん-地域に貢献する研究を, 朝日新聞
- 16) 平成14年11月18日, 生物試料3万点愛媛大がDB化, 日本経済新聞
- 17) 平成14年11月25日, PCB やダイオキシンなど有害物質アジアで共同監視-環境省呼びかけ地球規模で把握へ, 朝日新聞
- 18) 平成15年1月1日, 明日を開く愛媛の研究者たち1, 動物に学ぶ沿岸環境-汚染拡大明らかに, 世界最高目指す愛大-世界から実態示す試料-四国で唯一国の支援拠点に愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授田辺信介

さん、讀賣新聞

- 19) 平成15年1月、サンヨーインタビュー田辺信介「しっかりした環境教育の重要性」、インタビュアー井田由美、三洋化成ニュース
- 20) 平成15年3月1日、大学Ⅱ第1部大競争時代 COE、地方大オンライン追求、読売新聞
- 21) 平成15年3月29日、Dioxin Dumps - Burning exposed trash pollutes soil、SCIENCE NEWS in Washington, D. C., U. S. A.

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成14年6月15日、養殖魚への抗生物質効果減 細菌の耐性遺伝子発見、愛媛新聞朝刊

上田 拓史

- 1) 平成15年3月16日、危急種「ナメクジウオ」北条沖に大量生息、朝日新聞
- 2) 平成15年3月19日、守ろう！ナメクジウオの住む海、キャッチあい、あいテレビ
- 3) 平成15年3月19日、北条沖ナメクジウオ多数生息、EAT ニュース BOX、愛媛朝日テレビ
- 4) 平成15年3月20日、絶滅危急種のナメクジウオ北条沖に多数生息、愛媛新聞
- 5) 平成15年4月17日、カメラマンレポート「ナメクジウオ」、いよいよワイド、NHK 総合テレビ
- 6) 平成15年4月17日、ナメクジウオ、えひめニュース、NHK 総合テレビ
- 7) 平成15年4月21日、ナメクジウオ、各地のニュース、NHK 総合テレビ

中野 伸一

- 1) 平成14年8月発行「広報うちうみ」、内海村沿岸海域環境調査報告会-内海湾は、いまどうなっているのか、これからどうなるか、内海村役場
- 2) 平成15年3月15日、栄養価低い植物プランクトン：アコヤ貝成長期に増殖、体力奪い感染症を誘発、愛媛新聞

金本自由生

- 1) 平成14年4月14日、アイナメの繁殖生態、TBS どうぶつ奇想天外
- 2) 平成14年5月1日、アマモ移植、不安残る泡瀬干潟埋め立て、朝日新聞朝刊
- 3) 平成14年6月17日、泡瀬埋め立て海草移植地／国や反対派ら合同調査 監視委「枯れ、ひどい状態」、沖縄タイムス夕刊
- 4) 平成14年6月17日、移植海草の状態悪化／泡瀬埋め立て、琉球新報夕刊
- 5) 平成14年6月18日、検討委も意見分かれる／泡瀬埋め立て 繼続調査に合意、沖縄タイムス朝刊
- 6) 平成14年7月25日、本格着工、大幅遅れも／泡瀬埋め立て、沖縄タイムス朝刊
- 7) 平成14年10月16日、環境監視委員金本氏が辞意／泡瀬埋め立て事業、沖縄タイムス朝刊
- 8) 平成14年11月29日、リュウキュウアマモの種子発見 海中道路の北海域／泡瀬埋め立て移植対象、沖縄タイムス朝刊
- 9) 平成14年11月29日、アマモの種子確認、「移植厳しい」と指摘／泡瀬埋め立て、琉球新報朝刊
- 10) 平成15年2月11日、泡瀬干潟を守ろう 日本共産党がシンポジウム、しんぶん赤旗朝刊
- 11) 平成15年2月13日、埋め立て事業の問題点指摘／泡瀬干潟を考えるシンポ、琉球新報朝刊
- 12) 平成15年2月18日、「本当の監視」NGOに期待 泡瀬シンポ、沖縄タイムス朝刊
- 13) 平成15年2月28日、絶滅危惧の海草確認／泡瀬埋め立て、総合事務局に中止要請、琉球新報朝刊
- 14) 平成15年2月28日、泡瀬干潟に希少種の藻／事業中止を要請、沖縄タイムス朝刊
平成15年3月30日、泡瀬の価値再確認へ／干潟シンポジウム、琉球新報朝刊

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 平成14年5月24日、豊穰の海瀬戸内海、NHK テレビ
- 2) 平成14年6月11日、海砂採取の課題、あいテレビ

9. 広 報

- 3) 平成14年 7月 4日, 豊かな砂州漁獲約束, 朝日新聞
- 4) 平成14年 7月 8日, 豊穣の海瀬戸内海, NHK テレビ
- 5) 平成15年 3月 7日, 「液状化」対策, NHK テレビ
- 6) 平成15年 3月16日, 潮流で砂移動 修復の兆しも, 朝日新聞

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆: 環境学ワークショップ—環境への負担の少ない「持続可能な社会」の構築—, 海洋環境問題の歴史と将来展望, 高知工科大学, 6月.
- 2) 武岡 英隆: 持続的養殖ができる漁場環境指標, 水産学会中四国支部シンポジウム, えひめ共済会館, 10月19日
- 3) 武岡 英隆: 日本海洋学会西南支部シンポジウム, 豊後水道・伊予灘における外洋擾乱の影響, 九州大学応用力学研究所, 12月.
- 4) 武岡 英隆: 瀬戸内海環境保全シンポジウム2002, 産学官連携による環境修復に向けて, 瀬戸内海の栄養塩環境の長期変動, 香川大学工学部, 12月.
- 5) 武岡 英隆: 沿岸環境問題について, 愛媛県総合福祉社会館, 愛媛県自然海浜保護指導員研修会, 2月.
- 6) 武岡 英隆: 豊かな海を後世に, 西海町産業振興協議会後援会, 3月.

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介: 地球規模で広がる内分泌攪乱物質の汚染と野生生物への影響, 環境ホルモン講演会-市民のためのわかり易い講演会「環境ホルモン研究はどこまで進んでいるか」, 京都市, 1月, 資料集, 21-34.
- 2) 田辺 信介: 環境保全型養殖漁業について, 第27回全国かん水養殖シンポジウム「国際化の中生き残る魚類養殖業ををめざしてー今こそ求められる組織の役割-」, 宇和島市, 2月.
- 3) Tanabe, S. : Global contamination by persistent organochlorines and their ecotoxicological impact on marine mammals. Lectures in Japan Center for Michigan State university "Japanese Environmental issues from Meiji to Heisei", Hikone, Japan, April.
- 4) 田辺 信介: 環境ホルモンについて, まさきふれあい学園, 地球とともにだち講座, 7月, 伊予郡松前町.
- 5) 田辺 信介: 環境ホルモン, 愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール, 松山市, 7月.
- 6) 田辺 信介: 環境ホルモンと野生生物, 平成14年度愛媛県教育委員会環境教育研修講座, 松山市, 8月.
- 7) 田辺 信介: 途上国における海洋汚染, 国際協力事業団平成14年度第2回技術専門家養成研修「海洋環境保全コース」, 東京, 10月.
- 8) 田辺 信介: 地球を巡る環境ホルモン-広がるヒトと生態系の汚染-, 環境ホルモン市民のためのわかり易い講演会「内分泌攪乱物質(環境ホルモン)研究はどこまで進んでいるか」, 東京, 11月, 資料集, 41-53.

生態系解析分野

- 1) 上田 拓史: 海の生産システムと動物プランクトン, プランクトンセミナー, 佐賀県有明水産振興センター, 8月.
- 2) 上田 拓史: 豊後水道の赤潮ーその特徴と最近の傾向ー, 第3回漁場環境保全民講座, 宇和島市, 8月.
- 3) 中野 伸一: 広がる微生物ループ研究の夢, 国立極地研究所, 1月.
- 4) 中野 伸一: 内海村沿岸海域環境調査報告会, 内海村海洋資源開発センター, 7月.
- 5) 中野 伸一: 内海村沿岸海域環境調査報告会ー内海湾は, いまどうなっているのか, これからどうなるかー, 内海村, 7月.
- 6) 金本自由生: 海草研究の現状と埋立の是非, 泡瀬干潟埋め立てを考えるシンポジウム, 沖縄市, 2月.
- 7) 金本自由生: 海草移植と専門家委員会の問題点, 泡瀬干潟シンポジウム, 埋め立ての問題点と保全に向けて, 東京, 3月.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎：瀬戸内海の歴史・「山から来た砂、海から来た砂」 第3回漁場環境保全市民講座、宇和島市、8月。
- 2) 井内 美郎：瀬戸内海の自然と環境。市民教養講座、松山市、11月。
- 3) 井内 美郎：瀬戸内海の歴史と底質。市民教養講座、東予市、11月。
- 4) 井内 美郎：ナメクジウオ生息域、海砂採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境。第17回ニッセイ財団助成研究ワークショップ。東京、11月。
- 5) 井内 美郎：瀬戸内海の歴史と環境問題。愛媛県総合科学博物館、新居浜市、3月。
- 6) 大森 浩二：干潟の生態系、兵庫県人と自然の博物館、講演会。
- 7) 奈良 正和：生痕化石が語る太古の動物たちの暮らしと地球環境。御所浦町古生物学ワークショップ。御所浦島開発総合センター、11月。

10. 中島マリンステーション利用状況



日付	使用代表者	所属	利用目的	人數
H.14.4.3~4	金本自由生	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.4.21~24	井内美郎	愛媛大学 CMES	呉沖海域音波探査・採泥調査	7
H.14.4.26~27	金本自由生	愛媛大学 CMES	修論研究	3
H.14.4.27~28	山崎大輔	愛媛大学 GRC	セミナー	13
H.14.5.9~10	金本自由生	愛媛大学 CMES	修論研究	3
H.14.5.14	金本自由生	愛媛大学 CMES	修論研究	3
H.14.5.17	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	4
H.14.6.9~12	井内美郎	愛媛大学 CMES	呉沖海域音波探査	5
H.14.6.11	竹内一郎	愛媛大学農学部	ワレカラ類の遺伝学的研究	2
H.14.6.13	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	3
H.14.6.20~21	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.7.4~6	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	2
H.14.7.11~14	野田善郎	愛媛大学理学部	臨海実習I実施のため	33
H.14.7.20~21	遅沢克也	愛媛大学農学部	周辺海岸の自然生態の観察	10
H.14.7.24~25	野田善郎	愛媛大学理学部	海岸動物の採集	1
H.14.7.24~26	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	2
H.14.8.5~9	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.8.13	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	3
H.14.9.2~7	上田拓史	愛媛大学 CMES	公開臨海実習	16
H.14.9.19	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	2
H.14.9.19~28	井内美郎	愛媛大学 CMES	瀬戸内海中部海底地形調査	5
H.14.9.30~10.2	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.10.18	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	3
H.14.10.29~31	井内美郎	愛媛大学 CMES	中島周辺海域音波探査	4
H.14.10.31~11.2	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.11.7~9	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.11.25~30	井内美郎	愛媛大学 CMES	堀江港沖及び伊方沖調査	4
H.14.11.28~30	上田拓史	愛媛大学 CMES	修論研究	1
H.14.11.29~12.1	内田九州男	愛媛大学法文学部	ゼミ合宿及び討論会	32
H.14.12.10	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	3
H.15.1.17	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	3
H.15.2.19	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	4
H.15.3.18	金本自由生	愛媛大学 CMES	稚魚分布調査	4

以上、延べ利用者582人*日

実習調査船「とびうお」運行状況

日付	運行海域	目的	船長
H.14.4.2~3	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.4.20~24	呉 沖	海底音波探査・採泥調査	木田 彰
H.14.5.16	高浜・堀江沖	工学部実習I	木田 彰
H.14.5.17	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.5.20~22	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.5.23	高浜・堀江沖	工学部実習II	木田 彰
H.14.5.27~6.9	燧灘	音波探査・底質調査	木田 彰
H.14.6.10~11	呉 沖	音波探査	木田 彰
H.14.6.13	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.6.14~17	伊予灘・宇和海	海洋観測	木田 彰
H.14.7.5	中島周辺	稚魚分布調査	木田 彰
H.14.7.19~22	宇和海岩松湾	音波探査・底質調査	木田 彰
H.14.7.24	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.7.25	中島周辺	稚魚分布調査	木田 彰
H.14.7.29	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.8.2	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.8.13	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.8.19~21	宇和海岩松湾	音波探査・底質調査	木田 彰
H.14.8.22	燧灘	底質調査	木田 彰
H.14.8.31	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.9.3	中島周辺	公開臨海実習	木田 彰
H.14.9.5	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.9.19	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.9.20~27	貝原周辺海域	海底音波探査	木田 彰
H.14.10.18	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.14.10.30~31	北条沖(大洲)	プランクトン・ベントス調査	木田 彰
H.14.11.26~28	北条沖(大洲)	音波探査・底質調査	木田 彰
H.14.11.29	伊方沖	音波探査	木田 彰
H.14.12.10	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.15.1.17	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.15.2.19	中島周辺	稚魚分布調査	金本自由生
H.15.2.27	北条沖(大洲)	底質調査・ベントス調査	金本自由生
H.15.3.18	中島周辺	稚魚分布調査	木田 彰

以上、延べ運行日数73日

11. 研究員名簿および業績

(研究員：沿岸環境科学研究センター規定（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者)

11. 1 研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
柳沢 康信	理学部生物地球圏科学科	教 授	魚類の繁殖生態に関する研究	環境影響評価予測分野
堀 利栄	理学部生物地球圏科学科	助 手	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
佐藤 成一	理学部生物地球圏科学科	教 授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	環境影響評価予測分野
小南 哲也	理学部生物地球圏科学科	講 師	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	環境影響評価予測分野
中島 敏幸	理学部生物地球圏科学科	助教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	環境影響評価予測分野
佐藤 康	理学部生物地球圏科学科	助 手	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	環境影響評価予測分野
金田 剛史	理学部生物地球圏科学科	助 手	藻類の形態形成に関する研究	環境影響評価予測分野
井上 幹生	理学部生物地球圏科学科	助 手	河川性魚類の生息環境の解析	環境影響評価予測分野
山口 正隆	工学部環境建設工学科	教 授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
伊福 誠	工学部環境建設工学科	助教授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析分野
畠田 佳男	工学部環境建設工学科	助 手	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
鈴木 幸一	工学部環境建設工学科	教 授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析分野
渡邊 政広	工学部環境建設工学科	助教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
西村 文武	工学部環境建設工学科	講 師	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
中村 孝幸	工学部環境建設工学科	助教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析分野
増田 理子	工学部環境建設工学科	講 師	沿岸域の高等植物の保全に関する研究	生態系解析分野
脇本 忠明	農学部生物資源学科	教 授	ダイオキシン類の環境動態	生態環境計測分野
本田 克久	農学部生物資源学科	教 授 (寄付講座)	ダイオキシン類の分析法および処理技術の開発	生態環境計測分野
竹内 一郎	農学部生物資源学科	教 授	藻場生態系の保全	生態環境計測分野
井内 國光	地域共同研究センター	助教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析分野

11. 2 研究員業績

佐野 栄

- 1) Sano, S., Oberhansli, R., Romer, R. and Vinx, R. : Petrological, Geochemical and Isotopic Constraints on the Harzburg Intrusion, Germany. *Journal of Petrology*, 43, 1529-1549.
- 2) 佐野栄・関谷竜児・井内美郎・天野敦子：宇和海表層堆積物の地球化学的特徴、愛媛大学教育学部紀要（自然科学），23，13-24。

柳沢 康信（理学部生物地球圏科学科）

- 1) Ochi, H., Rossiter, A. and Yanagisawa, Y.: Paternal mouthbrooding bagrid catfishes in Lake Tanganyika, *Ichthyological Research*, 49, 270-273.
- 2) Okuda, N., Miyazaki, M. and Yanagisawa, Y.: Sexual difference in buccal morphology of the paternal mouthbrooding cardinal fish *Apogon doederleini*, *Zoological Science*, 19, 801-807.
- 3) Takeyama, T., Okuda, N. and Yanagisawa, Y. : Seasonal pattern of filial cannibalism by *Apogon doederleini* mouthbrooding males, *Journal of Fish Biology*, 61, 633-644.

堀 利栄（理学部生物地球圏科学科）

- 1) Takemura, A., Aita, Y., Hori, R. S., Higuchi, Y., Sporli, B. K., Campbell, H., Kodama, K. and Sakai, T.: Triassic radiolarians from the ocean-floor sequence of the Waipapa Terrane at Arrow Rocks, Northland, New Zealand. *New Zealand Journal of Geology and Geophysics*, 45, 289-296.
- 2) Hori, R. S., Campbell, J. D. and Grant-Mackie, J. A. : Triassic Radiolaria from Kaka Point Structural belt, Otago New Zealand. *Journal of the Royal Society of New Zealand*, 33 (1), 39-55.
- 3) Hori, R. S. and Carter, E. S. : Precise correlation of Radiolaria at the Triassic/Jurassic boundary between Inuyama, Japan and Queen Charlotte islands, Western North America. Abstract of the 6th International Symposium on the Jurassic System, Mondello, Sicily, Italy, 91
- 4) Gorican, S., Carter, E. S., Dumitrica, P., Whalen, P. A., Hori, R. S., ODogherty, L., Guex, J., Bartolini, A. and DeWever, P. : Catalogue and biostratigraphy of Pliensbachian to Aalenian Radiolaria. Abstract of the 6th International Symposium on the Jurassic System, Mondello, Sicily, Italy, 77
- 5) Aita, Y., Sakai, T., Takemura, A., Yamakita, S., Kodama, K., Hori, R. S., Sakakibara, M., Kamata, Y., Suzuki, N., Sporli, K. B. and Campbell, H. J. : Interpretation of the Radiolarian faunas within the accretionary prism of the Waipapa Terrane, New Zealand. Abstract of Annual Conference, Northland of the Geological Society of New Zealand, Whangarei, New Zealand, 2
- 6) Takemura, A., Aita, Y., Yamakita, S., Kamata, Y., Hori, R. S., Suzuki, N., Sporli, K. B., Campbell, H. J., Kodama, K., Sakakibara, M., Nakamura, Y. and Sakai, T. : Early Triassic Radiolarians from Arrow Rocks, Waipapa Terrane, New Zealand. Abstract of Annual Conference, Northland of the Geological Society of New Zealand, Whangarei, New Zealand, 54

小南 哲也（理学部生物地球圏科学科）

- 1) Kominami, T. and Takata, H. : Process of pigment cell specification in the sand dollar, *Scaphechinus mirabilis*. *Dev. Growth Differ.*, 44, 113-125.
- 2) Takata, H., Kominami, T. and Masui, M. : Role of cell contact in the specification process of pigment founder cells in the sea urchin embryo. *Zoolog. Sci.*, 19, 299-307.
- 3) Tokuoka, M., Setoguchi, C. and Kominami, T.: Specification and differentiation processes of secondary mesenchyme-derived cells in embryos of the sea urchin *Hemicentrotus pulcherrimus*. *Dev. Growth Differ.*, 44, 239-250.
- 4) Shoguchi E, Tokuoka M. and Kominami T. 2002. In situ screening for genes expressed preferentially in secondary mesenchyme cells of sea urchin embryos. *Dev. Genes Evol.*, 212, 407-418.

井上 幹生（理学部生物地球圏科学科）

原著論文

- 1) Negishi, J. N., Inoue, M. and Nunokawa, M. : Effects of channelisation on stream habitat in relation to a spate and flow refugia for macroinvertebrates in northern Japan, Freshwater Biology, 47, 1515-1529.
- 2) Inoue, M. and Nunokawa, M. : Effects of longitudinal variations in stream habitat structure on fish abundance : an analysis based on subunit-scale habitat classification, Freshwater Biology, 47, 1594-1607.

山口正隆（工学部環境建設工学科）

- 1) Yamaguchi, M. and Hatada, Y. : A stratified sampling technique in the extreme value analysis and its applicability, Proc. 28th ICCE, 1, 638-650.
- 2) 野中浩一・山口正隆・畠田佳男・大福 学：確率的台風モデルを利用した波高極値の推定システムの日本海における適用性、海岸工学論文集, 49, 176-180.
- 3) 山口正隆・畠田佳男・野中浩一・大福 学：台風モデル風の埋込みによる51年波浪推算システムの改良、海岸工学論文集, 49, 206-210.
- 4) 山口正隆・畠田佳男・野中浩一・大福 学・小出健太郎：瀬戸内海西部海域における高潮・波高の極値の推定、海岸工学論文集, 49, 256-260.
- 5) Yamaguchi, M. and Hatada, Y. : 51-Year wave hindcast and analysis of wave height climate trend on the Northwestern Pacific Ocean, Proc. 7th International Workshop on Wave Hindcasting and Forecasting, 48-59.

その他の論文

- 1) 山口正隆・畠田佳男・野中浩一・大福 学・小出健太郎：瀬戸内海西部海域における波高・高潮の極値の推定、工学ジャーナル, 1 (愛媛大学工学部紀要, 21), 231-244.

伊福 誠（工学部環境建設工学科）

著書

- 1) 日本自然災害学会監修：防災事典、筑地書館株式会社（共著）。

原著論文

- 1) 伊福誠・吉井勇・合田宏隆・中田正人：浅瀬が流れや塩水の混合に及ぼす影響、水工学論文, 第46巻, 905-910.
- 2) 伊福誠・合田宏隆・中田正人：河川感潮域における懸濁物質の観測、海岸工学論文集, 49, 351-355.
- 3) 伊福誠・小林泰之・坂田健治・西本光宏・中田正人：深浅測量結果に基づく備讃瀬戸航路の地形変化、海岸工学論文集, 49, 556-560.

畠田佳男（工学部環境建設工学科）

原著論文

- 1) 畠田佳男・山口正隆・大福 学・李 敏杰・野中浩一：51年波浪推算に基づく北西太平洋における波高の傾向変動の解析、自然災害科学 J. JSNDS, 20 (4), 435-448.
- 2) 畠田佳男・山口正隆・野中浩一・大福 学・李 敏杰：韓国沿岸における波高の極値の推定、自然災害科学 J. JSNDS, 21 (1), 35-50.
- 3) Hatada, Y. and Yamaguchi, M. : Estimation of long-term variability of wave climate around the coastal seas areas of Japan, Proc. 28th ICCE, 1, 61-73.
- 4) 花山格章・関本恒浩・鶴飼亮行・高木泰士・畠田佳男・山口正隆：確率的台風モデルを用いた信頼性設計法、海岸工学論文集, 49, 926-930.
- 5) 畠田佳男・山口正隆・大福 学・野中浩一・李 敏杰：わが国沿岸での長期波浪推算資料に基づく波高の傾向変動の解析、海岸工学論文集, 49, 1346-1350.

その他の論文

- 1) 畠田佳男・山口正隆・大福 学・李 敏杰・野中浩一：わが国沿岸における波候の長期変動の推定、工学ジャーナル, 1 (愛媛大学工学部紀要, 21), 217-229.

鈴木 幸一

- 1) Prajuli, B. B., Suzuki, K. Kadota, A.: M. Sakanashi and K. Utsunomiya : Calculation of bed profile variations with sand-gravel mixture in a steep channel reservoir by modifying tractive force, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE, 46, 797-802.
- 2) 門田章宏・稻津家久・鈴木幸一：河床波背後に発生する組織渦に関する可視化および時間周波数解析, 水工学論文集, 46, 535-540.
- 3) Pathak, K. R., Suzuki, K. and Kadota, A.: Observational study of initiation mechanism of debris flow caused by destruction of natural dam in a steep slope channel, Proc. of the 13th congress of APD-IAHR, Singapore, I, 190-194.
- 4) Kadota, A., Suzuki, K. and Yano, M.: Riprap bed protections and turbulence calculation on the crooked mountain river with sand-gravel mixture, Proc. of the 13th congress of APD-IAHR, Singapore, I, 393-398.
- 5) Parajuli, B. B., Suzuki, K., Kadota, A., Sakanashi, M. and Utsunomiya, K.: Simulation of reservoir bed profiles with sand-gravel mixture in a steep slope channel, Proc. of the 13th congress of APD-IAHR, Singapore, I, 399-404.

本田 克久（農学部生物資源学科）

- 1) Masuno, H., Kidani, T., Sekiya, K., Sakayama, K., Shiosaka, T., Yamamoto, H. and Honda, H.: Bisphenol A combination with insulin can accelerate the conversion of 3T3-L1 fibroblasts to adipocytes, Journal of Lipid Research, 43, 676-684.
- 2) 濱田典明・中村裕史・本田克久：排ガス中のダイオキシン類捕集装置「ダイオアナフィルタ」の性能評価, 環境と測定技術, 29 (7), 37-43.

その他の論文

- 1) 本田克久・井上博雄・横山榮：ダイオキシン類分解技術研究事業, 愛媛大学地域共同研究センター研究成果報告書, 6, 108-112.

竹内 一郎（農学部生物資源学科）

- 1) Furuya, K., Yoshikawa, T., Ramaish, N., Otobe, H., Takeuchi, I., Kaga, S., Takagi, M., Sekiguchi, K. and Kishi, M. J.: Primary production in Otsuchi Bay, Japan, Proceedings : UNU-ORI-Iwate Symposium Marine Ecology and Environment, 10 July 2002, Tokyo, Japan, 17-21.
- 2) Guerra-Garcia, J. M. and Takeuchi, I.: The Caprellidea (Crustacea : Amphipoda) from Ceuta, north Africa, with the description of three species of Caprella, key for Caprella and biogeographical discussion, Journal of Natural History, 36 (6), 675-714.
- 3) Murai, R., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takeuchi, I.: Residues of butyltin compounds along coastal lines of Ehime Prefecture- Concentrations detected in 2001, ten years after the legislation-, Environmental Sciences, 9 (2/3), 227.
- 4) Ohji, M., Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Differences in the acute toxicities of tributyltin between the Caprellidea and the Gammaridea (Crustacea : Amphipoda), Marine Pollution Bulletin, 44 (1), 16-24.
- 5) 斎藤宗勝・四谷 芳・片山舒康・竹内一郎：大槌湾のエゾノネジモク個体群における群落構造の動態の季節変化, 盛岡大学短期大学部紀要, 12, 25-29.
- 6) 竹内一郎：ワレカラウォッチ (Caprella watch) -ワレカラ類を用いた新たな有機スズ化合物のモニタリング方法-, うみうし通信, 35, 2-3.
- 7) Takeuchi, I. and Guerra-Garcia, J. M.: Paraprotella saltatrix, a new species of the Caprellidea (Crustacea: Amphipoda) from Phuket Island, Thailand, Phuket Marine Biological Center Research Bulletin, 23 (1), 273-280.
- 8) Takeuchi, I. and Watanabe, K.: Mobile epiphytic invertebrates inhabiting the brown macro alga, Desmarestia chordarialis under the coastal fast ice of Lutzow-Holm Bay, East Antarctica, Polar Biology, 25, 624-628.

井内 国光（地域共同研究センター）

- 1) 井内国光：地下水と地表水・海水との相互作用 10. 海岸地下水の数値シミュレーション, 地下水学会誌, 44 (2), 125-138.

12. 客員研究員名簿および業績

(客員研究員：沿岸環境科学研究中心規定（14章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

12. 1 客員研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究科	助教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水土圧圈環境研究領域	室長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析分野
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	助教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
橋本 俊也	広島大生物生産学部	助教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析分野
高橋 曉	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析分野
森本 昭彦	水産大学校海洋生産管理学科	助手	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析分野
柳 哲雄	九州大学応用力研究所 力学シミュレーションセンター	教授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析分野
松野 健	九州大学応用力学研究所 海洋大気力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析分野
磯辺 篤彦	九州大学大学院総合理工学研究院	助教授	周防灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
市川 香	九州大学応用力学研究所	助教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析分野
清水 学	九州大学応用力学研究所	助手	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
藤田 正一	北海道大学大学院獣医学研究科	教授	野生生物の薬物代謝機能と有害物質の毒性影響	生体環境計測分野
原 彰彦	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海産魚類における内分泌搅乱物質の影響	生体環境計測分野
宮崎 信之	東京大学海洋研究所	教授	海棲哺乳類の生活史とその環境	生体環境計測分野
新井 崇臣	東京大学海洋研究所大槻臨海研究センター	助手	サケ科魚類を用いた環境モニタリング	生体環境計測分野
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	室長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	生体環境計測分野
功刀 正行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	生体環境計測分野
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	巻貝類の内分泌搅乱の実態及び機構の解明	生体環境計測分野
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	教授	内分泌搅乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	生体環境計測分野
小宮山政敏	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	助手	GFPマウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	生体環境計測分野

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	研究部長	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	生態環境計測分野
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源科学科	助教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	生態環境計測分野
井口 泰泉	岡崎国立共同研究機構 統合バイオサイエンスセンター	教授	内分泌搅乱物質	生態環境計測分野
松井 三郎	京都大学地球環境学大学院	教授	世界の湖沼環境管理のための国際協力のありかた	生態環境計測分野
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院 生物機能科学部門	助教授	水生生物における化学物質の影響	生態環境計測分野
有薗 幸司	熊本県立大学環境共生学部 環境共生科	教授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	生態環境計測分野
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析分野
中村 泰男	国立環境研究所海洋環境研究室	主任研究員	沿岸域海洋生態系における物質循環	生態系解析分野
小池 真夫	東京大学海洋研究所	教授／所長	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
古谷 研	東京大学大学院農学生命科学 研究科	教授	プランクトンの生態と基礎生産過程	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門	教授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析分野
千浦 博	国際基督教大学教養学部理学科	準教授	海洋中での遺伝情報伝播機構と生物進化に関する研究	生態系解析分野
永田 俊	京都大学生態学研究センター	教授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析分野
川端善一郎	京都大学生態学研究センター	教授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析分野
田中 克	京都大学大学院農学研究科	教授	有明海の海産生物に関する研究	生態系解析分野
今井 一郎	京都大学大学院農学研究科	助教授	有害有毒プランクトンの生活史と生理生態学	生態系解析分野
上 真一	広島大学生物生産学部生産海洋学	教授	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析分野
大塚 攻	広島大学大学院生物圏科学研究科 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター	助教授	カイアシ類の分類および形態学的研究	生態系解析分野
高橋 正征	東京大学大学院総合文化研究科 広域システム科学系	教授	プランクトン生態系の構造と環境変動に対する生態系応答	生態系解析分野
深見 公雄	高知大学農学部栽培漁業学科	教授	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析分野
木下 泉	高知大学海洋生物教育研究センター	教授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析分野
立石 雅昭	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
金井 豊	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究センター 地球化学チーム	研究チーム長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
西村 清和	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
齊藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門 沿岸環境保全研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野

12. 客員研究員名簿および業績

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
池原 研	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門海洋地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
星加 章	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門 生態系環境修復創造研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野
三島 康史	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門 生態系環境修復創造研究グループ	主任研究官	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野
高杉 由夫	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門 海洋動態モニタリング研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
公文富士夫	信州大学理学部物質循環学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
横田喜一郎	滋賀県琵琶湖研究所 滋賀県琵琶湖環境部	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野
吉川 周作	大阪市立大学大学院理学研究科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
三瓶 良和	島根大学総合理工学部 地球資源環境学教室	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
高安 克己	島根大学汽水域研究センター	教授センター長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
長谷川修一	香川大学工学部 安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
仲谷 英夫	香川大学工学部 安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
松岡 敦充	長崎大学水産学部 海洋資源動態科学講座	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価 予測分野
本座 栄一	熊本大学大学院自然科学研究科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
前田 広人	鹿児島大学水産学部資源利用科学講座	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面にする研究—	環境影響評価 予測分野
山田 格	国立科学博物館 動物研究部	室長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	環境影響評価 予測分野

12. 2 客員研究員業績

磯田 豊（北海道大学大学院水産科学研究科）

- 1) 磯田 豊・斎田季美治・鈴木 恒：噴火湾石倉沖の数日周期水温変動、沿岸海洋研究, 39, 151-161.
- 1) 中田聰史・磯田 豊・草原和弥：富山湾沖陸棚地形変化による沿岸分枝流の応答、海の研究, 11, 243-258.

原島 省（独立行政法人国立環境研究所水土壌圈環境研究領域）

著書

- 1) 原島省：海洋とその汚染－概説, 471-475, 不破敬一郎・森田昌敏(編) 地球環境ハンドブック第2版, 朝倉書店.
- 2) 原島省：リン・窒素と富栄養化, 475-480, 不破敬一郎・森田昌敏(編) 地球環境ハンドブック第2版, 朝倉書店.
- 3) 原島省：場の喪失, 499-503, 不破敬一郎・森田昌敏(編) 地球環境ハンドブック第2版, 朝倉書店.

その他の論文

- 4) Harashima, A.: Marine Environmental monitoring using ferries in Japan, PICES Scientific Report, 21 11-13
- 5) Hinatsu, M., Tsukada, Y., Minami, Y., Tomita, H. and Harashima, A.: Evaluation of upstream location of sampled water using model ship experiments, PICES Scientific Report, 21 15-21.
- 6) 原島省：陸と海の相互作用をどう測ってゆくか，瀬戸内海，31, 35-39.

塙本 秀史（弓削商船高等専門学校情報工学科）

- 1) 塙本秀史・柳哲雄：有明海の潮汐・潮流，海と空，78 (1), 31-38.

橋本 俊也（広島大学生物生産学部）

- 1) 多田邦尚・一見和彦・橋本俊也：大阪湾・紀伊水道における植物プランクトン群集のサイズ組成，沿岸海洋研究，40, 197-204.
- 2) 橋本俊也：瀬戸内海における人工衛星海色画像の利用，瀬戸内海，31, 22-27.
- 3) 満塩太・柳哲雄・橋本俊也：広島湾のカキ養殖と海洋環境，九州大学大学院総合理工学報告，24, 199-206.

高橋 曜（独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門）

原著論文

- 1) 高橋曜・湯浅一郎・村上和男：瀬戸内海芸予諸島周辺海域の海砂採取が流況に与えた影響，沿岸海洋研究，40 (1), 81-90.
- 2) 高橋曜・村上和男：瀬戸内海忠海沖における海砂利採取の影響－底質移動特性－，海岸工学論文集，49, 1356-1360.

その他の論文

- 3) Takahashi, S. and Murakami, K.: Influence of Sea Sand Mining in the Seto Inland Sea. Proceedings of the 12th International Offshore and Polar Engineering Conference, 1, 467-474.

森本 昭彦（水産大学校海洋生産管理学科）

著書

- 1) 森本昭彦：リモートセンシングによる潮汐・海流の推定，「水産環境の科学」（早川康博，安田秀一編）成山堂，東京，44-63.

原著論文

- 2) 森本昭彦・下川伸也：吉見湾の潮汐予報，水産大学校研究報告，50 (3), 87-92.

柳 哲雄（九州大学応用力研究所力学シミュレーションセンター）

- 1) Yanagi, T., Tokeshi, T. and Kakuma, S.: Eddy activity around the Nansei shoto (Okinawa islands) revealed by TRMM. J. Oceanogr., 58, 617-624.
- 2) Yanagi, T.: Water, salt, phosphorus and nitrogen budgets of the Japan Sea. J. Oceanogr., 58, 797-804.
- 3) Buranapratheprat, A., Yanagi, T., Boonphakdee, T. and Sawangwong, P.: Seasonal variations in inorganic nutrients budgets of the Bangpakong estuary, Thailand. J. Oceanogr., 58, 557-564.
- 4) Nardjaman, S. and Yanagi, T.: Ecosystem conditions in wet and dry seasons of Bantan Bay, Indonesia. La mer, 40, 1-10.
- 5) Umgiesser, G. and Yanagi, T.: Modeling of the circulation, residual currents and residence times in Hakata Bay, Japan. Reports of Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University, 122, 49-57.
- 6) Sachoemar, S. I., Yanagi, T., Ishizaka, J., Kawamura, H., and Kassim, K. K.: Seasonal variability of sea surface chlorophyll-a and temperature around Java, Indonesia. Reports of Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University, 123, 21-28.
- 7) 柳哲雄：沿岸海域の環境容量，海の研究，11, 321-324.
- 8) 柳哲雄：有明海の低次生物生産構造－ノリ不作問題に関連して－，応用数理，12, 49-53.

12. 客員研究員名簿および業績

- 9) 柳哲雄：閉鎖性海域保全の課題と展望－世界閉鎖性海域環境保全会議を踏まえて－，資源環境対策，38，563-566.
- 10) 柳哲雄：関門海峡の潮流と源平合戦，水路新技術講演集，15，57-66.
- 11) 柳哲雄・藤井直紀：沿岸海域生態系保全のための環境モニタリング総合指標の提案，海の研究，11，561-567.
- 12) 塚本秀史・柳哲雄：有明海の潮汐・潮流，海と空，78，31-38.
- 13) 鬼塚剛・柳哲雄・門谷茂・山田真知子・上田直子・鈴木 学：ムラサキイガイ養殖による洞海湾浄化の試み，海の研究，11，403-417.
- 14) 林美鶴・柳哲雄：周防灘と大阪湾奥部の低次生産構造の比較，海の研究，11，591-611.
- 15) 松村剛・石丸隆・柳哲雄：東京湾における窒素とリンの収支，海の研究，11，613-630.
- 16) 満塩太・柳哲雄・橋本俊也：広島湾のカキ養殖と海洋環境，九州大学大学院総合理工学報告，24，199-206.

磯辺 篤彦（九州大学大学院総合理工学研究院）

- 1) Isobe, A., Ando, M., Watanabe, Y., Senju, T., Sugihara, S. and Manda, A.: Freshwater and Temperature transports through the Tsushima-Korea Straits, Journal of Geophysical Research-Oceans, 107 (C7), 2_1-2_20.
- 2) Isobe, A. and Imawaki, S. : Annual variation of the Kuroshio transport in a two-layer numerical model with a ridge, Journal of Physical Oceanography, 32 (3), 994-1009.
- 3) Balotro, S. R., Isobe, A., Shimizu, M., Kaneda, A., Takeuchi, T. and Takeoka, H. : Circulation and Material Transport in Suo-Nada During Spring and Summer Season, Journal of Oceanography, 58,759-773.
- 4) 馬込伸哉・磯辺篤彦・神蔵真人：周防灘における貧酸素水塊の流入河川水に対する応答，沿岸海洋研究，40，59-70.

その他の論文

- 5) 馬込伸哉・磯辺篤彦：周防灘における塩分データの河川流量履歴別分類による河川プリュームの挙動解析，九州大学大学院総合理工学報告，24，195-198，2002.

市川 香（九州大学応用力学研究所）

原著論文

- 1) 衛星海面高度計資料を用いた海面変動の研究，市川香，海の研究，11 (2), 305-319, 2002年3月.

その他の論文

- 2) 6.6章：海洋衛星観測，市川香，海の研究 日本海洋学会創立60周年記念号，11 (1), 90-92.
- 3) Capability of the Complex EOF analysis -- with demonstrations to the NCEP data, Kaoru Ichikawa and Keiko Suito, 九州大学総合理工学報告 (Engineering Sciences Reports, Kyushu University), 24 (1), 23-28.
- 4) Spatial Representability of Coastal Sea Level Variations Near the Kuroshio, Kaoru Ichikawa and Atsushi Kaneda, Pan Ocean Remote Sensing Conference (PORSEC) 2002 Proceedings , 1, 7-10.

藤田 正一（北海道大学大学院獣医学研究科）

著書

- 1) 石塚真由美・岩田久人・藤田正一：環境毒性，トキシコロジー，290-303，朝倉書店
- 2) Ishizuka, M., Yamamoto, Y., Takada, A., Kazusaka, A., Fujita, S.: The loss of enzyme activities by a single amino acid substitution of a newly cloned rabbit CYP2D isozyme, CYP2D24, Oxygenand life, 121-126

原著論文

- 3) Nakai, K., Sakamoto, K., Aoto, T., Ishizuka, M., Kazusaka, A., Fujita, S. : Environmental monitoring by using cytochrome P450 of wild voles, Clethrionomys rufocanus, Environmental Sciences, 9 (2-3), 167
- 4) Aoto, T., Ishizuka, M., Kazusaka, A., Fujita, S. : A novel endocrine disrupting systems of Di-n-butyl phosphate (DBP) via PPAR subfamilies, Environmental Sciences, 9 (2-3), 173
- 5) Sakamoto, K. Q., Kunisue, T., Watanabe, M., Masuda, Y., Iwata, H., Tanabe, S., Akahori, F., Ishizuka, M., Kazusaka, A., Fujita, S. : Accumulation patterns of polychlorinated biphenyl congeners and organochlorine pesticides

- in Steller's sea eagles and white-tailed sea eagles, threatened species, in Hokkaido, Japan, Environ Toxicol Chem, 21 (4), 842-7.
- 6) Chiba, I., Sakakibara, A., Iwata, H., Tanabe, S., Kazusaka, A., Fujita, S.: Hepatic microsomal cytochrome P450s and chlorinated hydrocarbons in largha and ribbon seals from Hokkaido, Japan : Differential response of seal species to Ah receptor agonist exposure. Environ Toxicol Chem, 21 (4), 794-806

その他の論文

- 7) Tilley, R. E., Kemp, G. D., Teramitsu, I., Hall, A. J. : Isolation of two cytochrome P450 cDNAs, CYP1A1 and CYP1A2, from harp seal (*Phoca groenlandica*) and grey seal (*Halichoerus grypus*), Comp Biochem Physiol C Toxicol Pharmacol, 132 (2), 181-91.

原 彰彦 (北海道大学大学院水産科学研究科)

原著論文

- 1) Hiramatsu, N., Chikawa, N., Fukuda, H., Fujita, T., Sullivan, C. V. and Hara, A.: Identification and characterization of proteases involved in specific proteolysis of vitellogenin and yolk proteins in salmonids, J. Exp. Zool., 292, 11-25.
- 2) Hirashima, N., Hirashima, K., Hirano, K. and Hara, A. : Vitellogenin-derived yolk proteins in a hybrid sturgeon, bester *Huso huso x Acipenser ruthenus*: Identification, characterization and course of proteolysis during embryogenesis. Comp. Biochem. Physiol., 131A, 429-441.
- 3) Hirashima, N., Hara, A., Hirashima, K., Fukuda, H., Weber, G. M., Denslow, N. D. and Sullivan, C. V. : Vitellogenin-derived yolk proteins of white perch, *Morone Americana* : purification, characterization and vitellogenin-receptor binding. Biol. Reprod., 67, 655-667.
- 4) 藤井一則・角埜 彰・原 彰彦：時間分解蛍光免疫測定法によるマコガレイ *Pleuronectes yokohamae* コリオジエニン 定量法開発. 環境毒性学会誌, 5 (1), 33-41.
- 5) Fujita, T., Shimizu, M., Hiramatsu, N., Fukuda, H. and Hara, A. : Purification of serum precursor proteins to vitelline envelope (choriogenins) in masu salmon, *Oncorhynchus masou*. Comp. Biochem. Physiol., 132B, 599-610.
- 6) Matsumoto, T., Kobayashi, M., Fukuda, H., Hirano, K., Hara, A., Kaneko, T. and Watabe, S.: Plasma vitellogenin levels in male common carp *Cyprinus carpio* and crucian carp *Carassius cuvieri* of Lake Kasumigaura. Fish. Sci., 68 (5), 1055-1060.
- 7) Shimazu, M., Fujiwara, Y., Fukuda, H. and Hara, A.: Purification and identification of a second form of vitellogenin from ascites of medata (*Oryzias latipes*) treated with estrogen. J. Exp. Zool., 293, 726-735.
- 8) Bailey, K. M., Merati, N., Helser, M., Hiramatsu, N. and Hara, A. : Developmental changes in egg yolk proteins of walleye pollock, *Theragra chalcogramma*, and a comparative study of immunoreactivity of other North Pacific teleosts. Bull. Fish. Sci. Hokkaido Univ., 53 (3), 95-105.

その他の論文

- 9) Ozaki, Y., Fukuda, H., Kazeto, Y., Adachi, S., Hara, A. and Yamauchi, K. : Isolation of two types of cDNA encoding growth hormone receptor-like gene in the Japanese eel, *Anguilla japonica*. Fish. Sci., 68 (Suppl. II), 959-960.
- 10) Fujita, T., Fukuda, H., Shimizu, M., Hiramatsu, N. and Hara, A. : Cloning of cDNA for choriogenin H and choriogenin L of masu salmon. Fish. Sci., 68 (Suppl. II), 1273-1274.
- 11) Hiramatsu, N., Matsubara, T., Weber, G. M., Sullivan, C. V. and Hara, A. : Vitellogenesis in aquatic animals. Fish. Sci., 68 (Suppl. I), 694-699.

堀口 敏宏 (独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域)

原著論文

- 1) Horiguchi, T., Kojima, M., Kaya, M., Matsuo, T., Shiraishi, H., Morita, M. and Adachi, Y. : Tributyltin and triphenyltin induce spermatogenesis in ovary of female abalone, *Haliotis gigantean*, Mar. Environ. Res., 54, 679-684.

その他の論文（含報告書など）

- 2) 陸明・堀口敏宏・白石寛明・柴田康行・安保充・大久保明・山崎素直：ELISA 法によるイボニシ中のテス

- トステロンの個体別分析, 分析化学, 51 (1), 21-27.
- 3) 堀口 敏宏: 内分泌かく乱の生物影響: 貝類への影響, 報告書 東京湾の水質管理と環境ホルモン「東京湾統合沿岸管理研究」をめざして」
 - 4) 堀口 敏宏: アワビ類における内分泌攪乱と有機スズ化合物, NEWS LETTER, 4 (4), 3.
 - 5) 堀口 敏宏: 第2章 内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究の実施 2.1環日本海における有機スズによる海洋汚染と巻貝類への影響, 平成13年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究報告書, 6-12.
 - 6) 堀口 敏宏: 化学物質による野生生物の異常, 理科総合 B 生命と地球環境, 137.
 - 7) 堀口 敏宏: アワビ類における内分泌攪乱と有機スズ化合物の影響, 月刊海洋, 34 (7), 522-528.
 - 8) Horiguchi, T., Cho, Hyeon-Seo., Shiraishi, H., Kojima, M., Kaya, M., Morita, M. and Shimizu, M.: Environmental Monitoring of Organotin (Tributyltin and Triphenyltin) Pollution in Japanese Coastal Waters with Special Reference to Imposex in Gastropods, Proceeding of the International workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs), 81-86.

森 千里 (千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域)

英文原著

- 1) Ishibashi, H., Kobayashi, M., Koshiishi, T., Moriwaki, T., Tachibana, K., Tsuchimoto, M., Soyano, K., Iguchi, T., Mori, C. and Arizono, K.: Induction of plasma vitellogenin synthesis by the commercial fish diets in male goldfish (*carassius auratus*) and dietary phytoestrogens, J Health Sci, 48, 427-434.
- 2) Tobe, T., Toyota, N., Matsuno, Y., Komiyama, M., Adachi, T., Ito, H. and Mori, C.: Embryonic myosin heavy chain and troponin T isoforms remain in cremaster muscle of adult cryptorchid rats induced with flutamide, Arch Histol Cytol, 65, 279-290.
- 3) Nakamura, N., Komiyama, M., Fujioka, M. and Mori, C.: Sorting specificity of spermatogenic cell specific region of mouse hexokinase-s (mHk1-s), Mol Reprod Dev 2002 (in press)
- 4) Mori, C., Hamamatsu, A., Fukata, H., Koh, K-B., Nakamura, N., Takeichi, S., Kusakabe, T., Saito, T., Morita, M., Tanihara, S., Kayama, F., Shiyomi, M., Yoshimura, J. and Sagisaka, K. : temporal changes in testis-weight during the last 50 years in Japan, Anatomical Science International, 77, 109-116.
- 5) Yamamoto, T., Yamamoto, K., Hayase, T., Abiru, H., Shiota, K. and Mori, C.:Mehamphetamine induces apoptosis in seminiferous tubules in male mice testis, Toxicol Appl Pharmacol, 178, 155-160.
- 6) Yang, Y-G., Toyota, N., Tobe, T., Matsuno, Y., Takano, K., Koh, K-B., Komiyama, M. and Mori, C. : Immunohistochemical Changes of Androgen Receptor and Estrogen Receptors α and β in the Gubernaculum of Cryptorchid Rats During Testicular Descent, Acta Histochem Cytochem, 35, 281-286.
- 7) Takano, K., Komiyama, M., Toyota, N. and Mori, C.: Alteration of androgen receptor immunoexpression by neonatal DES-treatment in mouse, Congenital Anomalies, 42, 36-37.
- 8) Adachi, T., Komiyama, M., Ono, Y., Koh, K-B., Sakurai, K., Shibayama, T., Kato, M., Yoshikawa, T., Seki, N., Iguchi, T. and Mori, C.: Toxicogenomic effects of neonatal exposure to diethylstilbestrol on mouse testicular gene expression in the long term : a study using cDNA microarray analysis, Mol Reprod Dev, 63, 17-23.
- 9) Todaka, E. and Mori, C.: Necessity to establish new risk assessment and risk communication for human fetal exposure to multiple endocrine disruptors in Japan, Congenit Anom Kyoto, 42, 87-93.

和文原著

- 10) 足達哲也・小宮山政敏・加藤真樹・関直彦・森千里: 内分泌攪乱物質による遺伝子発現変化のモニタリング, ゲノム医学, 2, 399-405, 2002
- 11) 戸高恵美子・森千里: 内分泌かく乱物質のヒト胎児曝露の現状と対策, 日本醫事新報4070, 22-24.
- 12) 小宮山政敏・森千里: 胎児複合曝露の影響評価, 医学のあゆみ, 201, 137-142, 2002
- 13) 森千里: 内分泌攪乱物質の次世代や男性生殖器への影響とその評価に関する新しい試み, 最新医学, 57, 236-242.
- 14) 松野義晴・川端由香・小宮山政敏・豊田直二・門田朋子・森千里: 医学研究遂行に関する事務手続きの改訂—千葉大学の献体手続き改訂実施要領ー, 解剖学雑誌, 77, 17-20.
- 15) 川端由香・松野義晴・門田朋子・小宮山政敏・豊田直二・森千里: コメディカル教育機関に対して実施する解剖実習見学方法改訂の1例, 千葉医学雑誌, 78, 147-150.

和文著書

- 16) 森千里：胎児の複合汚染，中央公論新社，東京。
- 17) 松井三郎・田辺信介・森千里・井口泰泉 他，環境ホルモンの最前線，有斐閣，東京。

その他

- 18) 森千里：内分泌搅乱物質研究の最前線，はじめに，医学のあゆみ，201，121。
- 19) 森千里：千葉大学大学院医学研究院 S R L 環境健康医学寄附講座の紹介－化学物質の健康に対するリスク評価，リスク削減，予防プロジェクト，S R L 宝函，26，65-66。
- 20) 森千里：トキシコゲノミクスを用いたヒト胎児複合曝露の影響評価法の開発，環境ホルモン学会ニュースレター，5 (3)。

小宮山政敏（千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域）

原著論文

- 1) Takano, K., Komiyama, M., Toyota, N. and Mori, C.: Alteration of androgen receptor immunoexpression by neonatal DES-treatment in mouse, *Congenital Anomalies (Congenit. Anom. Kyoto)*, 42,36-37.
- 2) Adachi, T., Komiyama, M., Ono, Y., Koh, K. -B., Sakurai, K., Shibayama, T., Kato, M., Yoshikawa, T., Seki, N., Iguchi, T. and Mori, C. : Toxicogenomic effects of neonatal exposure to diethylstilbestrol on mouse testicular gene expression in the long term : a study using cDNA microarray analysis, *Mol. Reprod. Dev.*, 63,17-23.
- 3) Yang, Y. -G., Toyota, N., Tobe, T., Matsuno, Y., Takano, K., Koh, K. -B., Komiyama, M. and Mori, C.: Immunohistochemical changes of androgen receptor and estrogen receptors alpha and beta in the gubernaculum of cryptorchid rats during testicular descent, *Acta Histochem. Cytochem.*, 35,281-286.
- 4) Tobe, T., Toyota, N., Matsuno, Y., Komiyama, M., Adachi, T., Ito, H. and Mori, C. : Embryonic myosin heavy chain and troponin T isoforms remain in cremaster muscle of adult cryptorchid rats induced with flutamide, *Arch. Histol. Cytol.*, 65,279-290.
- 5) 川端由香・松野義晴・門田朋子・小宮山政敏・豊田直二・森 千里：コメディカル教育機関に対して実施する解剖実習見学方法改訂の1例，千葉医学雑誌，78，147-150。

他の論文

- 6) 嶋田裕・小宮山政敏・輪湖雅彦：人体9万キロの旅（再掲載），血液の流れに乗り，体のメカニズムを探る，ニュートン別冊（驚異のヒューマン・ボディ），8-33。
- 7) 松野義晴・川端由香・小宮山政敏・豊田直二・門田朋子・森千里：医学研究遂行に関する事務手続きの改訂～千葉大学の献体手続き改訂実施要領～，解剖学雑誌，77，17-20。
- 8) 松野義晴・小宮山政敏・門田朋子・川端由香・小野祐新・佐藤浩二・足達哲也・森千里：千葉大学におけるコメディカル学生の解剖実習見学に対する意識調査，解剖学雑誌，77，77-80。
- 9) 松野義晴・川端由香・小野祐新・佐藤浩二・足達哲也・小宮山政敏・門田朋子・森千里：千葉大学の篤志献体団体による解剖実習施設見学会の開催報告，千葉医学雑誌，78，203-207。
- 10) 小宮山政敏・森千里：胎児複合曝露の影響評価，医学のあゆみ，201，137-142。
- 11) 足達哲也・小宮山政敏・加藤真樹・関直彦・森千里：実験講座マイクロアレイの使い方：内分泌搅乱物質による遺伝子発現変化のモニタリング，ゲノム医学，2，399-405。

高田 秀重（東京農工大学農学部環境資源科学科）

- 1) 間藤ゆき枝・高田秀重・モハマド パウジ ザカリア・栗山雄司・兼広春之：海岸漂着プラスチック粒（レンジンペレット）中の有機汚染物質-汚染物質含有量の地域差と樹脂種による相違-, 環境科学会誌, 15, 415-423.
- 2) Isobe, K., Tarao, M., Zakaria, M. P., Chiem, N. H., Minh, L. Y. and Takada, H. : Quantitative application of fecal sterols using GC-MS to investigate fecal pollution in tropical waters : western Malaysia and Mekong Delta, Vietnam., *Environ. Sci. Technol.*, 36, 4497-4507.
- 3) Okuda, T., Kumata, H., Naraoka, H., Takada, H.: Origin of atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) in Chinese cities solved by compound-specific stable carbon isotopic analyses, *Organic Geochemistry*, 33, 1737-1745.
- 4) 磯部友彦・中田典秀・間藤ゆき枝・西山肇・熊田英峰・高田秀重：プラスチック製食器等からのノニルフェ

12. 客員研究員名簿および業績

- ノールの溶出, 環境化学, 12, 621-625.
- 5) Hayashi, Y., Managaki, S. and Takada, H.: Fluorescent Whitening Agents (FWAs) in Tokyo Bay and adjacent rivers : their application as anthropogenic molecular markers in coastal environments, Environ. Sci. Technol., 36, 3556-3563.
 - 6) Tsutsumi, S., Yamaguchi, Y., Nishida, I., Akiyama, K. Zakaria, M. P. and Takada, H.: Alkylbenzenes in Mussels from South and South East Asian Coasts as a Molecular Tool to Assess Sewage Impact, Mar. Pollut. Bull., 45, 325-3312.
 - 7) Sanada, Y., Matsunaga, T., Yanase, N., Nagao, S., Amano, H., Takada, H., Tkachenko, Y.: Accumulation and Potential Dissolution of Chernobyl-Derived Radionuclides in River Bottom Sediment. Applied Radiation and Isotopes, 56, 751-760.
 - 8) Yao, Y., Masunaga, S., Takada, H. and Nakanishi, J. : Identification of Polychlorinated Dibenz-p-dioxin, Dibenzofuran, and Coplanar Polychlorinated Biphenyl Sources in Tokyo Bay, Japan, Environmental Toxicology and Chemistry, 21, 991-998.
 - 9) Zakaria, M. P., Takada, H., Tsutsumi, S., Ohno, K., Yamada, J., Kouno, E. and Kumata, K. : Distribution of Polycyclic Aromatic Hydrocarbons (PAHs) in Rivers and Estuaries in Malaysia : A Widespread Input of Petrogenic PAHs. Environ. Sci. Technol., 36, 1907-1918.
 - 10) Kumata, H., Yamada, J., Masuda, K., Takada, H., Sato, Y., Sakurai, T. and Fujiwara, K.: Benzothiazolamines (BTs) as Tire Derived Molecular Markers : Sorptive Behavior in Street Runoff and Application to Source Apportioning. Environ. Sci. Technol., 36, 702-708.
 - 11) Okuda, T., Kumata, H., Ishiwatari, R., Naraoka, H., and Takada, H. : Vertical distributions and $\delta^{13}\text{C}$ isotopic compositions of PAHs in Chidorigafuchi Moat sediment, Japan, Organic Geochemistry, 33, 843-848.
 - 12) 栗山雄司・小西和美・兼広春之・大竹千代子・神沼二眞・間藤ゆき枝・高田秀重・小島あづさ：東京湾ならびに相模湾におけるレジンペレットによる海域汚染の実態とその起源, 日本水産学会誌, 68, 164-171.
 - 13) Okuda, T., Kumata, H., Takada, H., Zakaria, M. P., Naraoka, H., and Ishiwatari, R. : Source identification of polycyclic aromatic hydrocarbons in forest fire smoke using molecular and isotopic signature, Atmos. Environ., 36, 611-618.

井口 泰泉（岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター）

学術論文

- 1) Miyagawa, S., D. L. Buchanan, T. Sato, Y. Ohta, Y. Nishina and T. Iguchi: Characterization of diethylstilbestrol-induced hypospadias in female mice, Anat. Rec., 266, 43-50.
- 2) Suzuki, A., A. Sugihara, K. Uchida, T. Sato, Y. Ohta, Y. Katsu, H. Watanabe and T. Iguchi: Developmental effects of perinatal exposure to bisphenol-A and diethylstilbestrol on reproductive organs in female mice, Reprod. Toxicol., 16, 107-116.
- 3) Buchanan, D. L., S. Ohsako, C. Tohyama, P. S. Cooke and T. Iguchi : Dioxin inhibition of estrogen-induced mouse uterine epithelial mitogenesis involves changes in cyclin and transforming growth factor-b expression, Toxicol. Sci., 66, 62-68.
- 4) Okada, A., Y. Ohta, D. L. Buchanan, T. Sato, S. Inoue, H. Hori, M. Muramatsu and T. Iguchi : Changes in ontogenetic expression of estrogen receptor a and not of estrogen receptor b in the female rat reproductive tract, J. Mol. Endocrinol., 28, 87-97.
- 5) Uchida, D., M. Yamashita, T. Kitano and T. Iguchi : Oocyte apoptosis during the transition from ovary-like tissue to testes during sex differentiation of juvenile zebrafish, J. Exp. Biol., 205, 711-718.
- 6) Honma, S., A. Suzuki, D. L. Buchanan, Y. Katsu, H. Watanabe and T. Iguchi: Low dose effect of *in utero* exposure to bisphenol A and diethylstilbestrol on female mouse reproduction. Reprod. Toxicol., 16, 117-122.
- 7) Shimamura, M., K. Kodaira, K. Hino, Y. Ishimoto, H. Tamura and T. Iguchi : Comparison of antiandrogenic activities of vinclozolin and d, l-camphorquinone in androgen receptor gene transcription assay *in vitro* and mouse *in utero* exposure assay *in vivo*. Toxicology, 174, 97-107.
- 8) Watanabe, H., A. Suzuki, T. Mizutani, S. Kohno, D. B. Lubahn, H. Handa and T. Iguchi: Genome-wide analysis of changes in early gene expression induced by estrogen, Genes Cells, 7, 497-507.

- 9) Iguchi, T., H. Watanabe, Y. Katsu, T. Mizutani, S. Miyagawa, A. Suzuki, K. Sone and H. Kato: Developmental toxicity of estrogenic chemicals on rodents and other species, *Congen. Anorm.*, 42, 94-105.
- 10) Iguchi, T., M. Sumi and S. Tanabe : Endocrine disruptor issues in Japan. *Congen. Anorm.*, 42, 106-119.
- 11) Iguchi, T. : Endocrine disrupters and sexual differentiation, *Clin. Pediatr. Endocrinol.*, 11 (Suppl. 18), 51-58.
- 12) Tatarazako, N., Y. Takao, K. Kishi, N. Onikura, K. Arizono and T. Iguchi : Styrene dimers and trimers affect reproduction of daphnia (*Ceriodaphnia dubia*), *Chemosphere*, 48, 597-601.
- 13) Ishibashi, H., M. Kobayashi, T. Koshiishi, T. Moriwaki, K. Tachibana, M. Tsuchimoto, K. Soyano, T. Iguchi, C. Mori and K. Arizono : Induction of plasma vitellogenin synthesis by the commercial fish diets in male goldfish (*Carassius auratus*) and dietary phytoestrogens. *J. Health Sci.*, 48, 427-434.
- 14) Adachi, T., M. Komiyama, Y. Ono, K. -B. Koh, K. Sakurai, T. Shibayama, M. Kato, T. Yoshikawa, N. Seki, T. Iguchi and C. Mori : Toxicogenomic effects of neonatal exposure to diethylstilbestrol on mouse testicular gene expression in the long term : a study using cDNA microarray analysis, *Mol. Reprod. Devel.*, 63, 17-23.
- 15) Katsu, Y., E. Takasu, and T. Iguchi : Estrogen-independent expression of neutropisin, a serin protease in the vagina of mice exposed neonatally to diethylstilbestrol, *Mol. Cell. Endocrinol.*, 195, 99-107.
- 16) Urushitani, H., A. Shimizu, Y. Katsu and T. Iguchi : Early estrogen exposure induces abnormal development of *Fundulus heteroclitus*, *J. Exp. Zool.*, 293, 693-702.
- 17) Okada, A., Y. Ohta, D. L. Buchanan, T. Sato and T. Iguchi : Effect of estrogens on ontogenic expression of progesterone receptor in the fetal female rat reproductive tract, *Mol. Cell. Endocrinol.*, 195, 55-64.
- 18) Uchida, K., A. Suzuki, Y. Kobayashi, D. L. Buchanan, T. Sato, H. Watanabe, Y. Katsu, J. Suzuki, K. Asaoka, C. Mori, K. Arizono and T. Iguchi : Bisphenol-A administration during pregnancy results in fetal exposure in mice and monkeys, *J. Health Sci.*, 48, 579-582.
- 19) Ura, K., T. Kai, S. Sakata, T. Iguchi and K. Arizono: Aquatic acute toxicity testing using the nematode *Caenorhabditis elegans*, *J. Health Sci.*, 48, 583-586.
- 20) Matsuno,, K. Ura, R. Sonoda, Y. Kohara, H. Uesugi, K. Arizono, T. Iguchi and N. Tominaga:Sensing of chemical substances using gene expression patterns in *C. elegans*, *Sensors Materials*, 14, 395-406.

書籍

- 21) Arizono, K., K. Ura, N. Tominaga, T. Kai, Y. Kohara and T. Iguchi : *C. elegans* as a tool for environmental toxicology, In *Toxicogenomics*, Inoue, T. and Pennie, W. D. (eds.), Springer, 129-134.
- 22) Watanabe, H., A. Suzuki, T. Mizutani, H. Handa and T. Iguchi: Large-scale gene expression analysis for evaluation of endocrine disruptors, In *Toxicogenomics*, Inoue, T. and Pennie, W. D. (eds.), Springer, 149-155.
- 23) 井口泰泉:環境ホルモン対策.産業調査会編「食品設備・機器事典～食品流通・加工技術・環境衛生～」, 1085-1090.
- 24) 井口泰泉：第4章 動物の新生児の発達への環境ホルモンの影響. 松井・田辺・森・井口・吉原・有菌・森沢著, 「環境ホルモンの最前線」, 有斐閣選書, pp. 89-134.

その他

- 25) 渡邊肇・井口泰泉・諸橋憲一郎：内分泌搅乱物質の生体内作用発現にかかわる性ステロイド受容体の役割, *日本臨床*, 60, 397-403.
- 26) 井口泰泉:魚類に対するノニルフェノールの影響評価および可塑剤のリスク評価.医学のあゆみ, 201, 123-126.
- 27) 井口泰泉・鷺見学:野生生物の変異と解明された機序, *最新医学*, 57, 221-228.
- 28) 井口泰泉:環境ホルモンの野生動物への影響と研究の状況, *かんきょう*, 27 (3), 15-17.
- 29) 井口泰泉:経済辞典, 有斐閣.
- 30) 太田康彦・山村裕一・井口泰泉:マウス乳腺腫瘍におけるメタロチオネイン発現について, *乳がん基礎研究*, 11, 5-10.
- 31) 渡邊肇・鈴木敦子・井口泰泉:DNAマイクロアレイ法を用いた内分泌かく乱物質の評価, *Endocrine Disrupter, News Letter*, 5 (1), 4.
- 32) 井口泰泉:21世紀の環境と化学物質, *未来材料*, 2 (9), 60-61.
- 33) 井口泰泉:論あいち, 朝日新聞2002年10月12日.
- 34) 井口泰泉:野生動物からの警鐘—環境ホルモン, *交流*, 59, 13-14.

12. 客員研究員名簿および業績

松井 三郎 (京都大学地球環境学大学院)

- 1) Takigami, H., Matsui, S., Matsuda, T. and Shimizu, Y. : The Bacillus Subtilis Rec-assay : a Powerful Tool for Detection of Genotoxic Substances in the Water Environment. Prospect for Assessing Potential Impact of Pollutants from Stabilized Wastes, Waste Management, 22, 209-213.
- 2) Kato, T., Matsuda, T., Matsui, S., Mizutani, T. and Saeki, K. : Activation of the Aryl Hydrocarbon Receptor by Methyl Yellow and Related Congeners : Structure- Activity Relationships in Halogenated Derivatives, Biol. Pharm. Bull., 25, 466-471.
- 3) Matsui, S., Lee, B. C., Kawami, F., Shimizu, Y. and Matsuda, T. : High-performance Liquid Chromatography-bioassay Profiles of Endocrine Disrupters Discharged from Point and Non-point Pollution Sources in Lake Biwa Basin, Lakes and Reservoirs, 7, 289-293.
- 4) 松井三郎・森芳友・足立淳・清水芳久・松田知成：偽の鍵ダイオキシン類と本物の鍵インジゴ・インジルビン, 水, 44-4 (624), 38-40.
- 5) 松井三郎・足立淳・松田知成：家庭排水中の内分泌搅乱物質（環境ホルモン）, 用水と廃水, 44 (1).
- 6) 松田知成・松井三郎：ヒト尿中に存在する強力なAhRリガンド, インディルビン, 医学の歩み, 201(2), 157-158.
- 7) Matsui, S.: Active Landfill Control and Stabilization of MSW, Municipal Solid Waste Management, Springer, 143-147.
- 8) 松井三郎他：地球環境のための技術とくみ シリーズ1 今なぜ地球環境なのか, コロナ社.

吉水 守 (北海道大学大学院水産科学研究科)

原著論文

- 1) 野村哲一・本間裕美・笠井久会・吉水 守: CBB 培地による河川および沿岸で採取されたサケ (*Oncorhynchus keta*) からのせっそう病原因菌 *Aeromonas salmonicida* の検出, 北大水産彙報, 53, 45-50.
- 2) Tanaka, R., Sawabe, T., Yoshimizu, M. and Ezura, Y. : Distribution of *Vibrio halioticoli* around abalone farming in Japan. Microb. Environ., 17, 6-9.
- 3) 渡辺研一・吉水 守: 細胞培養法と RT-PCR 法を組み合わせた神経壊死症ウイルスの検出, 日水試, 68, 197-200.
- 4) 渡辺研一・吉水 守: 大腸菌発現 VNN ウィルス外被タンパク質に対するマツカワの液性免疫応答開始時期, 魚病研究, 37, 92-94.
- 5) Iwamoto, R., Hasegawa, O., LaPatra, S. and Yoshimizu, M.: Isolation and characterization of the Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) lymphocystis disease virus. J. Aquat. Animal Health., 14, 114-123.
- 6) 稲谷浩一・佐藤達郎・吉水守: マス類の細菌性腎臓病対策試験 - PCR 法による BKD 検査について, 栃木試研報, 45, 13-16.
- 7) Sawabe, T., Thompson, F. L., Heyrman, J., Cnockaert, M., Hayashi, K., Tanaka, R., Yoshimizu, M., Hoste, B., Swing, J., and Ezura, Y. : Fluorescent amplified fragment length polymorphism and repetitive extragenic palindromic-PCR fingerprinting reveal host-specific genetic diversity of *Vibrio halioticoli*-like strains isolated from the gut of Japanese abalone. Appl. Env. Microbiol., 68, 4140-4144.
- 8) 笠井久会・中村哲士・吉水 守: 砂原漁港の細菌学的調査, 北大水産彙報, 53, 69-73.
- 9) 笠井久会・中村暢之・吉水 守: 道東の標津川・伊茶仁川および古多糠川の細菌学的調査, 北大水産彙報, 53, 75-82.
- 10) Kim, S-R., Jung, S-J., Kim, Y-J., Kim, J-D., Jung, T-S., Choi, T-J., Yoshimizu, M. and Oh, M-J.: Phylogenetic comparison of viral nervous necrosis (VNN) viruses occurring seed production period. J. Korean Fis. Soc., 35, 237-241.
- 11) 笠井久会・大沢秀一・小林 正・吉水 守: 中圧紫外線ランプによるヒラメのスクーチカ症防除効果, 魚病研究, 37, 199 - 200.

国際学会のプロシードィングス

- 12) Kasai, H., Yoshimizu, M. and Ezura, Y. : Disinfection of water for aquaculture. Proceedings of the International Commemorative Symposium, 70th Anniversary of the JSFS. Fisheries Science, 68 : Supplement I, 821-824.
- 13) Kasai, H. and Yoshimizu, M. : Disinfection of seawater for aquaculture by electrolyzation and its application for hygiene and sanitation of fishing port. Proceedings of 2002 Joint Meeting of Korean Society of Fisheries Science, Korean Society of Fisheries Resources, and Korean Society of Fisheries Engineering, Kunsan University, October 18, 2002, 15-25.

- 14) Yoshimizu, M. and Ezura, Y. : Biological control of fish viral diseases with anti-viral substances producing bacteria. Proceedings of The JSPS-NRCT International Symposium, "Perspective Approaches for Environmental and Health Management in Aquaculture", November, 18, 2002, Rayong, Thailand, 22-30.
- 15) Yoshimizu, M. : Disease problems in aquaculture and its prevention methods - Control strategy for viral diseases of salmonids and flounders. Proceedings of The Workshop for Core University Program on Fisheries Sciences", December 17-18, Cheju, Korea, 14 - 20.
- 16) 吉水守・笠井久会：飼育用水の中圧紫外線処理によるスクーチカ症の防除. Proceedings of The Workshop for Core University Program on Fisheries Sciences, "Health managements of aquatic organisms, Disease problems and control strategy in seed production", December 17 - 18, Cheju, Korea, 1 - 2.
- 17) Nishizawa, T., Muroga, K. and Yoshimizu, M. : Japanese isolates of viral hemorrhagic septicemia virus (VHSV) from Japanese flounder. Proceedings of The Workshop for Core University Program on Fisheries Sciences, "Health managements of aquatic organisms, Disease problems and control strategy in seed production", December 17 - 18, Cheju, Korea, 3 - 5.
- 18) Kasai, H. and Yoshimizu, M. : Disinfection of seawater for aquaculture by electrolyzation. Proceedings of The Workshop for Core University Program on Fisheries Sciences, "Health managements of aquatic organisms, Disease problems and control strategy in seed production", December 17 - 18, Cheju, Korea, 6 - 8.

総説・解説

- 19) 吉水守・笠井久会：種苗生産施設における用水および排水の殺菌, 工業用水, 523, 13-26.
- 20) 吉水守：標津町におけるサケ加工へのHACCPの導入, 農林統計調査, 52 (3), 17-22.
- 21) 笠井久会・吉水守：海水殺菌システムの現状とその効果, 養殖, 臨時増刊号「養魚施設ガイド」, 89-94.
- 22) 吉水守・笠井久会：水産物の安全性確保について - 漁獲から加工・流通・消費まで -, 全国漁港漁場整備技術研究会, 平成14年9月10日, 長崎県島原市, 1 - 6.

報告書

- 23) 吉水守・笠井久会：標津町内を流れる標津川, 伊茶仁川および古多糠川の水質および細菌の調査, 平成13年度水産学術研究「HACCP 対応に向けた標津町内の河川および標津港の水質および細菌に関する調査」報告書, 1-9.
- 24) 吉水守・笠井久会：標津漁港の水質および細菌の調査, 平成13年度水産学術研究「HACCP 対応に向けた標津町内の河川および標津港の水質および細菌に関する調査」報告書, 10-17.
- 25) 吉水守・本西晃・降幡充：OMV 感染耐過魚の成熟期における魚体内でのウイルス分布, サケ科魚類のOIE指定伝染病 OMVD の撲滅に向けた研究, 平成13年度日本水産資源保護協会受託研究結果報告書, 101-102.
- 26) 吉水守・本西晃・降幡充：未受精卵内容物による OMV 不活化および精子への吸着, サケ科魚類のOIE指定伝染病 OMVD の撲滅に向けた研究, 平成13年度日本水産資源保護協会受託研究結果報告書, 102-103.
- 27) 吉水守・本西晃・降幡充：各種消毒剤の OMV 不活化効果, サケ科魚類 OIE 指定伝染病 OMVD の撲滅に向けた研究, 平成13年度日本水産資源保護協会受託研究結果報告書, 104-106.
- 28) 吉水守・本西晃・降幡充：OMV の温度・pH感受性, サケ科魚類 OIE 指定伝染病 OMVD の撲滅に向けた研究, 平成13年度日本水産資源保護協会受託研究結果報告書, 107-108.
- 29) 吉水守：ヒラメリンホシスチス病に対する効果的ワクチンの作用と自動連続注射装置の開発 - 不活化リンホシスチス病ウイルスワクチンの感染防御効果と培養リンホシスチス病ウイルスの性状, 平成13年度北水協会水産学術研究・改良補助事業報告, 49-55.

中村 泰男（国立環境研究所海洋環境研究室）

- 1) 中村泰男：従属栄養生渦鞭毛藻による赤潮制御の可能性, 広石他編, 有害有毒藻類ブルームの予防と駆除, 水産学シリーズ, 134, 81-88.
- 2) Takii, S., Tanaka, H., Kohata, K., Nakamura, Y., Ogura, H. and Takeshita, S.: Seasonal changes in sulfate reduction in sediments in the inner part of Tokyo Bay. Microbes and Environments, 17, 10-17.
- 3) Nakamura, Y., Hagino, M., Hiwatari, T., Iijima, A., Kohata, K. and Furota, T. : Growth of the Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Sanbanse, the shallow coastal area in Tokyo Bay. Fisheries Science, 68, 1309-1316.

- 4) Nakamura, Y.: Sediment oxygen consumption and vertical flux of organic matter in the Seto Inland Sea, Japan. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, 56, 213-220.

川端善一郎（京都大学生態学研究センター）

原著論文

- 1) Nishibe, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S. : Grazing on *Microcystis aeruginosa* by the heterotrophic flagellate *Collofictyon triciliatum* in a hypertrophic pond, *Aquatic Microbial Ecology*, 29, 173-179.
- 2) Kawabata, Z., Manage, P. M., Miyai, Y., Hisamoto, M. and Miyai, M.: Cavitation control as a means of reducing algal biomass in pond waters, *Japanese Journal of Water Treatment Biology*, 38 (4), 203-210.
- 3) Urabe, J., Elser, J. J., Kyle, M., Sekino, T. and Kawabata, Z.: Herbivorous animals can mitigate unfavorable ratios of energy and material supplies by enhancing nutrient cycling, *Ecological Letters*, 5 (2), 177-185.
- 4) Floder, S., Urabe, J. and Kawabata, Z. : The influence of fluctuating light intensities on species composition and diversity of natural phytoplankton communities, *Oecologia*, 133, 395-401.
- 5) Genkai-Kato, M., Sekino, T., Yoshida, T., Miyasaka, H., Khodzher, T. V., Belykh, O. A., Melnik, N. G., Kawabata, Z., Higashi, M. and Nakanishi, M. : Nutritional diagnosis of phytoplankton in Lake Baikal, *Ecological Reserch*, 17, 135-142.
- 6) Manage, P. M., Kawabata, Z., Nakano, S. and Nishibe, Y. : Effect of heterotrophic nanoflagellates on the loss of virus-like particles in pond water, *Ecological Resseach*, 17, 473-479.
- 7) Ishii, N., Takeda, H., Doi, M., Fuma, S., Miyamoto, K., Yanagisawa, K. and Kawabata , Z. : A new method using enhanced green fluorescent prtein (EGFP) to determine grazing rate on live bacterial cells by protists, *Limnology*, 3, 47-50.
- 8) Tomaru, Y., Ebisuzaki, S., Kawabata, Z. and Nakano, S. : Respiration rates of the Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, feeding on *Pavlova lutheri* and *Chaetoceros gracilis*, *Aquaculture Research*, 33, 33-36.
- 9) Tomaru, Y., Kumatabara, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S.: Effect of water temperature and chlorophyll abundance on shell growth of the Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, in suspended culture at different depths and sites, *Aquaculture Research*, 33, 109-116.
- 10) Tomaru, Y., Ueda, N., Kawabata, Z. and Nakano, S.:Seasonal change of seston size distribution and phytoplankton composition in bivalve pearl oyster *Pinctada fucata martensii* culture farm, *Hydrobiologia*, 481, 181-185.
- 11) Kitamura, S., Tomaru, Y., Kawabata, Z. and Suzuki, S. : Detection of marine birnavirus from Japanese pearl oyster *Pinctada fucata* and seawater from different depth, *Diseases of Aquatic Organisms*, 50, 211-217.
- 12) 府馬正一・石井伸昌・武田洋・川端善一郎・一政祐輔：モデル実験生態系に対するγ線と酸性化の複合影響, *RADIOISOTOPES*, 51, 204-213.
- 13) Fuma, S., Ishii, N., Takeda, H., Miyamoto, K., Yanagisawa, K., Ichimasa, Y., Saito, S. and Kawabata, Z. : Characterization of simple aquatic microcosm for ecotoxicity screening, *Japanese Journal of Environmental Toxicology*, 5 (2), 51-63.

田中 克（京都大学大学院農学研究科）

著書

- 1) 田中克・木下泉（編）：スズキと生物多様性-水産資源生物学の新展開, 恒星社厚生閣, 東京, 155.
- 2) D. H. Secor, 田中克：スズキ類の河口域遺存性と生活史の進化「スズキと生物多様性-水産資源生物学の新展開」(田中克・木下泉編), 恒星社厚生閣, 東京, 140-152.

原著論文

- 3) Hossain, M. A. R., Tanaka, M. and Masuda, R.: Predator-prey interaction between hatchery-reared Japanese flounder juvenile, *Paralichthys olivaceus*, and sandy shore crab, *Matuta lunaris*: daily rhythms, anti-predator conditioning and starvation. *J. of Exp. Mar. Biol. Ecol.*, 267, 1-14.
- 4) Gwak, W. -S. and Tanaka, M. : Changes in RNA, DNA and protein contents of laboratory-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* during metamorphosis and settlement. *Fisheries Science*, 68, 27-33.
- 5) Hashimoto, H., Mizuta, A., Okada, N., Suzuki, T., Tagawa, M., Tabata, K., Yokoyama, Y., Sakaguchi, M.,

- Tanaka, M. and Toyohara, H. : Isolation and characterization of a Japanese flounder clonal line, reversed, which exhibits reversal of metamorphic left-right asymmetry. *Mechanisms of Development*, 111, 17-24.
- 6) Shoji, J., Aoyama, M., Fujimoto, H., Iwamoto, A. and Tanaka, M. : Susceptibility to starvation by piscivorous Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* (scombridae) larvae at first feeding. *Fisheries Science*, 68, 59-64.
 - 7) Masuda, R., Shoji, J., Aoyama, M. and Tanaka, M. : Chub mackerel larvae fed fish larvae can swim faster than those fed rotifers and *Artemia nauplii*. *Fisheries Science*, 68, 320-324.
 - 8) Trijuno, D. D., Yoseda, K., Hirokawa, J., Tagawa, M., Tanaka, M. : Effects of thyroxine and thiourea on the metamorphosis of coral trout grouper *Plectropomus leopardus*. *Fisheries Science*, 68, 282-289.
 - 9) Kamisaka, Y., Kaji, T., Masuma, S., Tezuka, N., Kurokawa, T., Suzuki, T., Totland, G. K., Ronnedstad, I., Tagawa, M. and Tanaka, M. : Ontogeny of cholecystokinin-immunoreactive cells in the digestive tract of bluefin tuna, *Thunnus thynnus*, larvae. *Sarsia*, 87, 258-262.
 - 10) Kaji, T., Kodama, M., Arai, H., Tagawa, M. and Tanaka, M. : Precocious development of the digestive system in relation to early appearance of piscivory in striped bonito *Sarda orientalis* larvae. *Fisheries Science*, 68, 1212-1218.
 - 11) Dou, S., Masuda, R., Tanaka, M. and Tsukamoto, K. : Feeding resumption, morphological changes and mortality during starvation in Japanese flounder larvae. *Journal of Fish Biology* 60, 1363-1380.
 - 12) 日比野学・木下泉・太田太郎・田中克：筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態、魚類学雑誌, 49 (2), 103-108.
 - 13) 日比野学・太田太郎・木下 泉・田中克：有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚、魚類学雑誌, 49 (2), 109-120.
 - 14) 小路 淳・前原 務・武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・田中 克：瀬戸内海中央部の燧灘において採集された仔稚魚、日本水産学会誌, 68 (6), 835-842.

その他

- 15) 田川正朋・中山耕至・田中克：魚類の変態と初期生残。月刊海洋号外, 29, 161-166.
- 16) 小路淳・田中克：資料 瀬戸内海中央燧灘の破碎帶において採集された魚類稚仔、水産増殖, 50 (1), 123-128.

今井 一郎 (京都大学大学院農学研究科)

著書

- 1) 今井一郎・吉永郁生：赤潮の予防と駆除。微生物利用の大展開 (今中忠行・加藤千明・加藤暢夫・倉根隆一郎・西山徹・矢木修身編), 881-888, エヌ・ティー・エス, 東京。
- 2) 今井一郎：大型藻類と魚類の混合養殖による赤潮の発生予防。有害有毒藻類ブルームの予防と駆除 (広石伸互, 今井一郎, 石丸隆編), 19-29, 恒星社厚生閣, 東京。

原著論文

- 3) Nishitani, G., Sugioka, H. and Imai, I. : Seasonal distribution of species of the toxic dinoflagellate genus *Dinophysis* in Maizuru Bay (Japan), with comments on their autofluorescence and attachment of picophytoplankton. *Harmful Algae* 1, 253-264.
- 4) Imai, I., Fujimaru, D. and Nishigaki, T. : Co-culture of fish with macroalgae and associated bacteria : A possible mitigation strategy for noxious red tides in enclosed coastal sea. *Fisheries Science* 68 Supplement, 493-496.
- 5) Hiroishi, S., Nakai, R., Seto, H., Yoshida, T. and Imai, I. : Identification of *Heterocapsa circularisquama* by means of antibody. *Fisherie Science* 68 Supplement, 627-628.

その他

- 6) Fukuyo, Y., Imai, I., Kodama, M. and Tamai, K. : Red tides and other harmful algal blooms in Japan. In : Harmful algal blooms in the PICES region of the North Pacific (ed. Taylor, F. J. R & V. L. Trainer) PICES Scientific report No. 23, pp. 7-20, North Pacific Marine Science Organization (PICES), Sidney, Canada.

上 真一 (広島大学生物生産学部生産海洋学)

原著論文

- 1) Uye, S., Aoto, I. and Onbe, T. : Seasonal population dynamics and production of *Microsetella norvegica*, a widely-distributed but little known marine planktonic harpacticoid copepod, *J. Plankton Res.*, 24, 143-153.
- 2) Nagano, N. and Uye, S. : Seasonal variations in abundance, biomass, in situ growth rate and production of tintinnid ciliates in Kure Port, the Inland Sea of Japan, *Bull. Soc. Sea Water Sci., Japan*, 56, 142-149.
- 3) 上真一：沿岸表層の連鎖系, *月刊海洋*号外, 29, 137-142.

その他の論文

- 4) 上真一・相崎守弘：魚類種苗生産基地としての閉鎖性汽水域の高度水産的利用計画に関する研究, *財ソルト・サイエンス研究財団平成12年度助成研究報告集*, 235-244.
- 5) 藤井直紀・上真一：広島湾と太田川を巡る環境と人間活動の変遷, *水産海洋研究*, 66, 188-190.

大塚 攻 (広島大学大学院生物圏科学研究科)

- 1) Nishida, S., Ohtsuka, S. and Parker, A. R. : Functional morphology and food habits of deep-sea copepods of the genus *Cephalophanes* (Calanoida:Phaenidae): perception of bioluminescence as a strategy for food detection, *Marine Ecology Progress Series*, 227, 157-171.
- 2) Ohtsuka, S., Nishida, S. and Nakaguchi, K.: Three new species of the genus *Macandrewella* (Copepoda: Calanoida: Scolecithrichidae) from the Pacific Ocean, with notes on distribution and feeding habits, *Journal of Natural History*, 36, 531-564
- 3) 竹下俊治・鳥越兼治・大塚攻・久家光雄：海と海辺の生物を題材とした体験・学習活動の実践 (1), *学校教育実践学研究*, 8, 49-55.
- 4) Komai, T., Ohtsuka, S., Nakaguchi, K. and Go, A. : Decapod crustaceans collected from the southern part of the Sea of Japan in 2000-2001 using TRV Toyoshio-maru, *Natural History Research*, 7, 19-73.
- 5) Walter, T. C., Ohtsuka, S., Putchakarn, S., Pinkaew, K. and Chullasorn, S. : Redescription of two species of *Pseudodiaptomus* from Asia and Australia (Crustacea : Copepoda : Calanoida : Pseudodiaptomidae) with discussion of the female genital structure and zoogeography of Indo-West Pacific species, *Proceedings of Biological Society of Washington*, 115, 650-669.

深見 公雄 (高知大学農学部栽培漁業学科)

原著論文

- 1) Adachi, M., Fukami, K., Kondo, R. and Nishijima, T. : Identification of marine algicidal *Flavobacterium* sp. 5N-3 using multiple probes and whole-cell hybridization. *Fisheries Sci.*, 68, 713-720.
- 2) Patel, A. B., Fukami, K., Karim, Md. A. and Nishijima, T. : Stimulation of regenerations of inorganic nitrogen and phosphorus in surface and bottom waters of a eutrophic inlet by adding effective bacteria. *Microb. Environ.*, 17, 205-213.
- 3) Fukami, K., Ruangdej, U., Patel, A. B. and Nishijima, T. : Improvement of eutrophic coastal bottom environments by using an optical fiber and effective psychrophilic bacteria. *Fisheries Sci.*, 68, 617-620.

その他の論文

- 4) 深見公雄：光ファイバーと有用微生物を用いた内湾底泥環境の浄化技術開発, *エコインダストリー*, 7 (8), 14-21.
- 5) 深見公雄：光ファイバーと有用好冷細菌を利用した内湾底泥の環境浄化, *養殖*2002年6月号, 80-83.
- 6) 深見公雄：マングローブ生態系から潮汐により沿岸海域へ運搬される微生物バイオマスの輸送フラックス, *Nippon Suisan Gakkaishi*, 68, 738-739.

金井 豊 (独立行政法人 産業技術総合研究所深部地質環境研究センター 地球化学チーム)

原著論文

- 1) 金井 豊・山室 真澄・井内美郎・徳岡隆夫：島根・鳥取県中海における堆積速度と堆積環境, *地球化学*, 36, 161-178.

口頭発表

- 2) 金井 豊：底質における放射性核種の蓄積, 第46回放射化学討論会.

松岡 篤（新潟大学理学部地質科学教室）

原著論文

- 1) Wang, Y., Yang, Q., Matsuoka, A., Kobayashi, K., Nagahashi, T. and Zeng, Q.: Triassic radiolarians from the Yarlung Zangbo Suture Zone in the Jinlu area, Zetang County, southern Tibet. *Acta Micropalaeont. Sinica*, 19, 215-227.
- 2) Yang, Q., Matsuoka, A. and Wang, Y.: Progress in radiolarian micropaleontological studies of southern Tibet. *Acta Micropalaeont. Sinica*, 19, 105-111.
- 3) Matsuoka, A., Yang, Q., Kobayashi, K., Takei, M., Nagahashi, T., Zeng, Q. and Wang, Y.: Jurassic-Cretaceous radiolarian biostratigraphy and sedimentary environments of the Ceno-Tethys: records from the Xialu Chert in the Yarlung-Zangbo Suture Zone, southern Tibet. *Jour. Asian Earth Sci.*, 20, 277-287.
- 4) 松岡篤：現生放散虫研究の手法と研究機器、化石, 71, 19-27.

その他の論文

- 5) Kurita H. and Matsuoka, A.: Sediment reworking into the Pleistocene Sawane Formation at Shichiba, Sado Island, Niigata, Japan: A view from dinoflagellate cyst assemblages. *Sci. Rep., Niigata Univ., Ser. E (Geology)*, No. 17, 43-57.
- 6) Tamura, K., Sakamoto, T., Yabe, H., Matsuoka, A., Niikawa, I., Tateishi, M., Hasegawa, S., Yoshida, K. and Shinzawa, M.: Bottom sediments and benthic faunas off Tassha in Sado Island, Niigata Prefecture, central Japan. *Sci. Rep., Niigata Univ., Ser. E (Geology)*, 17, 27-41.
- 7) Matsuoka, A., Shinzawa, M., Yoshida, K., Machidori, S., Kurita, H. and Todo, T.: Early summer radiolarian fauna in surface waters off Tassha, Aikawa Town, Sado Island, central Japan, *Sci. Rep., Niigata Univ., Ser. E (Geology)*, 17, 17-25.
- 8) 西 弘嗣・北里 洋・松岡 篤：総論：古海洋学の最近の進展と古生物学.-地球史における海洋環境研究の最前線-, 月刊地球, 24, 6, 377-380.
- 9) 松岡 篤：放散虫オーシャン（古生代～中生代）の古海洋学, 月刊地球, 24, 6, 444-448.
- 10) 待鳥 晓・栗田裕司・松岡 篤：GH01航海で採取されたオホーツク海表層堆積物中の生物遺骸群集. 池原研(編)千島弧-東北日本弧会合部の海洋地質学的研究, 平成13年度研究概要報告書-オホーツク海南西海域-, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 180-191.

斎藤 文紀（独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ）

原著論文

- 1) Lu, H. Y., Liu, Z. X., Berne, S., Liu, B. Z., Saito, Y., Li, T. G., and Wu, N. Q.: 2万年来我国東部海陸環境変化の不同歩現象, 海洋地質与第四紀 地質, 22, 17-23.
- 2) Li, T. G., Liu, Z. X., Hall, M. A., Saito, Y., Berne, S., Cang, S. X. and Cheng, Z. B.: A broad deglacial delta 13C minimum event in planktonic foraminiferal records in the Okinawa Trough, *Chinese Science Bulletin*, 47, 599-603.
- 3) Hori, K., Saito, Y., Zhao, Q. and Wang, P.: Architecture and evolution of the tide-dominated Changjiang (Yangtze) River delta, China. *Sedimentary Geology*, 146, 249-264.
- 4) Uehara, K., Saito, Y. and Hori, K.: Paleotidal regime in the Changjiang (Yangtze) Estuary, the East China Sea, and the Yellow Sea at 6 ka and 10 ka estimated from a numerical model, *Marine Geology*, 183, 179-192.
- 5) Yang, Z., Saito, Y., Liu, B., Zhang, J., and Wang, H.: Decadal and millennial time-scale changes of water and sediment discharge of the Huanghe (Yellow River) caused by human activities, *LOICZ Report & Studies no.26*, 118-121.
- 6) Saito, Y., Chen, Z., Li, J., Shen, H., and Hori, K.: Decadal and millennial time-scale changes of water and sediment discharge of the Changjiang (Yangtze River) caused by human activities. *LOICZ Report & Studies no. 26*, 122-124.
- 7) Thanh, T. D., Huy, D. V., Nguyen, V. L., Ta, T. K. O., Tateishi, M., and Saito, Y.: The impacts of human activities on Vietnamese rivers and coasts. *LOICZ Report & Studies no. 26*, 179-184.
- 8) Hanebuth, T. J. J., Stattegger, K., and Saito, Y.: The stratigraphic architecture of the central Sunda Shelf (SE Asia) recorded by shallow-seismic surveying, *Geo-Marine Letters*, 22, 86-94.
- 9) Ta, T. K. O., Nguyen, V. L., Tateishi, M., Kobayashi, I., Tanabe, S. and Saito, Y.: Holocene delta evolution and sediment discharge of the Mekong River, southern Vietnam, *Quaternary Science Reviews*, 21 (16-17), 1807-1819.
- 10) Ta, T. K. O., Nguyen, V. L., Tateishi, M., Kobayashi, I., Saito, Y. and Nakamura, T.: Sediment facies and late Holocene progradation of the Mekong River Delta in Bentre Province, southern Vietnam: an example of evolution from

12. 客員研究員名簿および業績

- a tide-dominated to a tide- and wave-dominated delta, *Sedimentary Geology*, 152, 313-325.
- 11) Hori, K., Saito, Y., Wang, P. and Zhao, Q.: Evolution of the coastal depositional systems of the Changjiang (Yangtze) River in response to Late Pleistocene-Holocene sea-level changes, *Journal of Sedimentary Research*, 72, 884-897.
 - 12) Hori, K., Saito, Y., Wang, P. and Zhao, Q. : Control of incised-valley fill stacking patterns by accelerated and decelerated sea-level rise : Changjiang example during the last deglaciation, *Geo-Marine Letters*, 22, 127-132.
 - 13) Lu, H. Y., Liu, Z. X., Wu, N. Q., Berne, S., Saito, Y., Liu, B. Z. and Wang, L. : Rice domestication and climate change : phytolith evidence from East China, *Boreas*, 31, 378-385.

その他

- 14) 斎藤文紀：黄河デルタにおける近年の環境変動. 2001年度持続性学プロジェクト報告書「アジアの気候変動とその影響：気候変動と海面上昇」名古屋大学環境学研究科, 9-12.
- 15) 斎藤文紀・堀和明・片山肇・金井豊・松岡數充：海底堆積物を用いた長期・短期の海洋環境変遷の把握に関する研究. 環境省地球環境研究総合推進費終了研究報告書「東シナ海における長江経由の汚染・汚濁物質の動態と生態系影響に関する研究」, 国立環境研究所等, 17-32.
- 16) 松浦浩久・栗本史雄・吉田史郎・斎藤文紀・牧本博・利光誠一・巖谷敏光・駒澤正夫・広島俊男：20万分の1地質図「岡山及丸亀」. 地質調査総合センター/産業技術総合研究所.
- 17) 斎藤文紀・村上文敏・木下泰正・田中明子・鈴木祐一郎・大久保泰邦・立石雅昭・海津正倫・平井幸弘・春山成子：沿岸自然環境への影響評価と適応策に関する研究. 地球環境研究総合推進費平成13年度研究成果一中間成果報告集(1/全4分冊), 環境省地球環境研究局研究調査室, 152-157.
- 18) Saito, Y., Tanabe, S., Sato, Y., Suzuki, Y.: Holocene evolution of the Lower Central Plain of Thailand. *Proceedings of the International Symposium on Geology of Thailand*, DMR, Thailand, 196-200.
- 19) 斎藤文紀：「Anthropocene」の時代へ, 第四紀通信, 9 (4), 17.
- 20) 斎藤文紀：アジアのデルタに関する国際ワークショップ, AIST Today, 2 (7), 33.

池原 研 (産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門)

著書

- 1) 池原研：日本列島第四紀における環境変遷, 環境年表2002/2003, 211-219, オーム社.
- 2) 下川浩一・池原研：堆積物に残された古地震, 日本海東縁の活断層と地震テクトニクス, 95-108, 東大出版.

原著論文

- 3) 川村喜一郎・池原研・金松敏也・藤岡換太郎：パレスベラ海盆から採取されたタービダイトの帶磁率異方性による古流向解析, 地質学雑誌, 108, 207-218.
- 4) Kitamura, A., Kawakami, I., Okamoto, F., Ikebara, K., Noda, A. and Katayama, H.:Distribution of mollusc shells in the Sea of Okhotsk, off Hokkaido. *Bulletin of the Geological Survey of Japan*, 53, 5/6, 483-558.
- 5) Oda, H., Nakamura, K., Ikebara, K., Nakano, T., Nishimura, M. and Khlystov, O. : Paleomagnetic record from Academician Ridge, Lake Baikal:a reversal excursion at the base of marine oxygen isotope stage 6, *Earth and Planetary Science Letters*, 202, 117-132.

その他の論文

- 6) Ikebara, K., Komori, J., Shimada, C., Katayama, H. and Noda, A. : Late Holocene marine environmental changes and its relation to climatic changes in the southwestern Okhotsk Sea, *Proceedings of 17th International Symposium on Okhotsk Sea & Sea Ice*, 98-103.
- 7) 片山肇・池原研・山本博文・倉本真一：日本海の海底地質, 地質ニュース, 570, 28-30.
- 8) Okamura, Y., Satake, K., Takeuchi, A., Gamo, T., Kato, C., Sasayama, Y., Nanayama, F., Ikebara, K. and Kodera, T. : Tectonic, geochemical and biological studies in the eastern margin of the Japan Sea -preliminary results of Yokosuka/Shinkai 6500 YK01-06 Cruise-, *JAMSTEC J. Deep Sea Res.*, 20, 77-114.
- 9) 川村喜一郎・池原研・藤岡換太郎・金松敏也：海成自然堆積土の圧密による微細構造と物性の変化～フィリピン海の遠洋性粘土の例～, 粘土地盤における最新の研究と実際－微視的構造の観察から超軟弱埋立て地盤対策技術まで－に関するシンポジウム発表論文集, 123-130.

- 10) 池原研：底質採取，海洋調査，70，14-23.

公文富士夫（信州大学理学部物質循環学科）

論文

- 1) Adhikari, D. P. Kumon, F. and Kawajiri, K. : Holocene climate variability as deduced from the organic carbon and diatom records in the sediments of Lake Aoki, central Japan, Jour. Geol. Soc. Japan, 108, 249-265.

著書

- 2) 公文富士夫・井内美郎：仁科三湖の地形と堆積物から見た糸－静線の活動像，塙原弘昭編著，地震と防災，信濃毎日新聞社，89-106.

その他・講演要旨

- 3) Kumon, F., Kawai, S. and Inouchi, Y. : Climate change from 25,000 to 6,000 years BP deduced from total organic carbon, total nitrogen and pollen analyses of the drilled sediments at Lake Nojiri, central Japan, 16th ISC, Abstract Vol., 203.
- 4) 公文富士夫・金丸絹代：気候が堆積物中の全有機炭素・窒素量に及ぼす影響－木崎湖の例，地球惑星関連学会2002年合同大会予稿集（CD-ROM版），L023.
- 5) 公文富士夫・田原敬治：信州，松原湖の湖底堆積物－大月川岩屑流の年代との関係－，日本地質学会109年学術大会講演要旨集，198.
- 6) 公文富士夫・河合小百合・井内美郎：野尻湖底ボーリング試料の有機炭素・窒素量と花粉組成の変動からみた最終表記後半から完新世にかけての気候変動，日本第四紀学会講演要旨集，32，178-179.

吉川 周作（大阪市立大学大学院理学研究科）

- 1) Masuda, F., Irizuki, T., Fujiwara, O., Miyahara, B. and Yoshikawa, S. : A Holocene sea-level curve constructed from a single core at Osaka, Japan (A preliminary note), Memoirs Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral., 59, 1-8.
- 2) 吉川周作・山崎秀夫・稻野伸哉：大阪市および周辺域における過去約200年間の重金属汚染の歴史。大阪堆積盆地第四系の岩相層序と高精度編年，人工地層と自然地層の境界・人自不整合問題シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，49-53.
- 3) Kuwae, M., Yoshikawa, S. and Inouchi, Y. : A diatom record for the past 400ka from Lake Biwa in Japan correlates with global paleoclimatic trends, Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 183, 261-274.
- 4) 小林 岳・内山美恵子・三田村宗樹・吉川周作・Muslim, D. : 大阪平野地下第四系の反射法地震探査層序と地質岩相層序との関係，シンポジウム「コア精密対比による京阪神地域の地下地質・地質構造の高精度解読」，コア精密対比研究会・応用地質学会関西支部，87-99.
- 5) 水谷陸彦・中川康一・吉川周作：大阪市大手前ボーリングコアの花粉生層序，「コア精密対比による京阪神地域の地下地質・地質構造の高精度解読」コア精密対比研究会・応用地質学会関西支部，51-60.
- 6) 吉川周作：大阪堆積盆地第四系の岩相層序と高精度編年，「コア精密対比による京阪神地域の地下地質・地質構造の高精度解読」コア精密対比研究会・応用地質学会関西支部，1-13.
- 7) Kobayashi, G., Mitamura, M., Yoshikawa, S., Katoh, S. and Hyodo, M. : Stratigraphy of the GS-K2 and GS-K3 drilling cores in the northwestern part of the Osaka sedimentary basin, Southwestern Japan, Journal of Geoscience, Osaka City University, 45, 101-123.
- 8) 梶木玲美・吉川周作・後藤敏一：溜池堆積物に記録された過去200年間の水域環境変遷史－大阪府高槻市小寺池の例－，第四紀研究，41，161-170.
- 9) Yasuhara, M., Irizuki, T., Yoshikawa, S. and Nanayama, F. : Changes in Holocene ostracode faunas and depositional environments in the Kitan Strait, southwestern Japan, Paleontological Research, 6, 85-99.

長谷川修一（香川大学工学部安全システム建設工学科）

原著論文

- 1) Hasegawa, S., Miki, S., Yoshida, Y. and Nakagawa, K. : Evaluation of Large-scale Rock Mass Slides by Seismic

- Tomography and Tunneling data, Proc. of NARMS-TAC 2002, 421-424.
- 2) Hasegawa, S. and Finn W. D. L.: Seismic hazard in Takamatsu Japan from fault trenching and palaeo-liquefaction studies, Soil Dynamics and Earthquake Engineering, Elsevier, 22, 901-909.
 - 3) 矢田部龍一・横田公忠・細木康夫・長谷川修一：松山豪雨災害の特性に関する検討，土木学会四国支部「豪雨と地震による土砂災害論文集」，17-20。
 - 4) 長谷川修一・菅原大介：1707年宝永地震による讃岐五剣山の山体崩壊，土木学会四国支部「豪雨と地震による土砂災害論文集」，21-28。

その他論文

- 5) 長谷川修一：四国の地すべりの素因としての中期中新世熱水変質作用，日本地すべり学会関西支部現地討論会「和泉層群の地すべりと監視モデル」，1-12。
- 6) 長谷川修一：四国の地質現象の黒幕としての中期中新世珪長質火成岩体，日本応用地質学会平成14年度研究発表会講演論文集，23-26。
- 7) 長谷川修一・澤田臣啓：熱水破碎帯の特徴と応用地質学的な留意点，日本応用地質学会平成14年度研究発表会講演論文集，27-30。
- 8) 渡辺弘樹・田中秀実・長谷川修一：讃岐山脈北麓断層系に沿う中期中新世熱水変質作用，日本応用地質学会平成14年度研究発表会講演論文集，31-32。
- 9) 池田倫治・大野裕記・大野一郎・長谷川修一・岡田篤正：四国西部地域のMTL活断層系の断層分布と地下構造との関係，日本応用地質学会平成14年度研究発表会講演論文集，161-164。
- 10) 菅原大介・長谷川修一：1707年宝永地震による讃岐五剣山の山体崩壊，日本応用地質学会平成14年度研究発表会講演論文集，317-320。

仲谷 英夫（香川大学）

原著論文

- 1) Hyodo, M., Nakaya, H., Urabe, A., Saegusa, H., Xue Shunrong, Yin Jiyun, and Ji Xuepin : Paleomagnetic dates of hominid remains from Yuanmou, China, and other Asian sites Journal of Human Evolution, 44 (1), 27-41.
- 2) 仲谷英夫・三枝春生・國松豊・Benjavun Ratanasthien : タイ北部中新世哺乳類動物群の比較とその地質年代. 靈長類研究, 18 (2), 131-141.

その他の論文

- 3) Kuminatsu, Y., Ratanasthien, B., Nakaya, H., Suganuma, H., Nagaoka, S. and Yabe, A. : In search of fossil hominoids in northern Thailand Anthropological Science, 110 (1), 92.
- 4) Suwa, G., Nakaya, H., Asfaw, B., Beyene, Y., Katoh, S. : The Plio-Pleistocene large mammal fauna and paleoenvironments of Konso Anthropological Science, 110 (1), 94.
- 5) Nakaya, H., Hyodo, M., Saegusa, H., Urabe, A., Xue Shunrong, Yin Jiyun, and Ji Xuepin : Geological age and paleoenvironments of Homo erectus from Yuanmou, Yunnan, south China Anthropological Science, 110 (1), 94.
- 6) Kuminatsu, Y., Ratanasthien, B., Nakaya, H., Saegusa, H. and Nagaoka, S. : News from the Far East -Recent activity on Neogene hominoid research in Southeast Asia, Proceedings of International Workshop -Origins of Hominids from Samburupithecus to Ororin, 6.
- 7) Nakaya, H., Saegusa, H., Kuminatsu, Y., Ratanasthien, B., Chintakul, P., Nagaoka, S. : Late Cenozoic mammalian biostratigraphy of Thailand. Proceedings of International Workshop --Origins of Hominids from Samburupithecus to Ororin, 10.
- 8) Nakaya, H., Saegusa, H., Ratanasthien, B., Kuminatsu, Y., Nagaoka, S., Suganuma, Y. : Neogene mammalian biostratigraphy of Thailand. Journal of Vertebrate Paleontology, 22 (3) Suppl., 91A.
- 9) Nakaya H., Saegusa H., Kuminatsu Y., Ratanasthien B., Chintakul P., Nagaoka S. : Late Cenozoic mammalian biostratigraphy and age of hominoids from Thailand, Proceedings of COE International Symposium "Evolution of the apes and the origin of the human beings", 99.
- 10) Kuminatsu Y., Ratanasthien B., Nakaya H., Saegusa H., Nagaoka S. : First finding of Miocene hominoids from Thailand. Proceedings of COE International Symposium "Evolution of the apes and the origin of the human beings", 103.

松岡數充（長崎大学水産学部海洋資源動態科学講座）

- 1) 松岡數充：食物連鎖からみた生態系の変遷-一次生産者の史的変遷-. 月刊海洋, 24巻, 449-454.
- 2) Iwataki, M., Takayama, H., Matsuoka ;, K. and Fukuyo , Y. : *Heterocapsa lanceolata* sp. nov. and *Heterocapsa horiguchii* sp. nov. (Peridiniales, Dinophyceae), two new marine dinoflagellates from coastal Japan. *Phycologia*, 41 (5), 470-479.
- 3) Matsuoka, K. : Implication of cyst morphology to dinoflagellate taxonomy. *Fisheries Sceince*, 68, Supl., 1,507-510.
- 4) Iwataki, M., Ming Wah Wong and Fukuyo, Y. : New record of *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae) from Hong Kong. *Fisheries Science*, 68 (5), 1161-1163.
- 5) Iwataki, M., Takayama, H., Matsuoka, K., Hiroishi, S. and Fukuyo, Y. : Taxonomic study on *Heterocapsa* with special reference to their body scale ultrastructure. *Fisheries Science*, 68 (Supplement I), 631-632.
- 6) Kim C. -H., Cho, H. -J., Shin, J. -B., Moon, C. -H. and Matsuoka, K. : Regeneration from hyaline cysts of *Cochlodinium polykrikoides* (Gymnodiniales, Dinophyceae), a red tide organisms along the Korean coast. *Phycologia*, 41, 667-669.
- 7) 松岡數充：諫早湾における赤潮原因プランクトンの最近の変化. 月刊海洋, 34, 246-251.
Kato, M., Tanimura, Y., Matsuoka, K., and H. Fukusawa : Planktonic diatoms from sediment traps in omura bay, western Japan with implications fro ecological and taphonomic studies of coastal marine environments. *Quaternary International*, 105, 25-31.

学会等発表

- 8) 松岡數充：渦鞭毛藻化石からみた有明海・諫早湾の過去数十年間の環境変化. ワークショッピング「九州の第四紀学を考える」, 福岡大学セミナーハウス, 2002年6月.
- 9) Fujii, R. and Matsuoka, K. : The occurrence of a toxic dinoflagellate *Gymnodinium catenatum* Graham in surface sediments of the western Japan. 26th annual and 50th anniversaly congress of Japanese Society of Phycology and 3rd Asian Pacific Phycological Forum Joint Conference, Tsukuba, Japan, July, 2002
- 10) Iwataki, M., Takayama, H., Matsuoka, K. and Fukuyo, Y.: Morphological variations of body scale and implication for taxonomy of *Heterocapsa*(Dinophyceae). 26th annual and 50th anniversaly congress of Japanese Society of Phycology nd 3rd aAsian Pacific Phycological Forum Joint Conference, Tsukuba, Japan, July, 2002.
- 11) Matsuoka, K.:History of a toxic dinoflagellate, *Gymnodinium catenatum* Graham in Japan. 3rd International Congress "Environmental Micropaleontology, Microbiology and Meiobenthology, Vienna, Austria, September, 2002.
- 12) 松岡數充：諫早湾における赤潮原因プランクトンの最近の変化. 2002年度日本プランクトン学会大会, 北海道大学水産学部, 2002年9月
- 13) 吉田 誠・岩滝光儀・松岡數充：可視励起光を用いた有殼渦鞭毛藻の蛍光顕微鏡観察. 2002年度日本プランクトン学会大会, 北海道大学水産学部, 2002年9月
- 14) Yoshida, M., Iwataki, M., Fukuyo, Y., Matsuoka, K., and Kodama, M. : Creation of portable incubation chamber for phytoplankton. The 10th International Conference on Harmful Algae. St. Petersburg, Florida, USA, Oct. 21-25, 2002
- 15) Matsuoka, K. ; Taxonomic status of *Cochlodinium polykrikoides* Margalef (Dinophyceae). Workshop on Red Tide Monitoring in Asian Coastal Waters, March 10-12, the Univrsity of Tokyo.
- 16) 岩滝光儀・高山晴義・吉田 誠・松岡數充：条線様構造を持つ光合成性無殼渦鞭毛藻1種の形態と分類. 日本藻類学会第27回大会, 三重大学生物資源学部, 2003年3月

その他

- 17) Fujii, R. and Matsuoka, K. : The occurrence of a toxic dinoflagellate *Gymnodinium catenatum* Graham in surface sediments of the western Japan. Proceedings of the 7th Joint Symposium of Nagasaki University and Cheju National University on Science and Technology, 163-166.
- 18) 松岡數充：アカシオ・サンガイネア-有害・有毒プランクトンの生態-. 月刊養殖12月, 37

12. 客員研究員名簿および業績

本座 栄一（熊本大学大学院自然科学研究科）

原著論文

- 1) 竹友祥平・本座栄一：大分県大分市鶴崎台地周辺の碁南層群・大分層群の地質，大分地質学会誌，8，25-44.

前田 広人（鹿児島大学水産学部資源利用科学講座）

- 1) Okunishi S., N. Yoshimura, H. Maeda, T. Yoshikawa and T. Sakata: The isolation and characterization of a cyanophage infecting cyanobacterial picoplankton, *Synechococcus* sp. from Kagoshima Bay, Microbes and Environments, 17 , 148-152.

著書

- 2) 和田 実・中島美和子・前田広人：粘土散布による赤潮駆除、「有害・有毒藻類ブルームの予防と駆除」水産学シリーズ134, 広石伸互・今井一郎・石丸 隆編, 恒星社厚生閣, 東京, 121-133.

13. 運営委員会



委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	丹下 晴喜	法文学部教授
委 員	家山 博史	教育学部教授
委 員	堀内 正嗣	医学部教授
委 員	山口 正隆	工学部教授
委 員	脇本 忠明	農学部教授
委 員	中島 敏幸	理学部助教授
委 員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	井内 美郎	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	鈴木 聰	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	上田 拓史	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	中野 伸一	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	大和田和平	総務部長 (官職指定)

14. センター規程および運営委員会規程



愛媛大学沿岸環境科学研究センター規程

平成11年4月14日

規則第111号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学学則第8条の2第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究分野)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究分野を置く。

- (1) 環境動態解析分野
- (2) 生態環境計測分野
- (3) 生態系解析分野
- (4) 環境影響評価予測分野

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学学術審議会（以下「学術審議会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学の専任教員のうちから学術審議会が推薦し、学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、学術審議会が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(中島マリンステーション)

第13条 センターに、附属施設として中島マリンステーション（以下「施設」という。）を置く。

2 施設に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成11年4月14日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第7条第2項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年12月11日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成11年4月14日

規則第105号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規程第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任講師以上の専任教員

(3) 各学部の専任教員 各1人

(4) 総務部長

(5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成11年4月14日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

2 この規程の施行後最初に任命される第3条第1項第3号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

附 則

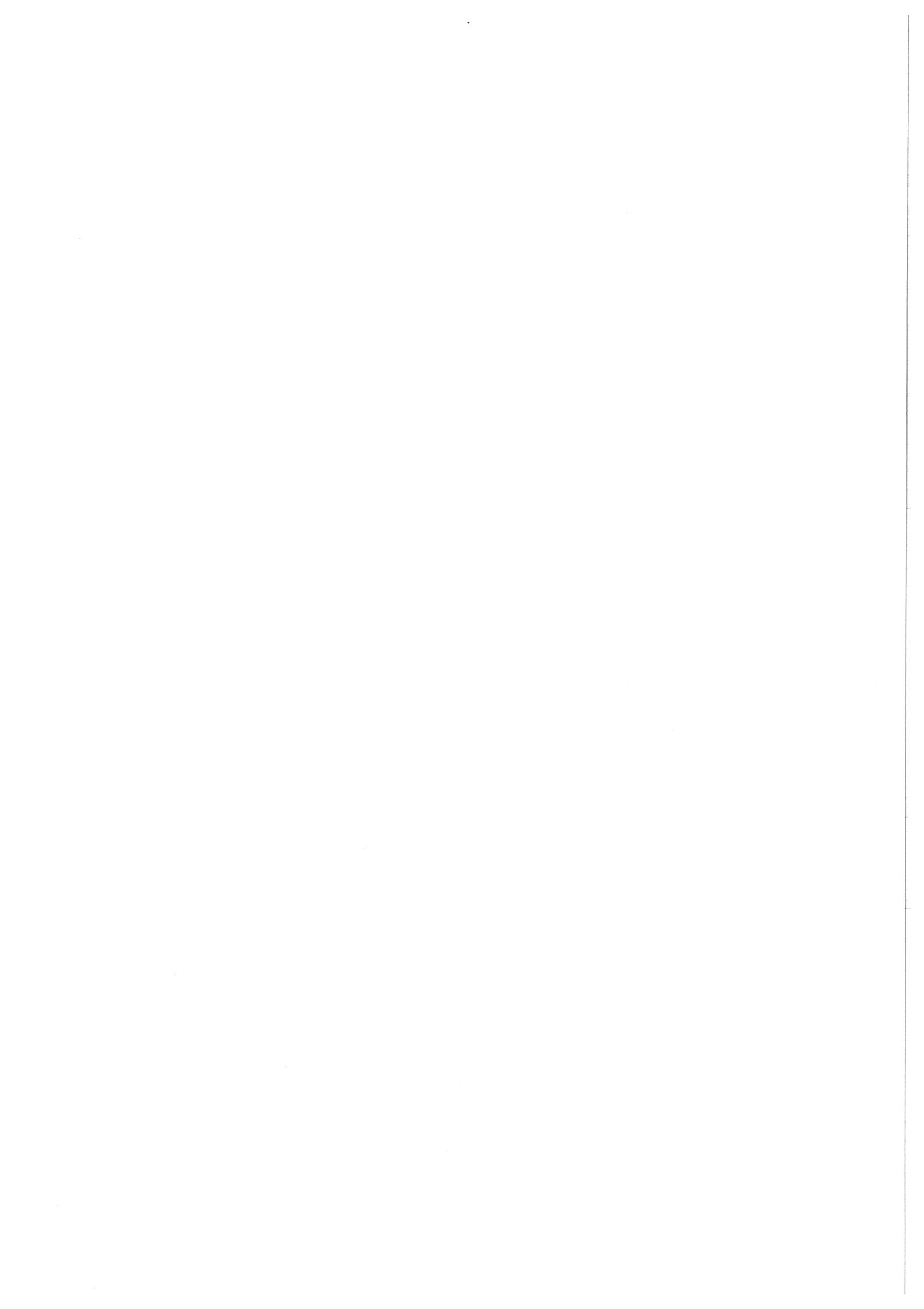
この規程は、平成12年4月1日から施行する。

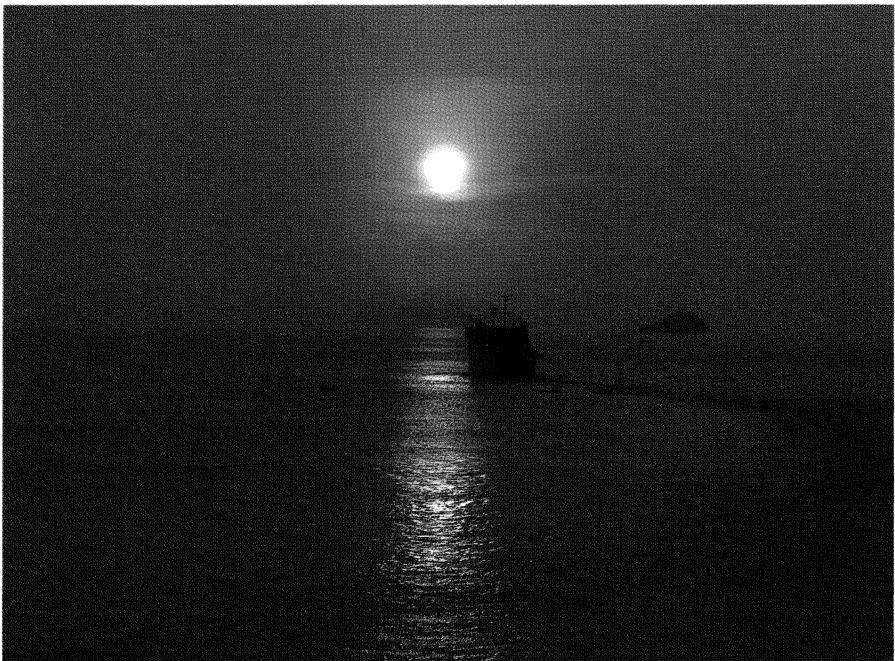
附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

発行 2003年7月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究中心
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印刷 創風社出版
表紙デザイン：大森 浩二
表紙の「COE」は、21世紀 COE「沿岸環境科学研究中心」
のロゴマークです。
裏表紙写真：スンダ海峡（インドネシア）

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。





2-5 BUNKYO-CHO, MATSUYAMA, EHIME 790-8577, JAPAN